

富山大学教育学部共同教員養成課程
金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目 次

(1) 学生確保の見通し	p. 2
① 入学定員の設定の考え方	p. 2
② 定員充足の見込み	p. 7
③ 教員需要について	p. 11
(2) 学生納付金の設定の考え方	p. 12
(3) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	p. 13
(4) 人材需要の動向等社会の要請	p. 13

(1) 学生確保の見通し

① 入学定員の設定の考え方

本課程の元となる富山大学人間発達科学部及び金沢大学人間社会学域学校教育学類では、出身県内での教員を希望する学生が大半であることを踏まえ、卒業生を安定して小中学校教員として送り出していくためには、富山・石川両県の教員需要の変化を見据えた入学定員規模の設定が必要である。

入学定員の設定の基になるのは、両県の教員需要であり、少子化と定年退職教員の減少という現実を基に、今後の小学校の 35 人学級の導入、特別支援学級の増加を考慮して、将来的な教員採用枠を推計する。

なお、推計に当たっては、富山大学及び金沢大学による共同教員養成課程であり、双方の大学とも富山県・石川県出身者の学生の比率が高く結びつきが強いことから、分析においては過去の実績から便宜的に各大学単位で行った。

●富山大学側の入学定員について

少子化による必要教員数の減少という流れはあるものの、少人数学級の増加、特別支援学級の増加といった要素もあり、一概に少子化に比例して教員採用数が減少するとは言い難い（資料 A1-1）ことから、各県の教員退職者数を教員需要ととらえ算定する。

令和元年度の富山県教育委員会の資料によると、令和 4 年度入学者が卒業する令和 7 年度末の富山県公立学校の退職者数は、小学校 83 名、中学校 46 名、特別支援学校 20 名の計 149 名と、高等学校 69 名であり、国立大学法人の第 4・5 期中期目標（令和 4～15 年度）期間中の教員退職者数が最も少なくなる令和 12 年度は、小学校 41 名、中学校 37 名、特別支援学校 19 名の計 97 名と、高等学校 26 名である（資料 A1-2）。

東海北陸地区の総合大学における教員養成学部のミッションの再定義では、各県の小学校教員占有率が 21～47%となっており、共同教育課程を設置し、高度な教育を展開することにより、富山県の教員採用での占有率を 40%と設定する。これにより富山県内においては、今まで富山大学人間発達科学部の教員養成の中心であった小学校、中学校、特別支援学校において 39 名の教員需要があると考えた（資料 A1-3）。これまで、保育士就職者数の平均が 9 名程度であることから、幼稚園教諭免許を取得して就職する者は、少子化の影響を考慮しても半数程度の 4 名を見込む（資料 A1-4）。

過去 5 年間（平成 27 年度～令和元年度）に富山県で教員となることを希望して富山県公立学校教員採用試験を受験した者は平均 34.8 名であり（資料 A1-5）、主に富山県出身者となっている。この人数は富山県の教員採用での想定占有率 40%から算定した小学校、中学校、特別支援学校において 39 名の教員需要と同程度となる。今後の 18 歳人口の減少から教員を志望する志願者の絶対数の減少も考えられるが、後述

するように北陸地域では高卒者の県外、域外への進学が非常に多く、特に富山県や福井県においては大学進学者の収容力が50%程度と低いため、共同教員養成課程（仮称）を設置し、その魅力をアピールすることで富山県や北陸地域で教員を志望する学生の入学を促すことができ、富山県や北陸地域で小学校・中学校・特別支援学校の教員となることを希望する学生の数を従来と同程度に維持できると考える。また、過去5年間の高等学校への就職者数は5年間の平均値が1.8名となっており、教員養成機能を強化することで3名程度の就職者数を見込んでいる。

富山大学人間発達科学部は教員養成機能を有した一般学部であるため、入学定員170名のすべての学生が教員を志望しているわけではない。過去の卒業生全体に占める教員就職率（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）は、平成21年度～令和元年度の平均で約34.8%であった。その他は、一般企業、官公庁、保育士、社会福祉士への就職や大学院進学者であった（資料A1-4）。しかしながら、過去5年間（平成27年度～令和元年度）で毎年度97～119名の学生が教員免許を取得しており、教員採用試験実受験者数は5年間の平均値が63.4名で、その合格率は約62.5%であった。そのうち富山県公立学校教員採用試験実受験者数は5年間の平均値が34.8名で、その合格率は約71.8%となっており、特に地元である富山県での公立学校教員採用試験の合格率は非常に高いと言える（資料A1-5）。これは、富山県教育委員会との連携の下、地元富山県での実情に合わせた教員養成が実現できているからであると考えられる。一方で、富山県以外での教員採用試験の合格率が富山県に比してやや低いことは、これまでの学部の課題であった。そこで、金沢大学とともに現代的教育課題に対応できる質の高い教員養成を目指す共同教員養成課程（仮称）を設置し、次世代の児童・生徒を育てる、社会が要請する教員を輩出する体制を構築することで、入学時から教員志望の強い優秀な学生を確保し、入学者全員を石川県も含めた他県においても十分に通用する資質・能力を備えた教員として養成することが可能になると考えている。

県外の教員需要を検討するにあたって、富山大学人間発達科学部における入学者の都道府県別割合を見てみると、過去5年の平均で、1位富山県40%、2位石川県25%、3位福井県6%、4位長野県5%、5位新潟県4%となっており、上位3県で約71%（教員養成の中心となっている発達教育学科では76%）を占めている（資料A1-6）。また、富山大学人間発達科学部の過去5年の教員採用試験合格者の実績では、全国の公立学校への教員就職者数の5年間の平均値が37.6名であるのに対し、富山県の公立学校への教員就職者数の5年間の平均値が23.6名、同じく石川県で10.8名、福井県で1.0名となっている。富山県、石川県、福井県での教員就職者数が全体の9割以上を占めていることから（資料A1-5）、富山大学人間発達科学部に教員を志望して入学してくる優秀な学生は、この3県に集中していることがわかる。

この富山、石川、福井の3県での教員需要の見通しとして、先程の富山県教育委員会提供の資料では比較が困難であるため、令和元年度 学校教員統計調査 都道府県別 年齢別 本務教員数の資料から推計すると、令和4年度入学者が卒業する令和7

年度の富山県公立学校の退職者数が316名（小学校113名、中学校80名、高等学校92名、特別支援学校31名）であり、国立大学法人の第4・5期中期目標（令和4～15年度）期間中の教員退職者数が最も少なくなる令和14年度で143名（小学校47名、中学校47名、高等学校27名、特別支援学校22名）である。そして、令和7年度から第5期中期目標期間終了時の令和15年度までの退職者数の平均は、約182.8名（小学校62.9名、中学校48.9名、高等学校44.9名、特別支援学校26.1名）となっている。石川県では、令和7年度の石川県公立学校の退職者数が251名（小学校95名、中学校51名、高等学校77名、特別支援学校28名）であり、令和4～15年度の教員退職者数が最も少なくなる令和9年度で120名（小学校46名、中学校32名、高等学校28名、特別支援学校14名）である。福井県では、令和7年度の福井県公立学校の退職者数が251名（小学校113名、中学校69名、高等学校44名、特別支援学校25名）であり、令和4～15年度の教員退職者数が最も少なくなる令和15年度で144名（小学校60名、中学校35名、高等学校32名、特別支援学校17名）である（資料A1-7、C2）。そして、令和4～15年度の富山、石川、福井の3県の教員退職者数の合計が最小となるのは令和15年度で、449名と想定される。

過去5年間（平成27年度～令和元年度）の富山大学人間発達科学部の石川県での教員採用試験の受験者数は5年間の平均値が20.0名、福井県での教員採用試験の受験者数は5年間の平均値が3.6名であり、共同教員養成課程により石川県、福井県の学生に魅力をアピールすることにより、石川県での教員志望学生25名、福井県での教員志望学生5名となることを見込んでいる。また、教員を志望して入学してくる学生は富山県、石川県、福井県が中心であったことから、共同教員養成課程になることで、それ以外の都道府県から入学を志望する学生が減少することが想定される。現在、富山大学人間発達科学部の志願者、入学者の都道府県別割合から、入学者に占める富山県出身者の割合は約40%であるが、50%程度になることを見込み、富山県、石川県、福井県以外の出身者は9名程度と想定する。

この石川県出身者の25名が石川県で教員として採用された場合、令和7年度の石川県の教員退職者数251名の10.0%、令和7年度から令和15年度の石川県の教員退職者数の平均159.6名の15.7%となることが想定される。また、福井県出身者の5名は、令和7年度の福井県の教員退職者数251名の2.0%、令和7年度から令和15年度の福井県の教員退職者数の平均181.2名の2.8%となることが想定される。このことから、共同教育課程の富山大学としての石川県での25名、福井県での5名の教員養成数は、適切な規模と考えられる。

さて、富山大学人間発達科学部では、過去5年間の一般選抜前期の富山県出身の志願者数の平均は103.4名、入学者は43.8名で倍率2.4倍、石川県出身の志願者数は平均62.8名、入学者は24.8名で倍率2.5倍、福井県出身の志願者数は平均15.6名、入学者は7.6名で倍率2.1倍となっている（資料A1-8）。

共同教員養成課程（仮称）の富山大学側の定員を現在の富山大学人間発達科学部の定員 170 名の 1/2 の 85 名とすることで、3 県の出身学生の志願倍率は 4.0 倍以上となり、教員志望の強い優秀な学生を選抜し、入学させることができる。これまでも富山大学人間発達科学部の学生は、前述したように教員採用試験の合格率が高い。また、その能力も、富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科卒業（修了）生の就職先調査（小学校教員採用者対象）によれば、本学の卒業（修了）生の社会人としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）、教員としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）であり、すべての項目において平均 2.5 以上と評価が高い（資料 A2）。

富山大学人間発達科学部が新たに教員養成学部生まれかわり、定員が従来の半分になって志願倍率が高くなることを考慮にいと、上で述べた富山県出身の予想入学者数約 46 名（小・中・特支 39 名、幼 4 名、高 3 名）、石川県出身の予想入学者数約 25 名、福井県出身の予想入学者数約 5 名のレベルの高い学生たちが全員教員となることは、占有率の点を考慮しても十分に可能である。さらに、長野と新潟など他県から 9 名の入学者が、過去の入学者の都道府県別割合に照らして見込まれるが、北陸三県同様に質の高い学生がより高い倍率をくぐりぬけて入ってくることで、これらの県からの入学者は各県数名程度であることから、共同教員養成課程の高いレベルの教育を通じて、全員を教員として就職させることが十分に可能である。については、計 85 名を養成数と想定した。

以上より、入学定員を 85 名と設定することが妥当であると判断した。

●金沢大学側の入学定員について

共同教員養成課程設置予定の令和 4 年度前の令和 3 年度末の石川県公立学校教員退職者数は約 329 名の見込みである（資料 C2）。

令和 4 年度入学者が卒業する令和 7 年度末の退職者は 251 名であり、令和 3 年度末の退職者数を 100 とすると令和 7 年度末の退職者数は 76.3%であり 23.7%退職者数が減少する。すなわち、児童・生徒数が現状のままならば 23.7%分の採用者数が計算上減少する。一方の生徒数について、『石川県 年齢（各歳）別、男女別推計人口（令和元年 10 月 1 日現在）』より算出（推計）した令和 4 年度の石川県小学校・中学校生徒数推計数は 85,333 名であるが、4 年後の令和 7 年度の推計数は 81,589 名となり、3,744 名（4.4%）減少する。特に小学生は令和 4 年度 55,224 名から令和 7 年度 53,259 名と 1,965 名減少（3.6%）する。小学校の 35 人学級は徐々に進行していくうえ、小学校の配置や学級数も一律ではないためあくまで参考に留まるが、1 クラス 35 名学級とすると、1,965 名は約 56 クラス分となり、その分の教員数が不要となる計算である。

児童・生徒数が令和 4 年度のままならば、令和 7 年度末の退職者数 251 名の採用を

維持となるが、56 クラス分の減少となると、令和 8 年度採用者数は計算上 195 名（令和 3 年度末退職者数 329 名の約 59.3%）で済むことになるため、その分共同教員養成課程の定員も削減する必要があるのではないかと見込まれる。

従来、金沢大学人間社会学域学校教育学類においては、定員を 100 名としていた。これは、石川県における教員のうち、小学校教員の占有率が 3 割としたミッションの再定義での記載や、石川県内における小学校の幹部職員の約 3 割が本学の卒業生（ミッションの再定義での明示）であり本学卒業生の質が高い状況にあるため採用者数が減少しても県内採用者の占有率は約 3 割程度になると推察し、教員需要が減少しても石川県内においては、約 58 名の教員採用が見込めると考えたためである。さらに、同学校教育学類では、今後、県外における教員需要も減少すると考え、令和 3 年度入試で定員を 100 名から 85 名に削減した。

隣県である富山県と福井県には、過去 5 年の実績では、両県合わせて年平均 16.8 名が小・中学校教員として正規採用されている（資料 A3）。また、富山県と福井県について入学者が多い新潟県には過去 5 年の実績で年平均 3 名弱が正規採用されている。福井県、富山県の公立学校の教員退職者数の推移は前述のとおりであるが、金沢大学出身者の教員占有率が変わらないと仮定すると、富山・福井両県への小・中学校教員就職者数は両県合わせて 10 名程度と見込まれる。一方、新潟県の小・中学校の教員退職者数は、令和 7 年末で令和 3 年末比の 22%減、その後も 20%程度の減少の時期が続くが（資料 C2）、金沢大学からの教員就職者数が多くないことからそれほど大きな変化はないと見込まれる。

以上は石川県、富山県、福井県、新潟県の、小・中学校の教員需要の動向に基づいた見込みであるが、金沢大学学校教育学類からは県内外の高校教員としてここ 5 年間、毎年 6 名から 8 名の就職がある。また、上記 4 県以外においても、毎年 6 名前後が教員として就職している。高校教員および上記 4 県以外の教員需要も変動があるものの、各県 1 から 2 名程度の数であり、金沢大学に集う学生のレベルの高さを考慮に入れると、共同教員養成課程の充実した教育内容によって教員志望者を育てることで、高校教員 7 名、上記 4 県以外の公立小・中学校教員 7 名の 14 名分を定員に見込むことは十分可能である。

今後、少人数学級の増加、特別支援学級の増加があり、少子化に比例して教員採用数が減少するとは言い難い（資料 A1-1）ことも考慮すると、今後、一定期間、本学が考察した教員需要が推移すると見込み、現在の定員である 85 名が妥当であると考えられる。

富山大学、金沢大学 85 名ずつの定員は、単に教員需要の点から妥当性があるだけでなく、下記(4)で述べているような高い資質能力を持ち、地域の中核となる教員を育て、地域の教育を支えていくという点からも妥当であると考えられる。

このことを踏まえての共同教員養成課程の完成年度までの富山大学、金沢大学の募集人員（入学定員）、各系の入学定員の計画を以下のとおりとする。

富山大学

選抜区分	一般選抜		総合型選抜		特別選抜	帰国生徒選抜	社会人選抜	合計
	前期日程	後期日程	総合型選抜Ⅰ	総合型選抜Ⅱ				
入学年度 (令和)					学校推薦型選抜Ⅱ			
4	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85
5	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85
6	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85
7	62	10	5	3	5	若干名	若干名	85

金沢大学人間社会学域学校教育学類

選抜区分	一般選抜	KUGS特別入試 (総合型選抜Ⅱ)					KUGS特別入試 (学校推薦型選抜Ⅱ)			文系 一括入試	合計
		石川県枠	美術	保健 体育	家政	特別 支援	国語 社会 英語	数理	音楽		
選考 年度 (令和)											
4	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85
5	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85
6	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85
7	58	3	3	5	3	4	2	1	4	2	85

以上より、両大学共同教員養成課程の完成年度までの各年度の入学定員の合計数を170人とする。

② 定員充足の見込み

(志願状況)

富山大学人間発達科学部は、平成17年10月に教育学部から改組し、教員養成機能を持つ一般学部として、発達教育学科と人間環境システム学科の2つの学科で構成されている。平成28年度以降の発達教育学科及び人間環境システム学科の入学試験の競争倍率は、資料B1-1に見られるように、入試全体では2.1～2.9倍であるが、前期日程と後期日程を合わせた一般入試では2.0～2.9倍である。一方、推薦入試においては、2.1～3.3倍と2倍を上回っており、平成29年度と令和2年度は3倍を超えている。

平成28年度以降の金沢大学人間社会学域学校教育学類の入学試験の競争倍率は、資料B1-2に見られるように、入試全体では1.8～2.3倍であるが、前期日程では1.8～2.3倍である。一方、推薦入試においては、専修により1.0倍台から4.0倍までと増減がある。

周辺大学の教育学部の志願状況と比べると、両大学とも志願倍率は少し低いがおおむね 2 倍の安定した倍率であり、富山大学側の定員を 85 名減員することを考慮すると、両大学の入学定員の合計数 170 名は、受験生の学力を評価し、入学者を選抜できるだけの志願状況を維持できると考えられる（資料 B2）。

（地元からの志願状況）

最近 5 ヶ年（平成 28 年～令和 2 年）の富山県内の高校等出身者の内訳を示したものが資料 B3-1 である。富山大学人間発達科学部の場合、全志願者のうち地元からの志願率は約 40～42%程度で、合格者・入学者での富山県内の高校等出身者の比率は、年度により増減はあるものの、ともに平均 40%程度であるが、石川県の高校等出身者を加えた場合、志願率は 65～67%で、合格者・入学者での同比率は、年度により増減はあるものの、60～75%と高い数値を示しており、両県の高校生からの期待度がうかがえる。

この傾向は金沢大学学校教育学類の場合も同様であり、最近 5 ヶ年（平成 28 年～令和 2 年）の石川県内の高校等出身者の内訳を示したものが資料 B3-2 である。金沢大学の場合、地元からの志願率は 45～54%で、合格者・入学者での石川県内の高校等出身者の比率は、年度により増減はあるものの、ともに平均 45%程度であるが、富山県の高校等出身者を加えた場合、志願率は 60～68%で、合格者・入学者での同比率についても、年度により多少増減はあるものの、60～65%と高い数値を示していることから富山県、石川県の高校生の地元志向の高さがうかがえる。

この両大学の状況は、他県（富山県・石川県以外）出身者に比べ学力レベルの高い県内出身者が多数受験し、合格・入学していることを示している。実際、高校の進路指導教員との面談でも、「学年の成績の良好な生徒に受験を薦めている」との声がある。

富山県及び石川県以外の入学者の構成としては、同じ北陸地区の福井県が多く、そのほかは隣県の新潟県、長野県、岐阜県であり、全体的には北陸地区又は隣接県からの学生が多い。他県出身の入学者の構成としては、金沢大学では隣接県の福井県、富山県が、また、富山大学では近隣の北陸地区の石川県、福井県は多いが、そのほかは最大でも 5%以下である。（資料 B4）

実際、令和 2 年度の富山大学人間発達科学部志願者数のベスト 30(31校)をみると、14 校が富山県の高校、12 校が石川県の高校であり、さらにベスト 20(21校)に絞ると、11 校が富山県の高校、9 校が石川県の高校である。

また、令和 2 年度の金沢大学人間社会学域学校教育学類の志願者数のベスト 25(25校)をみると、6 校が富山県の高校、13 校が石川県の高校であり、さらにベスト 15(17校)に絞ると、4 校が富山県の高校、10 校が石川県の高校である。

このように両大学とも、入学志願者は富山県と石川県出身者でほぼ占められている。それぞれ大学所在県からの志願者が多いのは、学部・学類と県内高校・県教育委員会との間で培われた強い連携・信頼関係が、進路指導の先生などからのアドバイスなど

を通して、受験生の志願動向にも反映しているためと考えられる。また石川県の高校生が富山大学を、富山県の高校生が金沢大学を志願することも多いのは、両県が隣接し、かつ、大学所在地の距離も近いという理由にとどまらず、学部・学類が隣県の高校と個別に連携関係を築くことに努めてきた成果でもある。このような条件の下で、高校生の強い地元志向の傾向が今後大きく変わるということは考えられない。つまり、両大学にとって両県内からの志願者の確保が、定員充足ということだけでなく、入学者の学力レベルの確保という点でも極めて重要なものであることが分かる。

(富山県、石川県内高校生に対する共同教員養成課程についての意識調査)

富山大学人間発達科学部では、共同教員養成課程設置構想に対する現役高校生の意見を聞くことを目的として、令和3年3月から5月にかけてアンケート調査を実施した。アンケートは、富山大学人間発達科学部への進学者が多い富山県内の高校9校の生徒（令和3年度現在3年生）に対して、共同教員養成課程設置構想のパンフレットを読んだうえでアンケートに回答してもらった。以下にアンケートの集計結果について述べる。（資料 B5-1）。

回答者は9校合計で844名であった。

共同教員養成課程を作ることによって期待される特徴については、資料 B5-1 の①から⑤のような回答が得られた。これを見ると、①から⑤の項目全てにおいて、肯定的な回答が85%を超えており、高校生が共同教員養成課程に対して非常に肯定的に受け止めていることが分かる。特に、取得免許の選択肢が広がる、金沢大学の教員が専門とする分野の教育が受けられること、遠隔メディアシステムにより金沢大学の授業を富山大学で受講できることに対しては90%以上の高校生が魅力と感じていると回答している。また、メディアを使うことにより、ほとんどの講義を自大学で受講できることにメリットを感じつつ、相手大学の学生との交流にも高い期待を持っていることが分かる。

総合的に見て、共同教員養成課程に入学したいかという問いに対しては46%の高校生が「入学したい」、「できれば入学したい」と回答している。その理由を聞いたところ、「地元の大学だから」と、「教員になりたいから」が大きな理由であるものの、「共同教員養成課程に魅力を感じたから」という回答も多くあった。今後広報活動に積極的に取り組むことにより、高校生の理解を得ることは十分に可能であると考えられる。

共同教員養成課程に対する感想について自由記述で書いてもらった典型的な意見をみると、総体として、2つの大学が共同で教員を養成することで視野が広がってよい、選択の幅が広がる、教員を目指すにはとても魅力的であり、是非受験したいと思っている高校生が多く、期待感が高いことがわかった。

同様に、金沢大学人間社会学域学校教育学類においても、石川県内の高校を中心に、

金沢大学人間社会学域学校教育学類への志願者数の多い高校の生徒（令和3年度現在3年生402名）に対して、令和3年3月から5月にかけて共同教員養成課程の構想についてのアンケート調査を実施した。実施に当たっては、事前に進路指導の教員に連絡して、関心のある生徒に集ってもらい、本設置構想の概要（設置の背景・必要性、目的・趣旨、共同教員養成学部の特徴、教育課程の概要・特色、入学試験の概要等）を説明した文書を配布し、その上で、本設置構想に関する意見および入学意思などの設問についての回答を得た。（資料 B5-2）

回答者総数 402 名のうち、総合的に見て富山大学・金沢大学共同教員養成課程に「入学したい」と回答した高校生は75名であり、「入学したい」と回答した9割の学生が入学すると仮定すると、67名となり、「①入学定員設定の考え方」で示した石川県の教員採用見込み数である58名をカバーできることとなる。さらに「できれば入学したい」という生徒まで含めると228名となり、そのうちの8割が受験すると仮定すると定員に対する倍率が2倍以上となり、入学者の質の保証も可能である。

「入学したい」、「できれば入学したい」と答えた高校生にその理由を複数回答で尋ねたところ、「地元の大学だから」と答えた生徒が112名、「教員になりたいから」が139名であるのに対し「共同教員養成課程（仮称）に魅力を感じたから」も94名の回答があった。この数字から、共同教員養成課程が設置されたとしても、従来教員を目指すために金沢大学に入学してきた生徒たちの大学選択が大きく変わることがないということがうかがわれる。

自由記述欄の意見では両大学の連携によって教育や学生の交流の幅が広がることに期待が寄せられる一方で、共同教員養成課程の具体的な内容についての質問も多く、今後しっかりと広報活動をしていく必要がある。

（人口動態及び大学等進学率の動向）

富山県、石川県、福井県の人口動態調査（資料 B6）を見ると、18歳人口は令和元年度では富山県9,966人、石川県11,512人であり、福井県は7,633人となっている。大学受験年齢の18歳となる人口の将来推計で考えると、社会増・減を考えに入れないと、富山県では5年後に約89%、10年後に約80%、石川県では5年後に約87%、10年後に約82%と大きく減少している。福井県は5年後に約92%、10年後に約87%と少し緩やかな減少となっている。富山県及び石川県では急速に少子化が進行することが想定される。

大学等への進学率については、過去5年間では、富山県は平均で52%程度、石川県は54~55%、福井県は平均56%程度でほぼ安定している。（資料 B7）

北陸地域では高卒者の県外、域外への進学が非常に多く、2017年度では富山県は79.5%、石川県では55.3%、福井県では68.6%が県外に流出している。また大学進学者の収容力は2017年度で富山県は53.7%、石川県は104%、福井県は55.6%と富山県、福井県で低くなっている。2040年度の大学進学者数推計でも富山県は収容率77.6%、福井県69.9%と推計されている（H29文科省データ）（資料 B8）。

以上のことをまとめると、少子化に伴う教員需要の減及びそれを加速させる退職教員の減(後述)という現実を踏まえ、地元志向の強い高校生に対し質の高い教員養成教育を基礎にして、教員就職に確実に繋がる定員管理を行うことが大切であり、富山大学側の入学定員を 85 名減員することで、両大学の共同教員養成課程ともに定員を十分充足できる状況にあるといえる。

③ 教員需要について

(県内・近隣大学の中学校教科免許状況)

富山県・石川県内の大学の幼稚園、小学校及び中学校教科の免許状況を資料 C1 に示している。令和 3 年 4 月時点で、富山大学人間発達科学部は、中学校教科の国語、音楽、美術、家庭、技術を除く 5 教科、また、金沢大学人間社会学域学校教育学類は、中学校教科の技術を除く全ての教科について教員免許は取得可能である。富山県・石川県内の他大学では、中学校教科のうち、社会、英語、保健体育等については複数の大学で免許取得が可能となっているが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校までの教員免許の取得が可能な大学は限られており、両県の幼稚園及び義務教育課程等の運営にとって、富山大学と金沢大学はその基幹的な位置を占めていることがわかる。

(年齢別教員数)

富山、石川、福井の 3 県の教員需要の見通しは、令和元年度 学校教員統計調査 都道府県別 年齢別 本務教員数の資料から推計すると、令和 4 年度入学者が卒業する令和 7 年度の富山県公立学校の退職者数が 316 名(小学校 113 名、中学校 80 名、高等学校 92 名、特別支援学校 31 名)であり、国立大学法人の第 4・5 期中期目標(令和 4~15 年度)期間中の教員退職者数が最も少なくなる令和 14 年度で 143 名(小学校 47 名、中学校 47 名、高等学校 27 名、特別支援学校 22 名)である。そして、令和 7 年度から第 5 期中期目標期間終了時の令和 15 年度までの退職者数の平均は、約 182.8 名(小学校 62.9 名、中学校 48.9 名、高等学校 44.9 名、特別支援学校 26.1 名)となっている。石川県では、令和 7 年度の石川県公立学校の退職者数が 251 名(小学校 95 名、中学校 51 名、高等学校 77 名、特別支援学校 28 名)であり、令和 4~15 年度の教員退職者数が最も少なくなる令和 9 年度で 120 名(小学校 46 名、中学校 32 名、高等学校 28 名、特別支援学校 14 名)である。福井県では、令和 7 年度の福井県公立学校の退職者数が 251 名(小学校 113 名、中学校 69 名、高等学校 44 名、特別支援学校 25 名)であり、令和 4~15 年度の教員退職者数が最も少なくなる令和 15 年度で 144 名(小学校 60 名、中学校 35 名、高等学校 32 名、特別支援学校 17 名)である(資料 A1-7、C2)。そして、令和 4~15 年度の富山、石川、福井の 3 県の教員退職者数の合計が最小となるのは令和 15 年度で、449 名と想定される。

(教員養成課程の大学別就職状況)

文科省提供の教員養成課程の大学別就職状況(資料 C3)によると、金沢大学の教員就職率は、平成 31 年 3 月は 54.9%であるが、令和 2 年 3 月では全国平均を上回る 61.5%となっている。平成 29 年～令和 2 年での石川県内での教員採用試験における採用合格者数は新卒で 25～27 名であり、教員採用試験合格者数のおよそ半数が石川県での合格者となっている(資料 C3、C4)。金沢大学の教員養成は十分に機能しているが、教員の多忙化等が社会問題として大きく報道されるようになり、学生は教員として将来展望に不安を持ち、やりがいを見出しにくい傾向が見られるようになったこと、さらに、民間企業等の就職もしやすくなっていることから、現状に満足することなく教員養成課程の不断の改善を行うことが必要と考えている。

一方、既に述べたように、富山大学人間発達科学部は教員養成機能を有した一般学部であるため、入学定員 170 名のすべての学生が教員を志望しているわけではない。過去の卒業生全体に占める教員就職率(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)は、平成 21 年度～令和元年度の平均で約 34.8%であった。その他は、一般企業、官公庁、保育士、社会福祉士への就職や大学院進学者であった(資料 A1-4)。しかしながら、過去 5 年間(平成 27 年度～令和元年度)で毎年度 97～119 名の学生が教員免許を取得しており、教員採用試験実受験者数は 5 年間の平均値が 63.4 名で、その合格率は約 62.5%であった。そのうち富山県公立学校教員採用試験実受験者数は 5 年間の平均値が 34.8 名で、その合格率は約 71.8%となっており、特に地元である富山県での公立学校教員採用試験の合格率が非常に高くなっている(資料 A1-5)。人間発達科学部の就職状況をみると、一般企業、公務員、学校教員、社会福祉士などバランスよく職種がわかれて就職しており、教員以外の分野への就職率の高さは、「多様な教育人材の育成」を教育理念、ディプロマポリシー等として掲げている結果であり、多様な分野での本学部卒業生の評価の高さを示すものでもあるが、富山県の教育委員会や高校生が期待している教員養成の方向性が弱まってしまったことは、学部としての課題である。この課題への対応として人間発達科学部では、この数年、学生の教員志望の意欲を刺激し、また教員免許取得を促進するためのカリキュラムの改善を図っている。

(2) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令(平成 16 年文部科学省令第 16 号)に定める「標準額」と同様であり、授業料年額 535,800 円、入学料 282,000 円である。学生の確保の見通しを考える上で設定する周辺競合校(福井大学、上越教育大学)と同一の条件である。

(3) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

(学部オープンキャンパスへの高校生の参加状況等)

学部の広報活動の重要な柱となっている富山大学のオープンキャンパス（OC）での人間発達科学部プログラム及び金沢大学の OC 及びキャンパスビジット・スタディプログラムの参加状況についてみると、おおむね入学定員を大きく上回る高校生が参加している（資料 D1）。直近の令和 2 年度は、新型コロナウイルス対応の関係でオンライン開催となったが、定員を大きく超える参加があり、これは、両大学の教員養成教育に対する高校生の関心が非常に強いものがあり、入学意欲も強いものがある証明と考えられる。OC への参加者は地理的な制約から県内の参加者が大半ではあるが、両大学の教員養成教育が高く評価されていることは、県内の教育学部入学希望者を確保するという観点から、OC が非常に有効に機能しているといえる。

(高校との意見交換等)

高校の進路指導教員との意見交換の参加高校の状況を資料 D2 に示す。毎年、多くの高校と意見交換会を行っている。出張授業については、学部・学類の教員全員の協力を得て、県内高校を中心に受験者の多い高校などで数多くの出張授業を行っている（資料 D3）。模擬授業と同時に学部・学類の紹介・広報も行い、志願者増につなげている。

石川県・富山県の教育委員会とは、資料 D4 に示すように各種多数の連携事業、共同研究を展開している。金沢大学では、「学校指導アドバイザー事業」や「学校教育学類研究員制度」を整備し、これらを通して、県内の小中高校から要請のある課題を発掘して、それへの指導・助言活動を行い、また「連携講座」を開催し、県内現職教員の研修にも参画している。富山大学では、「富山県主催の教育事業への学生派遣」を実施し、学生の現場経験の機会を得ると同時に、学校現場への貢献を図って、県教育委員会が実施している「11 年次教職員研修」の一部において、講師として教員を派遣し、現場教員の研修に寄与している。これらを基に、県内高校に対して両大学の共同教員養成課程の認知度を高め、各高校の在校生への周知・宣伝に活用している。

(4) 人材需要の動向等社会の要請

新学習指導要領では、新時代に要請される能力を育てるとして、小学校からの英語の教科化、情報・プログラミング教育の導入、理科教育の充実など新たな学びの方向性が指摘されており、今後の小中学校教員にとって必須となる課題が提起されている。小学校では令和 2 年から、中学校では令和 3 年から、新しい学習指導要領が始まる。新学習指導要領の開始に際して、新たな学びには教員の指導力の向上が不可欠となることから教育公務員特例法の一部改正が行われ、教員に求める資質能力、教員育成指標の策定が各県教育委員会に義務付けられた。そこでは県が求める教員像を規定し、教職課程修了時あるいは教員採用時に身につけている資質能力のほか、採用後のキャ

リアパスの各段階における種々の指標を示し、これに従った教員の育成を進めることとされている。

石川県、富山県が必要としている、教職課程修了時に身につけているべき資質能力については資料 E1 に示しているが、これに応える教員養成教育を着実に遂行していくことが両大学には求められている。教職課程修了時に身につけている資質能力と共同教員養成課程での達成目標・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性、それを実現する教育プログラムの提供などは、大学での学習計画等の高校側との意見交換の際の鍵となる事項であり、様々な意見交換の機会を捉えて説明を行っている。

資料 E2 には富山、石川両県の教育委員会教育長及び高等学校長協会会長からの要望書を示している。両県ともに急速な技術革新、グローバル化、SDGs 教育の推進、GIGA スクール構想、義務教育学校の設置など現代的な教育課題に対応できる質の高い教員の確保が急務である中で、両大学の特色を生かした共同教員養成課程の設置構想、現代的な教育課題に対応した先進的教育科目を含めたカリキュラムに大きな期待が寄せられている。そして、両県ともに教員志望の高校生の多くが両大学を志望し、両県の教員になっていくことから、児童生徒数の減少による教員需要の減少が予想される中で、両県の教育水準の維持・向上のために長期的に、安定的に質の高い小学校教諭、中学校・高等学校の各教科及び特別支援学校教諭の養成を維持できる共同教員養成課程の設置構想に大きな期待を持っていることがわかる。

富山大学教育学部共同教員養成課程
金沢大学人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程

学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）

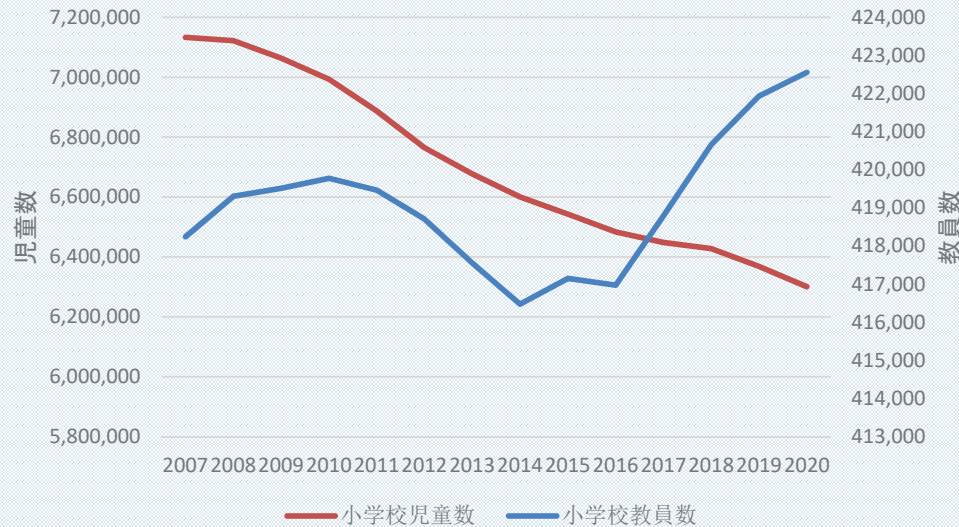
目 次

A. 入学定員算定関係資料	
A 1. 児童生徒数と教員数の推移等	p. 2
A 2. 富山大学卒業生・修了生の就職先アンケート	p. 10
A 3. 金沢大学学校教育学類の出身県別分布及び就職者分布（過去5年間）	p. 23
B. 入学志願状況等	
B 1. 志願倍率等（平成28年度～令和2年度）	p. 24
B 2. 周辺大学教育学部の入学試験倍率	p. 28
B 3. 最近5カ年における県内高校等出身者の割合	p. 29
B 4. 周辺大学教育学部の入学者の構成（出身県別）	p. 31
B 5. 共同教育課程設置構想についてのアンケート結果	p. 32
B 6. 北陸3県の年齢別人口	p. 38
B 7. 北陸3県の大学等進学率	p. 39
B 8. 大学への進学者数の将来推計について	p. 40
C. 教員就職状況、教員需要をふまえた入学定員計画	
C 1. 県内大学の免許状況	p. 57
C 2. 北陸3県及び新潟県の公立小・中学校教員の年齢構成	p. 58
C 3. 教員養成課程の大学別就職状況	p. 59
C 4. 富山県・石川県教員採用試験における富山大学・金沢大学の学生の状況	p. 60
C 5. 富山大学の教員採用試験状況	p. 61
D. 学生確保に向けた具体的な取り組み	
D 1. オープンキャンパスの参加者数	p. 63
D 2. 高校の進路指導教員との意見交換、入試に関する説明会の参加状況	p. 64
D 3. 出前講義等の状況	p. 65
D 4. 県教育委員会との連携事業	p. 66
E. 人材需要の動向等社会の要請	
E 1. 富山県・石川県教員育成指標	p. 68
E 2. 富山県・石川県の教育関係機関（教育長、高校長協会長）からの要望書	p. 73

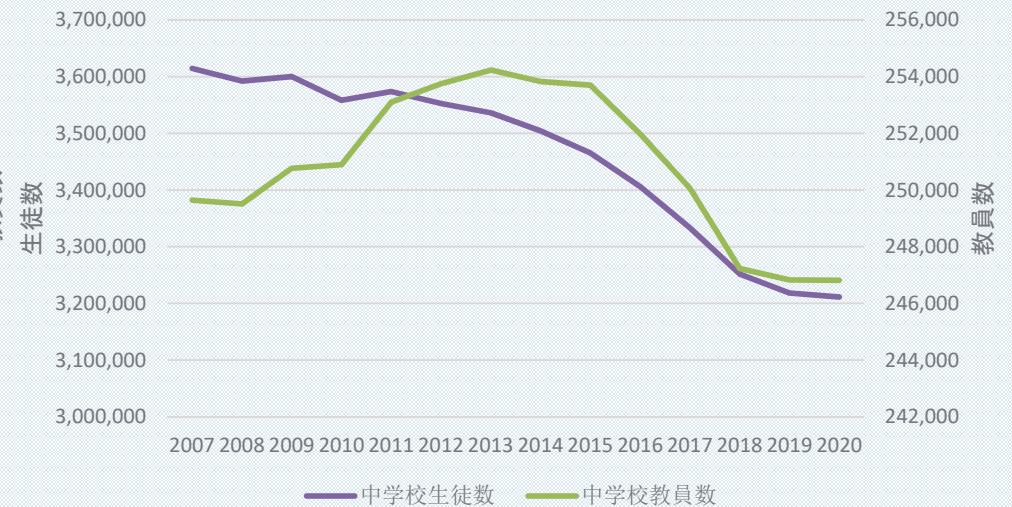
A1-1.児童生徒数と教員数の推移

出典: 学校基本調査

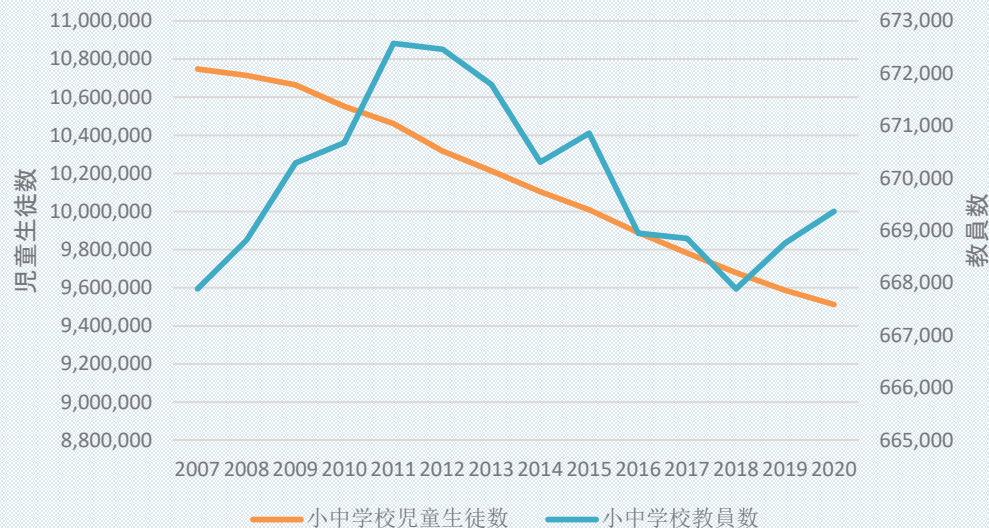
小学校児童数と教員数の推移



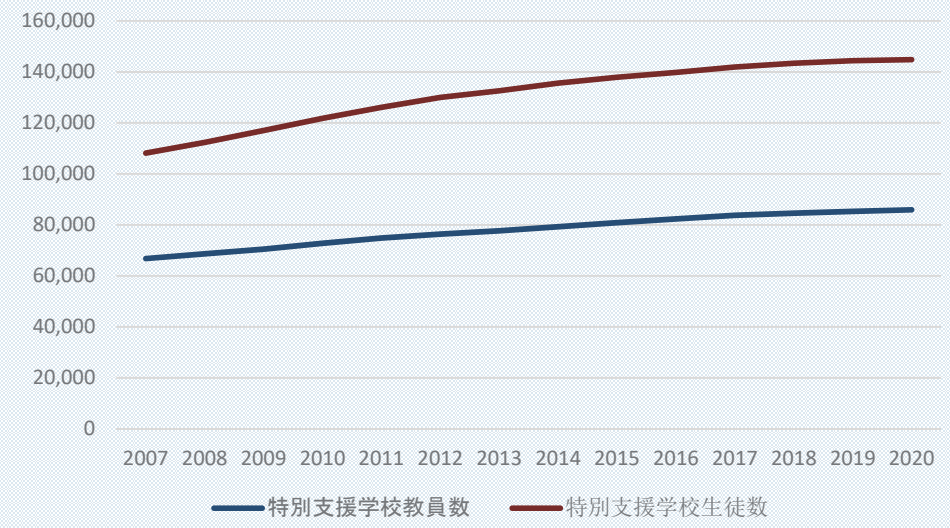
中学校生徒数と教員数の推移



小中学校児童生徒数と教員数の推移



特別支援学校児童・生徒数と教員数の推移



1 (書類等の題名)

富山県における今後の教員退職者数見込み (【A1-2】 3 ページ)

2 (出典)

富山県教育委員会提供データ

3 (引用範囲)

富山県における平成 24 年～平成 44 年度の校種・教科別教員退職者見込み数

なお、本資料は富山県教育委員会において、公表していないデータであるため、公表しないものとする。

1 (書類等の題名)

今後の教員需要に基づく人間発達科学部における教員養成規模

(【A1-3】 4 ページ)

2 (出典)

富山県教育委員会提供データ

3 (引用範囲)

富山県における平成 24 年～平成 44 年度の校種・教科別教員退職者見込み数

4 (その他の説明)

本資料では、以下の試算方法で、今後の教員需要に基づく人間発達科学部における教員養成規模を算出した。その際、教員退職予定者数のうち、教員需要計算の基準となる、平成 42 年度末を赤枠で囲んだ。

- ・「文部科学省が求める第 5 期中期計画期間中（平成 40～45 年度）」の地元（富山県）の教員需要（退職者数）を基に、教員養成規模を試算する。
- ・その際、第 5 期中期計画期間のうち、富山県の教員退職者数が最も少なくなる平成 42 年度末を教員需要計算の基準とする。
- ・人間発達科学部の養成規模は、富山県の公立学校教員採用における目標占有率を設定した上で、基礎となる数値を計算し、更に教員就職状況の富山県内：県外の比率に基づき、全体の数値を計算する。

なお、本資料は富山県教育委員会において、公表していないデータを含んでいるため、公表しないものとする。

A1-4.人間発達科学部の教育理念等と就職状況について

<教育理念>

人間発達科学部は、人間発達を広義の教育と位置づけ、人間の豊かな発達と環境との調和をめざすとともに、**生涯にわたって学習を支援できる教育人材**を育成しています。「人を教えるヒトを育てる学部」をキーワードに、教育学部で培われた教育技法の拡充と複雑化した人間環境の学際的追究を組合せることを通じ、地域社会において、**教員養成とともに人間の生涯学習を促進する教育人材の養成**を目的としています。

<ディプロマ・ポリシー>

[発達教育学科]

乳幼児期から高齢期に至るまでの、障害を含めた発達上の諸問題について専門的な知識を習得し、発達を促す保育、教育、福祉支援を立案・遂行する実践力を備えているか。

[人間環境システム学科]

自然科学から人文社会科学までの専門的知識を学際的アプローチを通じて習得し、健康、環境、国際、情報など人間環境に関わる複合的な問題を解決する実践力を備えているか。

<大学ホームページでの学部紹介>

「発達教育学科」と「人間環境システム学科」の2学科6コースを設けて、学校教員の養成にとどまらず、生涯教育時代にふさわしい教育人材を育てる先進的な教育カリキュラムを提供します。**学校教育・生涯教育・社会教育から企業内教育まで、広義の教育**の場面で活躍できる持続可能な自己教育力を持った人材の育成を目指しています。

人間発達科学部における職種別の推移

	H21年度卒	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	H28年度卒	H29年度卒	H30年度卒	R01年度卒	平均
一般企業・官公庁・その他就職	42.8%	38.5%	37.1%	34.2%	37.8%	43.4%	41.5%	48.5%	45.9%	52.9%	49.1%	42.9%
学校教員	36.9%	35.2%	31.7%	40.4%	35.4%	39.4%	38.0%	28.7%	38.2%	24.1%	33.9%	34.8%
保育士	5.3%	5.6%	7.8%	7.5%	4.9%	7.4%	4.1%	4.2%	5.3%	5.9%	6.4%	5.8%
医療福祉(社会福祉士等)	3.2%	4.5%	5.4%	2.5%	3.0%	1.1%	2.9%	3.6%	1.2%	2.9%	1.2%	2.9%
進学・その他	10.2%	15.1%	13.8%	14.3%	17.7%	8.6%	11.7%	15.0%	7.6%	12.4%	8.2%	12.2%
未就職	1.6%	1.1%	4.2%	1.2%	1.2%	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%	1.2%	1.4%
合計	98.4%	98.9%	95.8%	98.8%	98.8%	100%	98.2%	100%	98.2%	98.2%	98.8%	98.6%

・人間発達科学部の就職状況をみると、一般企業、公務員、学校教員、社会福祉士などバランスよく職種がわかれて就職している。また、平成26・28年度の就職率(進学・その他を含む)が100%と高水準であることは特筆すべきことである。**教員以外の分野への就職率の高さは、「多様な教育人材の育成」を教育理念、ディプロマポリシー等として掲げている結果であり、多様な分野での本学部卒業生の評価の高さを示すもの**でもある。

A1-5.富山大学人間発達科学部の教員採用試験の実績

教員採用試験受験状況

全国の公立学校 ※富山県を含む	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	免許状取得者数	36	84	95	90	10	119	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	8	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	97	30.4	74.0	79.2	75.2	7.6
延べ受験者数		46	28		1	75		37	17	2	3	59		49	14	3	2	68		41	18	2	2	63		33	28	3	3	67	41.2	21.0	2.0	2.2	66.4	
実受験者数		44	25		1	70		35	16	2	3	56		49	13	3	2	67		41	17	2	2	62		31	27	1	3	62	40.0	19.6	1.6	2.2	63.4	
延べ合格者数		32	14		1	47		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		22	18		3	43	28.6	9.8	0.2	1.8	40.4	
実合格者数		31	13		1	45		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		20	18		3	41	28.0	9.6	0.2	1.8	39.6	
延べ受験者合格率		70%	50%		100%	62%		65%	29%	0%	33%	51%		80%	29%	33%	100%	68%		63%	44%	0%	100%	57%		67%	64%	0%	100%	64%	69.4%	46.7%	10.0%	81.8%	60.8%	
実受験者合格率		71%	52%		100%	64%		69%	31%	0%	33%	54%		80%	31%	33%	100%	69%		63%	47%	0%	100%	58%		65%	67%	0%	100%	66%	70.0%	49.0%	12.5%	81.8%	62.5%	
就職者数		30	8	2	3	43		24	4	1	1	30		39	3	2	2	46		21	6	2	3	32		20	9	2	6	37	26.8	6.0	1.8	3.0	37.6	

※受験区分が中学校・高等学校一括の場合は、中学校に計上している

※免許状取得者数の計は、取得した実人数である。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

富山県	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	免許状取得者数	36	84	95	90	10	119	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	16	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	97	30.4	74.0	79.2	75.2	9.2
受験者数		23	19			42		22	7		2	31		24	7		2	33		22	9		1	32		16	17		3	36	21.4	11.8		1.6	34.8	
合格者数		17	12			29		15	2		1	18		22	2		2	26		15	6		1	22		15	12		3	30	16.8	6.8		1.4	25.0	
受験者合格率		74%	63%			69%		68%			50%	58%		92%	29%		100%	79%		68%	67%		100%	69%		94%	71%		100%	83%	78.5%	57.6%		87.5%	71.8%	
就職者数		16	8	2	2	28		15	2		1	18		22	1	1	2	26		12	5	1	2	20		17	3	1	5	26	16.4	3.8	1.0	2.4	23.6	

石川県	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	受験者数		15	5			20		9	7			16		24	6			30		12	4		1	17		7	10			17	13.4	6.4		0.2	20.0
合格者数		12	1			13		6	2			8		15	2			17		7	2		1	10		1	6			7	8.2	2.6		0.2	11.0	
受験者合格率		80%	20%			65%		67%	29%			50%		63%	33%			57%		58%	50%		100%	59%		14%	60%			41%	61.2%	40.6%		100.0%	55.0%	
就職者数		12				12		6	1	1		8		15	2			17		7	1	1	1	10		1	5	1		7	8.2	1.8	0.6	0.2	10.8	

福井県	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	受験者数		4			2	6		1	1			2						0		5	1			6		3	1			4	2.6	0.6		0.4	3.6
合格者数		2			1	3														2				2		1				1	1.0			0.2	1.2	
受験者合格率		50%			50%	50%		0%	0%			0%								40%	0%			33%		33%	0%			25%	38.5%			50.0%	33.3%	
就職者数		2			1	3														2				2						0.8			0.2	1.0		

3県合計	H28採用 H27卒業						H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						5年間平均					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
	免許状取得者数	36	84	95	90	10	119	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	16	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	97	30.4	74.0	79.2	75.2	9.2
受験者数		42	24		2	68		32	15		2	49		48	13		2	63		39	14		2	55		26	28		3	57	37.4	18.8		2.2	58.4	
合格者数		31	13		1	45		21	4		1	26		37	4		2	43		24	8		2	34		17	18		3	38	26.0	9.4		1.8	37.2	
受験者合格率		74%	54%		50%	66%		66%	27%		50%	53%		77%	31%		100%	68%		62%	57%		100%	62%		65%	64%		100%	67%	69.5%	50.0%		81.8%	63.7%	
就職者数		30	8	2	3	43		21	3	1	1	26		37	3	1	2	43		21	6	2	3	32		18	8	2	5	33	25.4	5.6	1.6	2.8	35.4	

※免許状取得者数の計は、当該学科において当該年度に教員免許状を取得した実人数である。

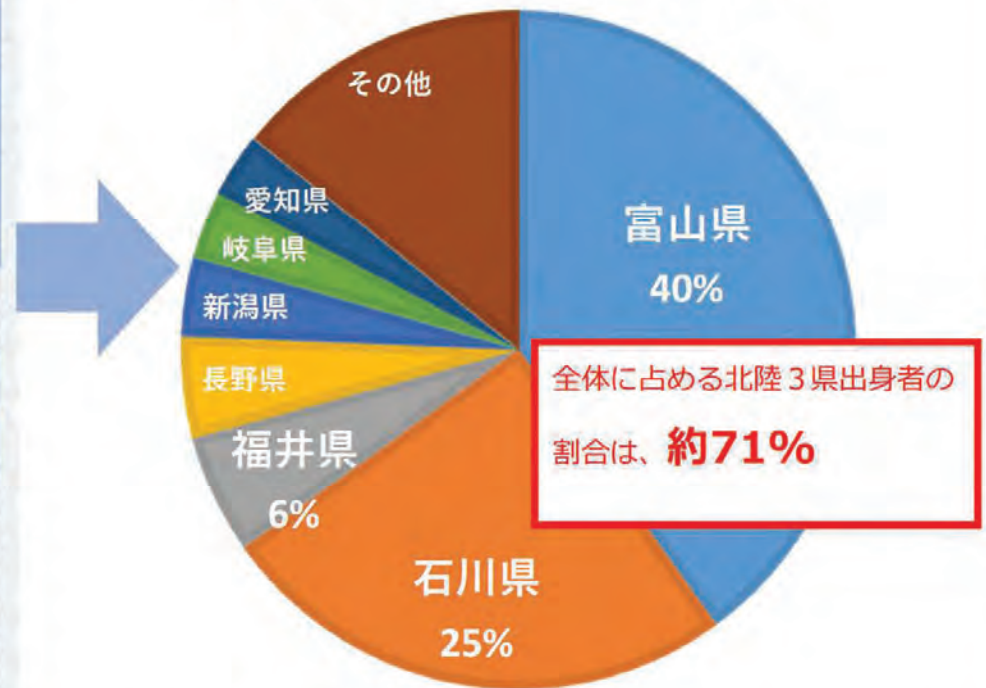
※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

A1-6.富山大学人間発達科学部における都道府県別入学者状況

◆富山大学人間発達科学部における都道府県別入学者状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
発達教育学科 (入学定員80)	81	85	84	82	85
富山県	37	27	39	39	33
石川県	21	23	24	27	20
福井県	3	9	4	2	8
長野県	4	5	2	2	4
新潟県	3	4	4	3	2
岐阜県	2	4	2	2	2
愛知県	4	1	3	1	
その他	7	12	6	6	16
人間環境システム学科 (入学定員90)	95	96	95	89	90
富山県	36	39	24	42	37
石川県	25	21	20	21	19
福井県	4	6	9	2	4
長野県	6	5	7	4	3
新潟県	5	0	8	2	2
岐阜県	1	5	7	3	1
愛知県	3	4	7	1	3
その他	15	16	13	14	21
総計	176	181	179	171	175

人間発達科学部における入学者の
都道府県別割合
(平成28年度から令和2年度までの5カ年実績)



A1-7.北陸3県の公立学校教員の年齢構成(令和7年度～令和15年度)

	60歳定年	R7定	R8定	R9定	R10定	R11定	R12定	R13定	R14定	R15定	
	西暦年	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	平均
富山県	小学校	113	81	46	52	57	46	58	47	66	62.9
	中学校	80	54	40	38	43	49	41	47	48	48.9
	高等学校	92	62	56	52	32	32	30	27	21	44.9
	特別支援	31	29	39	29	25	23	19	22	18	26.1
	計	316	226	181	171	157	150	148	143	153	182.8
	対今年度	100	71.5	57.3	54.1	49.7	47.5	46.8	45.3	48.4	
石川県	西暦年	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	平均
	小学校	95	78	46	64	54	62	61	68	68	66.2
	中学校	51	55	32	32	28	28	46	37	33	38.0
	高等学校	77	52	28	25	37	29	41	39	37	40.6
	特別支援	28	19	14	8	15	17	9	9	14	14.8
	計	251	204	120	129	134	136	157	153	152	159.6
	対今年度	100	81.3	47.8	51.4	53.4	54.2	62.5	61.0	60.6	63.6
福井県	西暦年	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	平均
	小学校	113	97	62	50	64	64	58	89	60	73.0
	中学校	69	49	55	45	49	37	41	31	35	45.7
	高等学校	44	38	39	41	49	42	36	33	32	39.3
	特別支援	25	21	22	19	17	31	28	29	17	23.2
	計	251	205	178	155	179	174	163	182	144	181.2
	対今年度	100	81.7	70.9	61.8	71.3	69.3	64.9	72.5	57.4	72.2

令和元年度 学校教員統計調査より作成

A1-8. 富山大学人間発達科学部における都道府県別志願状況

◆富山大学人間発達科学部における都道府県別入学試験前期日程志願者状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均
志願者数	289	284	225	256	213	253.4
(募集人員102)						
富山県	111	118	92	109	87	103.4
石川県	82	69	50	65	48	62.8
福井県	16	20	23	7	12	15.6
その他	80	77	60	75	66	71.6
入学者数	99	106	107	106	104	
富山県	45	41	39	52	42	43.8
志願倍率 (富山県)	2.5	2.9	2.4	2.1	2.1	2.4
石川県	22	28	20	31	23	24.8
志願倍率 (石川県)	3.7	2.5	2.5	2.1	2.1	2.6
福井県	5	10	11	6	6	7.6
志願倍率 (福井県)	3.2	2.0	2.1	1.2	2.0	2.1
その他	27	27	37	17	33	28.2

富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科 卒業（修了）生の就職先調査の報告
（小学校教員採用者対象）

令和2年1月29日
評価委員会 宮一志

本学部の教員養成に関する教育のあり方を改善検討するために、本学部・研究科卒業（修了）生の評価、求める能力、学部・研究科への要望を採用先の小学校校長よりアンケート形式により調査した。

・調査対象者

平成28年度～平成30年度に小学校教員として採用された本学部・研究科卒業（修了）生

・調査方法

調査時点（令和元年11月）で調査対象者が在籍している小学校校長にアンケート用紙を令和元年11月に送付し、調査対象者に関して回答していただき、返信用封筒にて回収した。

対象となる本学部・研究科卒業（修了）生は33名であり、32名分（回収率97.0%）の回答があった。回答していただいた小学校校長は23名であった。

調査内容は

- (1) 調査対象者の基本情報（性別、卒業・修了の学部・研究科、卒業年度）
- (2) 調査対象者の社会人としての資質・能力（4段階評価）
（4：とても充足している，3：やや充足している，2：やや不足している，1：とても不足している）
- (3) 調査対象者の小学校教員としての資質・能力（4段階評価）
（4：とても充足している，3：やや充足している，2：やや不足している，1：とても不足している）

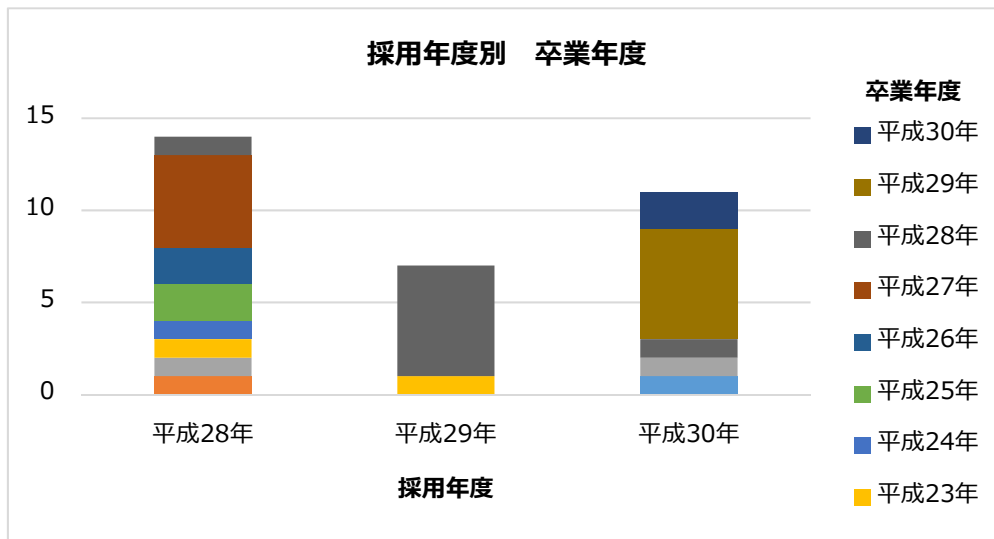
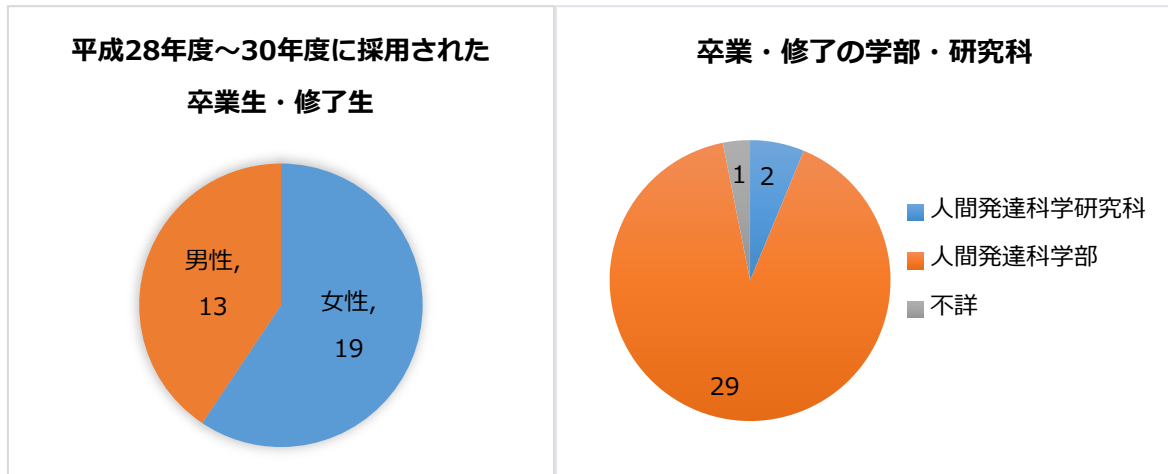
また、採用先の小学校校長に

- (1) 社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと
- (2) 小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと
- (3) 富山大学人間発達科学部の教育プログラムに対する評価
- (4) 富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待

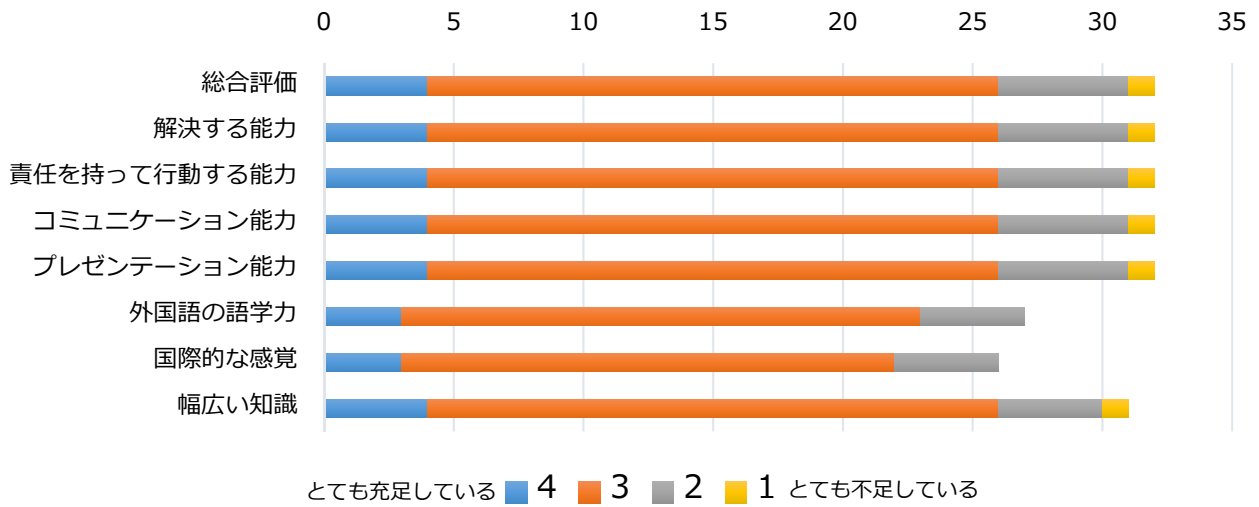
に関して、自由記述で記載してもらった。

・結果

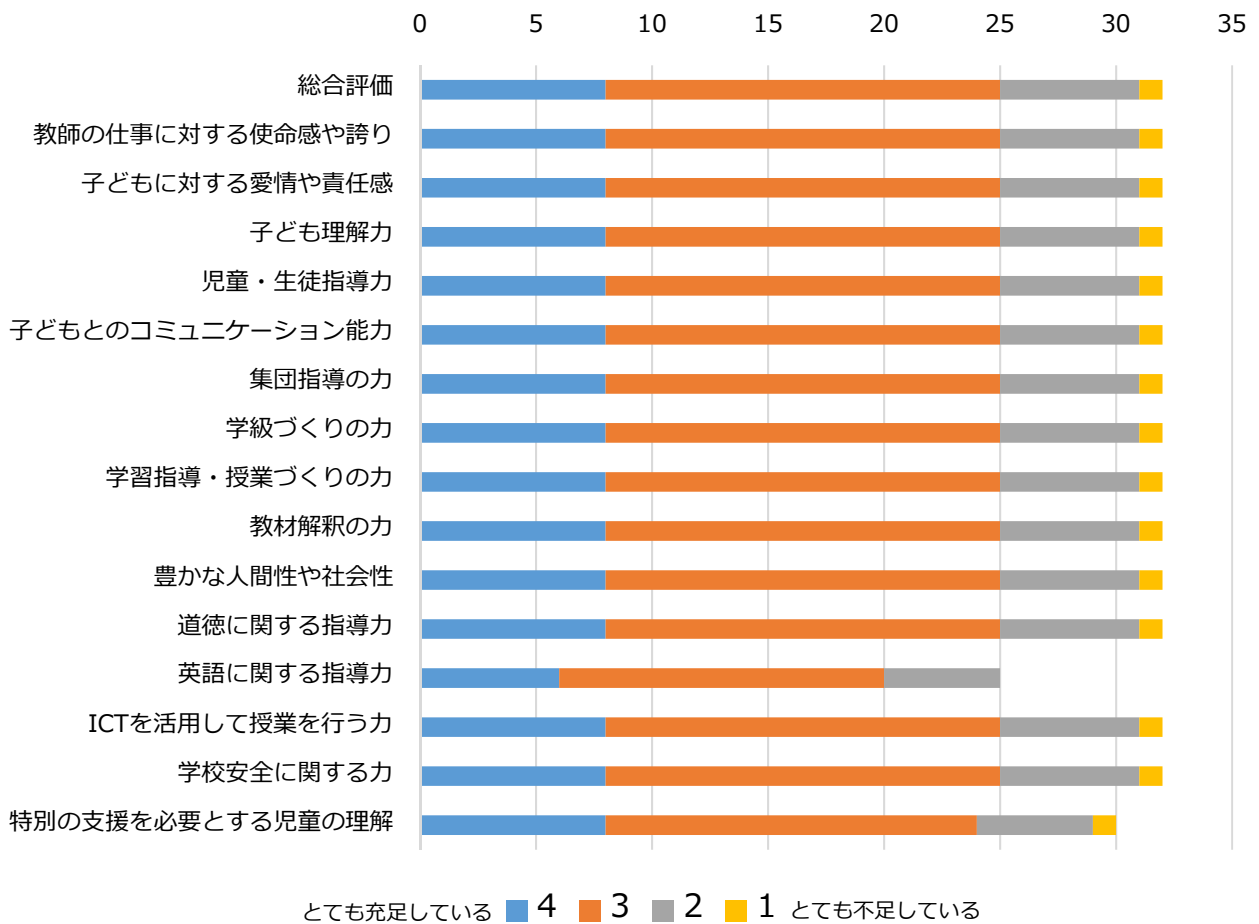
<卒業生・修了生の資質・能力に関するアンケート調査>



卒業生・修了生の社会人としての資質・能力



卒業生・修了生の教員としての資質・能力



卒業生・修了生の社会人としての資質・能力に関する項目間の相関

	総合評価（社会人）	解決する能力	責任を持って行動する能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	外国語の語学力	国際的な感覚	幅広い知識
総合評価（社会人）	1	0.7412*	0.8629*	0.6916*	0.3824*	0.7027*	0.5908*	0.4425*

Pearson の積率相関係数を示しました。

また、無相関検定の結果に応じて、以下の凡例を付しました。*: $p < 0.05$

卒業生・修了生の教員としての資質・能力に関する項目間の相関

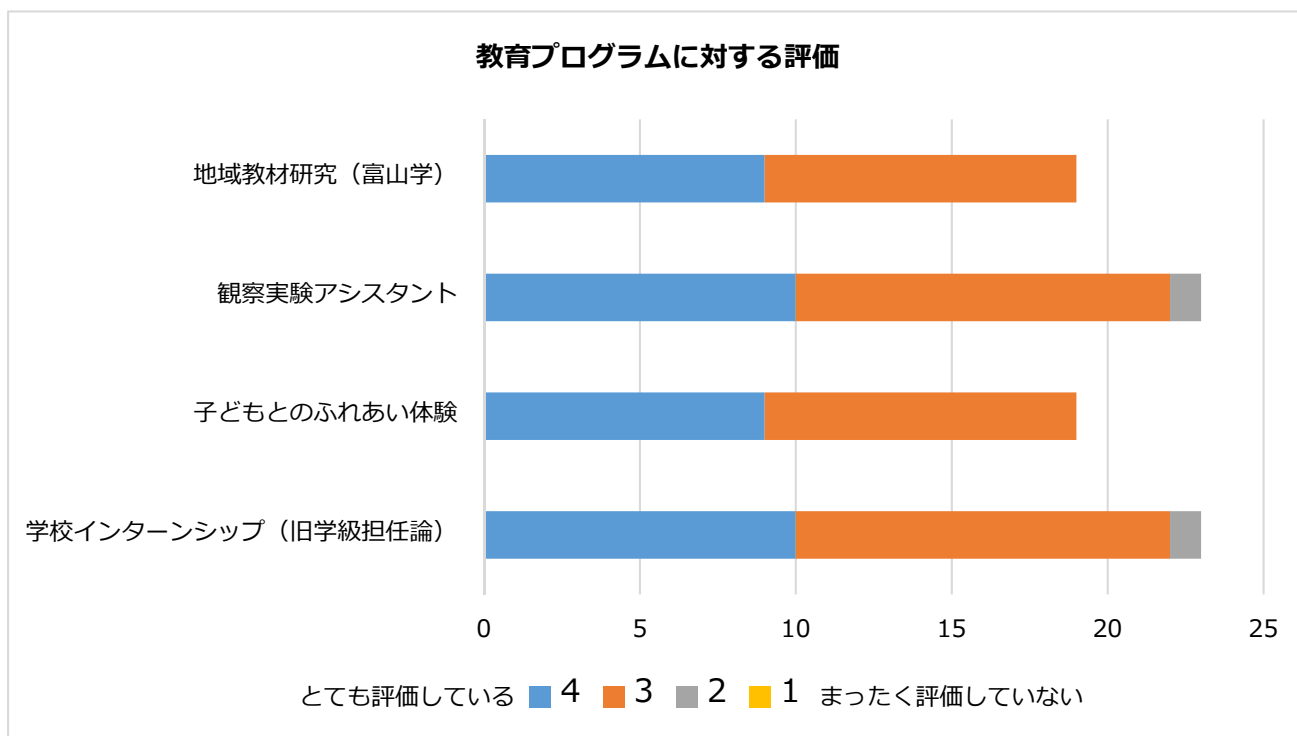
	総合評価（教員）	教師の仕事に対する使命感や誇り	子どもに対する愛情や責任感	子ども理解力	児童・生徒指導力	子どもとのコミュニケーション能力	集団指導の力	学級づくりの力
総合評価（教員）	1	0.8931*	0.7494*	0.7728*	0.7613*	0.7663*	0.8056*	0.8479*

	学習指導・授業づくりの力	教材解釈の力	豊かな人間性や社会性	道徳に関する指導力	英語に関する指導力	ICTを活用して授業を行う力	学校安全に関する力	特別の支援を必要とする児童の理解
総合評価（教員）	0.6549*	0.4958*	0.7114*	0.7463*	0.5828*	0.1209	0.5455*	0.4865*

Pearson の積率相関係数を示しました。

また、無相関検定の結果に応じて、以下の凡例を付しました。*: $p < 0.05$

<教育プログラムに関するアンケート調査>



① 社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと（自由記述）

- 対人（特に大人と接する際）マナーの基本。ある程度正しい敬語を使うこと
- 時と場に応じた挨拶をしっかりと行い、人とのコミュニケーションが図れるようにしておいて欲しいです。
- 他者と協力し合うコミュニケーション力。自分の考えを持って前向きに取り組む力。困難なことがあっても、簡単にあきらめない粘り強さ"
- コミュニケーション能力
- コミュニケーション能力。失敗してもへこたれない忍耐力。意見交換し、考えを作り上げ、何かを実行する力
- コミュニケーション能力。協働性。福祉経験（老人、介護施設）。ボランティア体験（施設など）
- 相手に正確に伝わる文章を書く力や、相手の立場に立って物事を考えられる力、自分の行動が及ぼす影響を考えることができる力など
- コミュニケーション能力。自己を改善していこうとする力
- 挨拶、時間を守る、提出物を出す、上司、先輩から言われたことに耳を傾けるなどの基本的マナー
- 様々な考えを持つ人々とのコミュニケーション能力、規範意識。子どもと直接かかわる以外に海外や海、山などに出かけ、見聞を広め、様々な体験をしてほしい。
- 様々な価値観を持つ人とも折り合いをつけたり協調したりして、共に取り組もうとする態度、自分の考えを伝えあい、理解し合おうとするコミュニケーション力を育てていただきたい。
- 周囲を気遣うことができる（お客さんや電話対応を含めて）
- 忍耐強さや自己抑制力、そして何よりもやる気を持って物事にあたる気持ち
- 自分が困ったりわからないことがあった時に、他社に尋ねたり助けを求めたりする関わる力を持っている初任者は伸びます。
- 先を見通して問題を解決していく能力。幅広い視野に立って物事を考える能力
- 他者と協力し合うコミュニケーション能力
- コミュニケーション能力の育成。社会貢献活動や文化的事業への参画など広い視野を持つ経験
- 良いこと悪いことをすべて含んだ幅広い経験。一般教養、しなやかなコミュニケーション能力
- 一般的な社会人としてのマナー、接遇など
- 他者とかかあり合うことやいろいろな人と語り合うこと（特に年上や知らない人と関わり合うことや自分の考えを語り合うこと）が必要と考える。また、飲み会や旅行など、どんなことでもよいが集団を扱った企画・運営の経験をしてきてほしいと思っている。
- 目標に向かって頑張り続ける力、コミュニケーション力、素直さや吸収力、明るく前向きな態度、協調性、視野の広さ、礼儀の常識。
- 相手の立場に立って考えようとする態度を身につけて欲しいです

② 小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと（自由記述）

- 子どもたちの発達段階に応じた言葉かけ
- 子どもたちに対して愛情をもって積極的に関わっていけるような力をつけて欲しいと願っています。
- 個別に支援を要する子どもへの温かい愛情。子ども一人一人を大切な存在として認める心。子どもの可能性を信じ続ける心の広さ
- ユーモアのセンス（教壇では役者）。カウンセリングマインド。自己開示できる力（強さ）
- 子どもを大切に思う資質（多様な面を見せる子どもを受け止める）。失敗してもへこたれない我慢強さ
- コミュニケーションスキル。ボランティア体験（異業種）
- 正しい鉛筆の持ちから、整理整頓の仕方、時間を見通した行動、正確に文字を書くことなど、児童生徒の手本となる基本的なふるまい
- コミュニケーション能力，人間を尊重する姿勢，基礎学力
- 板書の漢字を間違わないなど基本的知識。同僚とのコミュニケーションをとれること。プリントやノートをため込まない責任感など"
- 読書をたくさんしてほしい。
- できるだけ多く現場に出て、実際に様々な子供と触れる機会を持ち、子供を理解しようとする態度、進んで子供に関わろうとする態度を育てていただけるとありがたい。
- 保護者への丁寧な対応の仕方
- まずはコミュニケーション能力，そして協調性，誠実さや思いやり，素直さのない教員は成長しない。
- 現在の現場でのフィールドワークはかけがえのない経験になっていると思います。相手の困り感に寄り添い，協働的に物事に取り組む力は大切だと思います。
- 子供とのコミュニケーション能力。「報告・連絡・相談」がしっかりできること
- 課題や問題を自ら解決する能力，解決しようとする熱意
- 自ら学ぶ姿勢，旺盛なチャレンジ精神。児童理解につながる体験活動
- 子供の心のとらえ方，洞察力。雑学を含んだ幅広い知識，積極的な行動力。スケールの大きな人間性
- 話し方，子供の動かし方，チョークを使った文字の書き方など
- 人の思いや気持ち（特にできない人，弱い立場の人）を理解できる，人としての資質を身に付けてきてほしい。また，いろいろなことに積極的に挑戦したり，歯を食いしばって最後までやり遂げる経験をしてきてほしい。
- 子供理解力，聴く力，全体把握力，様々な異なった考えに耳を傾ける力，様々な年代，職種の人たちと十分会話すること。
- あきらめずに頑張り続けようとする力があるとよいです

③ 富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待（自由記述）

- 貴大学に対する期待は今でも大きく、富山教育の良さを感じた（体験した）人材の育成をお願いしたい
- 学びのアシストや観察実験アシスタントで学校現場に来る学生さんは、子供たちにとっては「先生」です。現場で助けてもらうことも多いのですが、「先生」という自覚をしっかりとってきていただきたいです。
- アンケートもよいと思いますが、勤務校を訪問され、実際の指導をご覧になる方が大学の教育改革に有効だと思います。
- 教員志望者が減少している現状の中、仕事は少し大変かもしれないが、やりがいのある仕事であることをこれまで以上に教えていただければ幸いです。
- 県の教育界を引っ張っていく人材の育成を期待しています。
- 富山県小学校の中核となって活躍できる人材育成
- 元気に明るく子供や保護者とコミュニケーションをとることができる人材を今後も多く輩出していただきますよう切に祈念し、気持のみになるかもしれませんが心より応援しております
- 基礎学力は大切だと思いますし、仲間とともにプロジェクトを進める力も大切だと思います。
- 若手育成には学校現場ももちろん力を入れていかなければならないし、それを怠るつもりもありません。しかし、資質がとてもしもかけ離れた人が現場に来た時、そこにかかる労力のはかり知れず、犠牲にしたものも多かったです。「給料をもらって働く」「責任」が認識でき、子供のために頑張れる思いと最低限の資質を持った人が教員として来てもらえたら現場は助かります。大学の方も大変なのは十分承知ですが、どうぞよろしくお願いいたします。
- 初任者でもベテランも、今の保護者は同じような指導力を求めがちです。学校は初任者を長い目で大切に育てたいと考えています。いろいろな体験を重ねて、ちょっとやさっとじゃ折れない心と、くじけそうになった時の対処法も学ばせていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。
- 学校に学びのアシストなど来られた学生の方々には、子供の良さ、子供とのかかわり、教育に携わることのやりがいについて話している。ぜひ、多くの若者が教員を志し、情熱を持った多くの教員が誕生すれば頼もしいと思っている。よろしくお願いいたします。
- ぜひ富山県で教員を目指してほしい
- 教員採用試験の倍率が低迷の一途をたどっている現在、富大の教員養成にかかる期待は大変大きい。地元の私立大学出身の学生がどんどん教員に採用されてくることに多少なりとも危機感を抱いているのは私だけではないと思う。富大には本当に頑張してほしい。
- 子供の成長をはぐくむことのできる教師という職業のやりがいを感じられるような学びの場を体験してほしいです。
- 教員採用試験を受験する学生が減っているので、教員を志望する学生を増やしてほしい。
- 小学校教員は、子供たちの夢を引き出し、やり遂げる力を見守り育て、やがて未来を創っていく素晴らしい仕事です。免許を必ず取得し、若い力を現場で生かしてください。子供たちが待っています。
- よりしなやかな人間性のある学生を今まで以上に輩出していただくことを希望します。
- 音楽科、図工科において専門性を持った小学校教諭がどんどん少なくなってきました。これから専科の教員の需要も増えていくと思われます。教育学部時代に合った音楽科、図工科の代替になるよう

な課程を復活できないものだろうか。(専門課程がなくなったことから、小学校における音楽教育、図工教育を担うものが減っているのが現状です。

- 教職への夢と希望，熱い思いを持った人材を育成してほしい。
- よりよい社会人としての資質を高め，その上に立って専門的な知識・技能を身に付け，教員としての思考・判断ができるように育てていただきたく存じます。
- 子供を大切に思う心情に厚い教員を養成いただければと思います

・考察

富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科 卒業（修了）生（小学校教員採用者対象）の就職先調査より、本学の卒業（修了）生の社会人としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）、教員としての資質・能力（総合評価）の平均は 2.9（4 段階評価）であり、すべての項目において平均 2.5 以上と社会人、教員としての能力はおおむね充足していると評価された。社会人として、および教員としての資質・能力（総合評価）でともに 1；とても不足している、と評価された卒業生が 1 名おり、今後の検討課題と考えられた。社会人としての資質・能力（総合評価）は、「解決する能力」、「責任を持って行動する能力」、「外国語の語学力」と強い相関があった。また、教員としての資質・能力（総合評価）は、「教師の仕事に対する使命感や誇り」、「子どもに対する愛情や責任感」、「こども理解力」、「子どもとのコミュニケーション能力」、「集団指導の力」、「学級づくりの力」、「豊かな人間性や社会性」、「道徳に関する指導力」と強い相関があった。

富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科の教育プログラムに対しては、4；とても評価している、3；やや評価している、がほとんどであり、高評価であることが分かった。

「社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと」に対する自由記述では、基本的なマナー、およびコミュニケーション能力に関する意見が多くみられた。「小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと」に対する自由記述では、子どもへの愛情を持った関りや子どもを理解しようとする姿勢、そしてコミュニケーション能力に関する意見が多くみられた。「富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待」に対する自由記述では、さまざまな意見が記載されていたが、富山大学での教員養成に対する強い期待が多くみられた。

本調査は、富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科 卒業（修了）生（小学校教員採用者対象）の就職先調査として初めての調査であり、今後はこの調査結果を基礎資料として、教委養成の向上のための対策を検討していくことが望まれる。

富山大学人間発達科学部の教育改善に向けた大学教育の成果に関する

アンケート調査のお願い

平素、富山大学人間発達科学部卒業生の教員採用に関しまして、一方ならぬご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨今の大学改革の流れを受けて、本学部でも学生の進路先の期待により応える教育の実施に向けて検討を進めております。このたび、学部における教育の方向性を確認するため、本学部卒業生を小学校教員として採用された学校を対象に本学部卒業生の評価、および大学教育に期待することを調査させていただくこととなりました。ご多忙中とは存じますが、趣旨をご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。

【調査に関する留意事項など】

1. いただいた回答は統計的に処理を行い、個別の回答結果を外部に公開することはありません。
2. 回答に迷う場合は最も近いものを選んで回答してください。回答しづらい、もしくは回答したくない設問に関しては空欄で結構です。
3. 本アンケートは令和元年 11 月末日までに同封の返信用封筒でお送り願います。

富山大学人間発達科学部の教育改善に向けた卒業生・修了生の資質・能力に関するアンケート調査

本調査は平成 28 年度～平成 30 年度に富山県小学校教員に採用された富山大学人間発達科学部卒業生・人間発達科学研究科修了生を対象として、調査時に在籍している小学校の校長先生に記入をお願いしております。

項目（1）～（3）は対象となる卒業生・修了生ごとに 1 人 1 枚ご記入してください。

次の項目で、該当する数字に○をつけるか、語句をご記入のうえ、御回答ください。

(1) 評価対象者の基本情報

① 性別

1. 男性 2. 女性

② 卒業年度

- 平成（ ）年度 富山大学（ 1. 人間発達科学部卒業 2. 人間発達科学研究科修了）

③ 採用年度

1. 平成 28 年度 2. 平成 29 年度 3. 平成 30 年度

(2) 当該卒業生・修了生の社会人としての資質・能力

		とても充足 している	やや充足 している	やや不足 している	とても不足 している
①	総合評価	4	3	2	1
②	課題や問題を自ら解決する能力	4	3	2	1
③	組織や社会の一員として 責任を持って行動する能力	4	3	2	1
④	他者と協力し合うコミュニケーション能力	4	3	2	1
⑤	口頭発表、説明、討論などの プレゼンテーション能力	4	3	2	1
⑥	母語以外の外国語(英語など)の語学力 (聞く、話す、読む、書く)	4	3	2	1
⑦	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	4	3	2	1
⑧	教養教育などによる幅広い知識	4	3	2	1

(3) 当該卒業生・修了生の小学校教員としての資質・能力

		とても充足 している	やや充足 している	やや不足 している	とても不足 している
①	総合評価	4	3	2	1
②	教師の仕事に対する使命感や誇り	4	3	2	1
③	子どもに対する愛情や責任感	4	3	2	1
④	子ども理解力	4	3	2	1
⑤	児童・生徒指導力	4	3	2	1
⑥	子どもとのコミュニケーション能力	4	3	2	1
⑦	集団指導の力	4	3	2	1
⑧	学級づくりの力	4	3	2	1
⑨	学習指導・授業づくりの力	4	3	2	1
⑩	教材解釈の力	4	3	2	1
⑪	豊かな人間性や社会性	4	3	2	1
⑫	道徳に関する指導力	4	3	2	1
⑬	英語に関する指導力	4	3	2	1
⑭	ICT を活用して授業を行う力	4	3	2	1
⑮	学校安全に関する知識	4	3	2	1
⑯	発達障害、外国籍児童など 特別の支援を必要とする児童の理解	4	3	2	1

富山大学人間発達科学部の教育改善に向けた教育プログラムに関するアンケート調査

本調査は小学校の校長先生からの人間発達科学部の学生に対する期待、および教育プログラムが教員養成にどの程度貢献しているかに関する記入をお願いしております。

次の項目で、該当する数字に○をつけるか、語句をご記入のうえ、御回答ください。

- (1) 社会人として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいことなどを自由にご記入ください。

- (2) 小学校教員として、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいことなどを自由にご記入ください。

- (3) 富山大学人間発達科学部の教育プログラムに対する評価 (別紙資料)

		とても評価 している	やや評価 している	あまり評価 していない	まったく評価 していない
①	学校インターンシップ (旧学級担任論) 「学びのアシスト」および 「スタディ・メイト・ジュニア」 (県教育委員会との連携事業)	4	3	2	1
②	子どもとのふれあい体験	4	3	2	1
③	観察実験アシスタント (県教育委員会との連携事業)	4	3	2	1
④	地域教材研究(富山学)	4	3	2	1

- (4) 富山大学人間発達科学部の小学校教員養成に対する期待などを自由にご記入ください。

学校教育学類進学者主な出身県別分布

		石川	富山	福井	新潟	長野	滋賀	岐阜	群馬	入学者数	4県占有率
2017	平成29年度	49	21	16	6	2	3	2	1	107	86%
2018	平成30年度	45	18	10	4	5	3	3	0	102	75%
2019	令和元年度	43	17	14	2	1	2	2	3	105	72%
2020	令和2年度	47	18	21	1	4	1	1	1	105	83%
2021	令和3年度	46	5	11	9	2	1	1	1	85	84%
		230	79	72	22	14	10	9	6		

根拠資料 | 学務課の高校別入学者数

就職者分布（高校除く）

		富山	福井	新潟
2015	平成27年度	10	10	2
2016	平成28年度	12	6	3
2017	平成29年度	5	10	4
2018	平成30年度	10	3	0
2019	令和元年度	11	7	3
		48	36	12
	年平均	9.6	7.2	2.4

根拠資料 | [卒業・修了者進路状況 | 金沢大学 \(kanazawa-u.ac.jp\)](https://www.kanazawa-u.ac.jp/)

B1-1 富山大学人間発達科学部入試 志願倍率等（平成28年度～令和2年度）

選抜区分	学科等	令和2年度							平成31年度							平成30年度							
		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	
一般入試 (前期日程)	発達教育学科	52	105	2.0	99	1.9	55	1.8	52	119	2.3	111	2.1	55	2.0	52	119	2.3	111	2.1	56	2.0	
	人間環境システム学科	文系	20	48	2.4	48	2.4	22	2.2	20	49	2.5	49	2.5	23	2.1	20	42	2.1	41	2.1	22	1.9
		理系	20	40	2.0	38	1.9	21	1.8	20	45	2.3	44	2.2	22	2.0	20	42	2.1	40	2.0	24	1.7
		実技系	10	20	2.0	19	1.9	11	1.7	10	43	4.3	42	4.2	10	4.2	10	22	2.2	22	2.2	10	2.2
	学科計	52	108	2.1	105	2.0	54	1.9	51	137	2.7	135	2.6	55	2.5	50	106	2.1	103	2.1	56	1.8	
小計	104	213	2.0	204	2.0	109	1.9	103	256	2.5	246	2.4	110	2.2	102	225	2.2	214	2.1	112	1.9		
一般入試 (後期日程)	発達教育学科	20	177	8.9	68	3.4	24	2.8	20	266	13.3	114	5.7	22	5.2	20	230	11.5	90	4.5	26	3.5	
	人間環境システム学科	25	196	7.8	59	2.4	33	1.8	25	227	9.1	92	3.7	26	3.5	25	206	8.2	81	3.2	32	2.5	
	小計	45	373	8.3	127	2.8	57	2.2	45	493	11.0	206	4.6	48	4.3	45	436	9.7	171	3.8	58	2.9	
一般入試 計	発達教育学科	72	282	3.9	167	2.3	79	2.1	72	385	5.3	225	3.1	77	2.9	72	349	4.8	201	2.8	82	2.5	
	人間環境システム学科	77	304	3.9	164	2.1	87	1.9	76	364	4.8	227	3.0	81	2.8	75	312	4.2	184	2.5	88	2.1	
	小計	149	586	3.9	331	2.2	166	2.0	148	749	5.1	452	3.1	158	2.9	147	661	4.5	385	2.6	170	2.3	
推薦入試	発達教育学科	8	25	3.1	25	3.1	8	3.1	8	20	2.5	20	2.5	8	2.5	8	22	2.8	22	2.8	8	2.8	
	人間環境システム学科	発達福祉コース	10	29	2.9	29	2.9	10	2.9	10	18	1.8	18	1.8	10	1.8	10	22	2.2	22	2.2	11	2.0
		地域スポーツコース	5	9	1.8	9	1.8	3	3.0	5	8	1.6	8	1.6	4	2.0	5	9	1.8	9	1.8	3	3.0
		人間情報コミュニケーションコース	15	38	2.5	38	2.5	13	2.9	15	26	1.7	26	1.7	14	1.9	15	31	2.1	31	2.1	14	2.2
	学科計	23	63	2.7	63	2.7	21	3.0	23	46	2.0	46	2.0	22	2.1	23	53	2.3	53	2.3	22	2.4	
帰国生徒入試	発達教育学科	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	1	-	1	-	0	-	若干名	0	-	-	-	-	-	
	人間環境システム学科	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	0	-	-	-	-	-	
	小計	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	2	-	2	-	1	2.0	若干名	0	-	0	-	0	-	
社会人入試	発達教育学科	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	3	-	2	-	1	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	0	-	-	-	-	-	若干名	2	-	2	-	1	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	小計	若干名	1	-	1	-	1	1.0	若干名	5	-	4	-	2	2.0	若干名	2	-	2	-	0	-	
私費外国人留学生入試	発達教育学科	若干名	2	-	1	-	0	-	若干名	0	-	-	-	-	若干名	1	-	1	-	1	-		
	人間環境システム学科	若干名	6	-	5	-	2	-	若干名	3	-	3	-	1	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	小計	若干名	8	-	6	-	2	3.0	若干名	3	-	3	-	1	3.0	若干名	2	-	2	-	1	2.0	
合計	発達教育学科	80	310	3.9	194	2.4	88	2.2	80	409	5.1	248	3.1	86	2.9	80	373	4.7	225	2.8	91	2.5	
	人間環境システム学科	90	348	3.9	207	2.3	102	2.0	90	396	4.4	259	2.9	98	2.6	90	345	3.8	217	2.4	102	2.1	
	小計	170	658	3.9	401	2.4	190	2.1	170	805	4.7	507	3.0	184	2.8	170	718	4.2	442	2.6	193	2.3	

選抜区分	学科等	平成29年度							平成28年度							
		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率	
一般入試 (前期日程)	発達教育学科	52	169	3.3	151	2.9	57	2.6	44	116	2.6	101	2.3	48	2.1	
	人間環境システム学科	文系	20	48	2.4	46	2.3	24	1.9	20	68	3.4	66	3.3	25	2.6
		理系	20	39	2.0	37	1.9	20	1.9	20	61	3.1	55	2.8	20	2.8
		実技系	10	28	2.8	26	2.6	11	2.4	10	44	4.4	43	4.3	10	4.3
	学科計	50	115	2.3	109	2.2	55	2.0	50	173	3.5	164	3.3	55	3.0	
小計	102	284	2.8	260	2.5	112	2.3	94	289	3.1	265	2.8	103	2.6		
一般入試 (後期日程)	発達教育学科	20	231	11.6	119	6.0	26	4.6	20	230	11.5	86	4.3	26	3.3	
	人間環境システム学科	25	181	7.2	67	2.7	32	2.1	25	275	11.0	108	4.3	28	3.9	
	小計	45	412	9.2	186	4.1	58	3.2	45	505	11.2	194	4.3	54	3.6	
一般入試 計	発達教育学科	72	400	5.6	270	3.8	83	3.3	64	346	5.4	187	2.9	74	2.5	
	人間環境システム学科	75	296	3.9	176	2.3	87	2.0	75	448	6.0	272	3.6	83	3.3	
	小計	147	696	4.7	446	3.0	170	2.6	139	794	5.7	459	3.3	157	2.9	
推薦入試	発達教育学科	発達福祉コース	8	36	4.5	35	4.4	8	4.4	8	21	2.6	21	2.6	8	2.6
		学校教育コース	8	29	3.6	29	3.6	8	3.6	8	29	3.6	29	3.6	8	3.6
		学科計	8	36	4.5	35	4.4	8	4.4	16	50	3.1	50	3.1	16	3.1
	人間環境システム学科	地域スポーツコース	10	31	3.1	31	3.1	10	3.1	10	29	2.9	29	2.9	10	2.9
		人間情報コミュニケーションコース	5	11	2.2	11	2.2	5	2.2	5	5	1.0	5	1.0	5	1.0
		学科計	15	42	2.8	42	2.8	15	2.8	15	34	2.3	34	2.3	15	2.3
小計	23	78	3.4	77	3.3	23	3.3	23	55	2.4	55	2.4	23	2.4		
帰国生徒入試	発達教育学科	若干名	2	-	2	-	0	-	若干名	1	-	1	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	0	-	-	-	-		
	小計	若干名	3	-	3	-	1	3.0	若干名	1	-	1	-	0	-	
社会人入試	発達教育学科	若干名	1	-	1	-	0	-	若干名	4	-	4	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	1	-	1	-	1	-	若干名	1	-	1	-	1	-	
	小計	若干名	2	-	2	-	1	2.0	若干名	5	-	5	-	1	5.0	
私費外国人留学生入試	発達教育学科	若干名	3	-	3	-	0	-	若干名	0	-	0	-	0	-	
	人間環境システム学科	若干名	5	-	4	-	1	-	若干名	1	-	1	-	1	-	
	小計	若干名	8	-	7	-	1	7.0	若干名	1	-	1	-	1	1.0	
合計	発達教育学科	80	442	5.5	311	3.9	91	3.4	80	401	5.0	242	3.0	90	2.7	
	人間環境システム学科	90	345	3.8	224	2.5	105	2.1	90	484	5.4	308	3.4	100	3.1	
	小計	170	787	4.6	535	3.1	196	2.7	170	885	5.2	550	3.2	190	2.9	

B1-2 金沢大学人間社会学域学校教育学類入試 志願倍率等（平成28年度～令和2年度）

年度	選抜区分	専修名	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	競争倍率
平成28年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	172	2.7	156	2.4	71	2.2
	推薦入試	特別支援教育専修	5	17	3.4	17	3.4	5	3.4
		美術教育専修	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3
		国語教育専修	3	8	2.7	8	2.7	3	2.7
		社会科教育専修	3	7	2.3	6	2.0	3	2.0
		数学教育専修	3	10	3.3	10	3.3	3	3.3
		理科教育専修	4	9	2.3	9	2.3	3	3.0
		音楽教育専修	4	7	1.8	7	1.8	4	1.8
		保健体育専修	5	9	1.8	9	1.8	5	1.8
		家政教育専修	3	5	1.7	5	1.7	3	1.7
	英語教育専修	3	3	1.0	3	1.0	2	1.5	
外国人留学生入試	全専修	若干名	1	—	1	—	0	—	
合計		100	252	2.5	235	2.4	105	2.2	
平成29年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	140	2.2	131	2.0	71	1.8
	推薦入試	特別支援教育専修	5	13	2.6	13	2.6	5	2.6
		美術教育専修	3	2	0.7	2	0.7	2	1.0
		国語教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		社会科教育専修	3	4	1.3	4	1.3	2	2.0
		数学教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0
		理科教育専修	4	6	1.5	6	1.5	4	1.5
		音楽教育専修	4	7	1.8	7	1.8	5	1.4
		保健体育専修	5	9	1.8	9	1.8	5	1.8
		家政教育専修	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3
	英語教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0	
外国人留学生入試	全専修	若干名	2	—	1	—	0	—	
合計		100	206	2.1	196	2.0	106	1.8	
平成30年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	171	2.7	162	2.5	73	2.2
	推薦入試	石川県教員希望枠	8	10	1.3	10	1.3	2	5.0
		国語・社会・英語教育専修	3	9	3.0	9	3.0	3	3.0
		数学・理科教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		音楽教育専修	4	8	2.0	8	2.0	5	1.6
		美術教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0
		保健体育専修	5	11	2.2	11	2.2	5	2.2
		家政教育専修	3	5	1.7	5	1.7	3	1.7
	特別支援教育専修	5	6	1.2	6	1.2	5	1.2	
	合計		100	233	2.3	224	2.2	102	2.2
平成31年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	186	2.9	173	2.7	74	2.3
	推薦入試	石川県教員希望枠	8	10	1.3	10	1.3	2	5.0
		国語・社会・英語教育専修	3	16	5.3	16	5.3	4	4.0
		数学・理科教育専修	3	8	2.7	8	2.7	4	2.0
		音楽教育専修	4	5	1.3	5	1.3	4	1.3
		美術教育専修	3	5	1.7	5	1.7	3	1.7
		保健体育専修	5	2	0.4	2	0.4	2	1.0
		家政教育専修	3	6	2.0	6	2.0	3	2.0
	特別支援教育専修	5	8	1.6	8	1.6	5	1.6	
	国際バカロレア入試	全専修	若干名	1	—	1	—	1	—
合計		100	247	2.5	234	2.3	102	2.3	

令和2年度	一般入試（前期日程）	全専修	64	149	2.3	134	2.1	75	1.8
	推薦入試	石川県教員希望枠	8	10	1.3	10	1.3	2	5.0
		国語・社会・英語教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		数学・理科教育専修	3	7	2.3	7	2.3	3	2.3
		音楽教育専修	4	6	1.5	6	1.5	4	1.5
		美術教育専修	3	1	0.3	1	0.3	1	1.0
		保健体育専修	5	7	1.4	7	1.4	5	1.4
		家政教育専修	3	4	1.3	4	1.3	3	1.3
		特別支援教育専修	5	9	1.8	9	1.8	5	1.8
	国際バカロレア入試	全専修	若干名	2	—	2	—	2	—
	外国人留学生入試	全専修	若干名	1	—	1	—	0	—
	合計		100	203	2.0	188	1.9	103	1.8

周辺大学教育学部の入学試験倍率

富山大学 人間発達科学部

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	2.1	2.8	2.3	2.7	170
一般入試	2.0	2.9	2.3	2.6	147
推薦入試	3.0	2.1	2.4	3.3	23

金沢大学 人間社会学域学校教育学類

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	1.8	2.3	2.2	1.8	100
一般入試	1.8	2.3	2.2	1.8	64
推薦入試等	1.9	2.2	2.1	1.9	36

福井大学 教育学部

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	2.5	3.0	2.4	2.2	100
一般入試	2.6	3.5	2.5	2.3	72
推薦入試	2.3	1.5	2.2	1.9	28

上越教育大学 学校教育学部

	2020	2019	2018	2017	募集定員
入試全体	2.7	2.2	2.7	2.6	160
一般入試	2.7	2.0	2.9	2.5	110
推薦入試	2.6	2.7	2.2	3.0	50

「大学受験パスナビ」より

B3-1 最近5カ年における県内高校等出身者の割合（富山大学）

学類 年度	人間発達科学部											
	志願者				合格者				入学者			
	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計
平成28	41.47% 367	26.44% 234	32.09% 284	885	42.63% 81	24.21% 46	33.16% 63	190	41.24% 73	25.99% 46	32.77% 58	177
平成29	39.77% 313	25.79% 203	34.43% 271	787	36.22% 71	23.98% 47	39.80% 78	196	36.26% 66	24.18% 44	39.56% 72	182
平成30	42.48% 305	23.68% 170	33.84% 243	718	36.27% 70	24.87% 48	38.86% 75	193	35% 63	24% 44	41% 73	180
平成31	41.37% 333	25.47% 205	33.17% 267	805	45.65% 84	26.63% 49	27.72% 51	184	47% 81	28% 48	25% 44	173
令和2	40.73% 268	24.62% 162	34.65% 228	658	38.42% 73	21.58% 41	40.00% 76	190	39.55% 70	22.03% 39	38.42% 68	177
5年平均	41.16% 317.2	25.28% 194.8	33.56% 258.6	770.6	39.77% 75.8	24.24% 46.2	35.99% 68.6	190.6	39.71% 70.6	24.86% 44.2	35.43% 63	177.8

注：端数が出るため、%の合計は必ずしも100%とにならない。

B3-2 最近5 年における県内高校等出身者の割合（金沢大学）

学類 年度	人間社会学域学校教育学類											
	志願者				合格者				入学者			
	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計	% 富山県	% 石川県	% 県外他	計
平成28	12.30% 31	49.60% 125	38.10% 96	252	18.10% 19	43.81% 46	38.10% 40	105	16.67% 17	44.12% 45	39.22% 40	102
平成29	13.59% 28	44.66% 92	41.75% 86	206	18.87% 20	46.23% 49	34.91% 37	106	18.87% 20	46.23% 49	34.91% 37	106
平成30	11.16% 26	54.08% 126	34.76% 81	233	17.65% 18	44.12% 45	38.24% 39	102	18% 18	45% 45	37% 37	100
平成31	14.57% 36	53.85% 133	31.58% 78	247	16.67% 17	42.16% 43	41.18% 42	102	17% 17	43% 43	40% 40	100
令和2	11.33% 23	49.26% 100	39.41% 80	203	16.50% 17	45.63% 47	37.86% 39	103	16.67% 17	46.08% 47	37.25% 38	102
5年平均	12.62% 28.8	50.48% 115.2	36.90% 84.2	228.2	17.57% 18.2	44.40% 46	38.03% 39.4	103.6	17.45% 17.8	44.90% 45.8	37.65% 38.4	102

注：端数が出るため、%の合計は必ずしも100%とならない。

B4 周辺大学を含めた教育学部の入学者の構成※(2018～2020年度)

※出身高校所在地別

金沢大学 人間社会学域 学校教育学類

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	学生数	都道府県	学生数
石川県	48人	石川県	43人	石川県	46人
福井県	21人	富山県	17人	富山県	18人
富山県	17人	福井県	14人	福井県	10人
長野県	4人	群馬県	3人	長野県	5人
静岡県	2人	新潟県	2人	新潟県	4人
総数	102人		100人		100人

県内入学率	47.1%	43.0%	46.0%
北陸3県	84.3%	74.0%	74.0%

福井大学 教育学部

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	都道府県	学生数	都道府県
福井県	85人	福井県	76人	福井県	89人
富山県	2人	愛知県	5人	京都府	2人
石川県	2人	石川県	4人	大阪府	2人
岐阜県	2人	静岡県	3人	北海道	1人
静岡県	2人	三重県	3人	群馬県	1人
総数	100人		102人		102人

県内入学率	85.0%	74.5%	87.3%
-------	-------	-------	-------

富山県	0人	富山県	0人
		石川県	0人

富山大学 人間発達科学部

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	学生数	都道府県	学生数
富山県	70人	富山県	81人	富山県	63人
石川県	39人	石川県	48人	石川県	44人
福井県	12人	長野県	6人	福井県	13人
長野県	7人	新潟県	5人	新潟県	12人
兵庫県	4人	岐阜県	5人	愛知県	10人
総数	177人		173人		180人

県内入学率	39.5%	46.8%	35.0%
北陸3県	68.4%	76.9%	66.7%
		福井県	4人

上越教育大学 学校教育学部

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
都道府県	学生数	都道府県	都道府県	学生数	都道府県
新潟県	48人	新潟県	56人	新潟県	39人
長野県	26人	長野県	29人	長野県	26人
富山県	22人	富山県	17人	石川県	24人
石川県	22人	石川県	17人	富山県	22人
静岡県	11人	静岡県	8人	福井県	8人
総数	168人		168人		167人

県内入学率	28.6%	33.3%	23.4%
-------	-------	-------	-------

B5-1 富山大学・金沢大学共同教育課程設置構想についての
アンケート

令和3年3月～5月
各高校にて実施

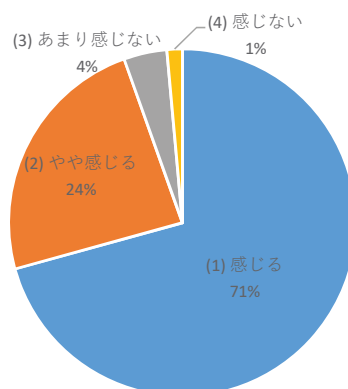
回答者

高校名	富山	魚津	高岡南	富山東	砺波
人数	18人	155人	156人	32人	99人
高校名	富山南	呉羽	南砺福野	高岡	計
人数	30人	48人	263人	43人	844人

1. 富山大学と金沢大学との共同教員養成課程（仮称）の設立によってできるようになる、以下の特徴に魅力を感じますか。

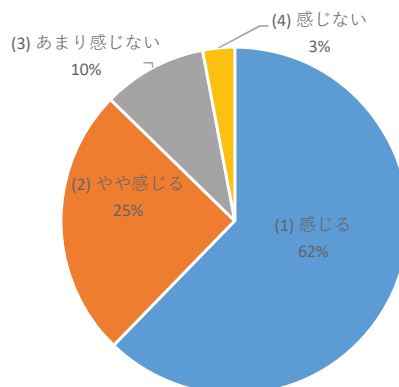
①取得免許の選択肢が広がる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
596	201	34	12



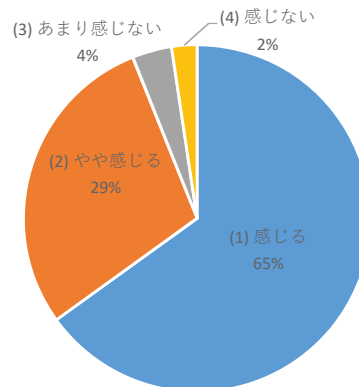
② 小学校と中学校（または、特別支援か幼稚園）の二つの教員免許を取得することができる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
525	211	82	25



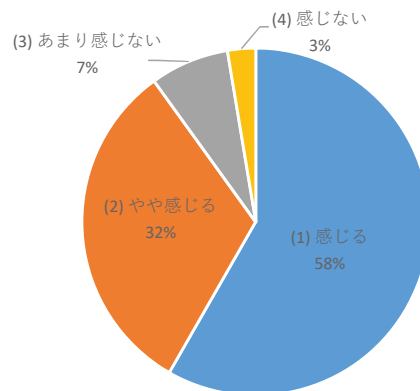
③大学の教員が充実することで、相手先大学の教員（富山大学生であれば金沢大学の教員）が専門とする分野を含めた幅広い教育を受けられる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
549	244	31	20



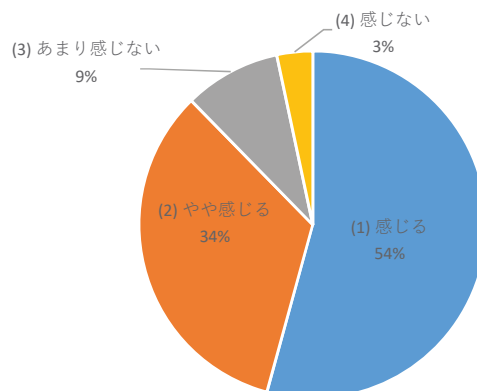
④双方向遠隔授業システムを用いることで、所属大学でもう一方の大学の授業を受けることができる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
492	268	62	22



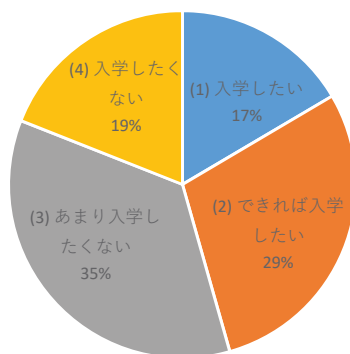
⑤合同の合宿授業などで、相手大学の学生と交流することができる。

(1) 感じる	(2) やや感じる	(3) あまり感じない	(4) 感じない
458	282	76	28



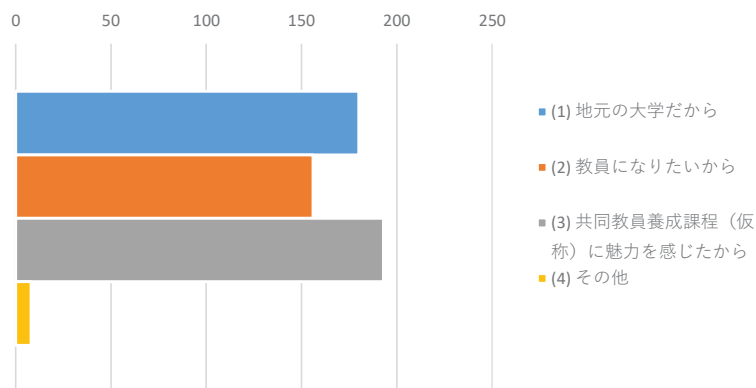
2.総合的に見て富山大学・金沢大学共同教員養成課程（仮称）に入学したいですか。

(1) 入学したい	(2) できれば入学したい	(3) あまり入学したくない	(4) 入学したくない
139	245	298	160



3.前項で「入学したい」、「できれば入学したい」と答えた方は、入学したいと思った理由を教えてください。（複数回答可）

(1) 地元の大学だから	(2) 教員になりたいから	(3) 共同教員養成課程（仮称）に魅力を感じたから	(4) その他
180	156	193	8



4. 共同教員養成課程（仮称）についての意見をお聞かせください。（回答抜粋）

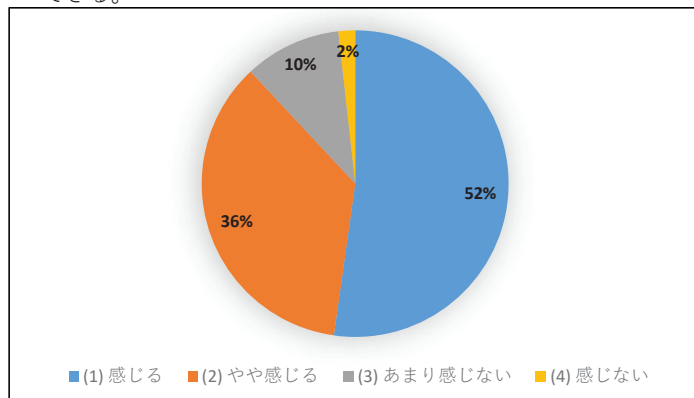
<p>とても魅力的で実現すればより多くの経験を積むことができると感じました。1つの学科で授業を受け続けるよりも、他県の授業を受けることで自分の受けてきた授業と合わせてさらに理解を深めることができると思うので、ぜひ実現してほしいです。</p>
<p>とても良いと思う。もともと入学したいと思っていたが、さらに入学したいと思うようになった。</p>
<p>共同で学習ができるだけでなく、様々なことが新たに可能になっており、画期的なシステムだと思った。</p>
<p>教員となるためには授業で教える技術だけでなく、人のかかわり方や生きていく上での知識なども必要になってくると思うので、このように幅広い知識を得る機会があるとすごくためになると思います。</p>
<p>教員になりたいと考えている学生にとっては、取得免許の選択肢が広がったり、幅広い教育を受けることができるようになるのでとてもいいシステムだと思う。</p>
<p>主要な教員免許のほとんどを取得できるというところに魅力を感じます。また、2つの大学それぞれの特性をいかした授業や、学生の交流を通して深く学べるところがいいと思いました。</p>
<p>取得できる免許が増えるのはすごいことだと思ったし、選択の幅が広がり良いと思いました。富山大学と金沢大学とでは距離があるので、遠隔で授業を受けられるのはとても便利だと思いました。</p>
<p>中学校教諭も将来の視野に入れていたので、選択の幅が広がって嬉しかった。</p>
<p>両大学の特色を生かした専門科目を授業を受けるために他の大学に行かずにとることができるのはすごく興味深くいいなと思いました。</p>
<p>教員を目指している方にとってはさまざまな教員との関りをもつことで自分自身がなりたい教員の理想像が見えてきてとても効果のあるものなのだと考え、良い取り組みだと思います。</p>
<p>質の高い活動ができ、望む教員としてのスキルが身に付きそうで魅力を感じた。</p>
<p>共同教員養成課程のおかげで、学べるが増えるのは、とても良いことだと思いました。私も教育系を目指すので興味があります。</p>

富山大学・金沢大学 共同教員養成課程（仮称）の設置構想についてのアンケート結果(共通設問抽出)

（実施校：金沢錦丘高校，金沢桜丘高校，七尾高校，小松高校，金沢泉丘高校，
金沢二水高校，羽咋高校，金沢西高校，小松明峰高校，小松大谷高校，金沢辰巳丘高校，金沢大学附属高校，飯田
高校，北陸学院高校，金沢伏見高校，大聖寺高校，鹿西高校）

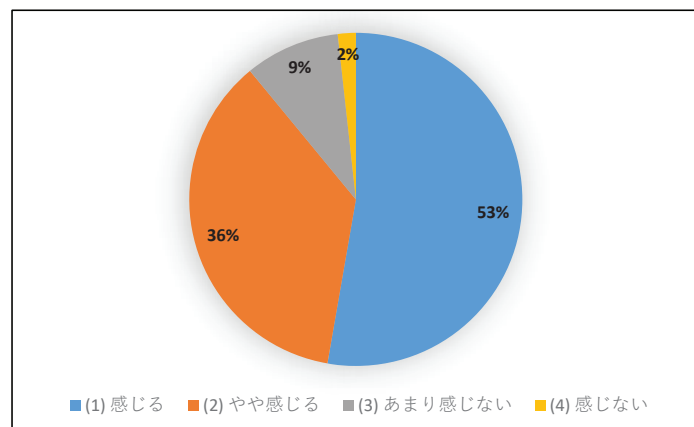
1 富山大学と金沢大学との共同教員養成課程（仮称）の設立によってできるようになる、以下の特徴に魅力を感じますか。

双方向遠隔授業システムを用いることで，所属大学でもう一方の大学の授業を受けることができる。



(1) 感じる	210
(2) やや感じる	144
(3) あまり感じない	41
(4) 感じない	7
	402

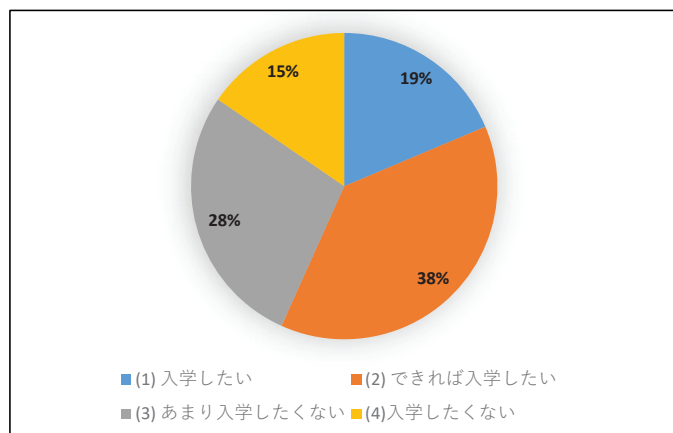
共同の合宿授業などで，相手大学の学生と交流することができる。



(1) 感じる	212
(2) やや感じる	146
(3) あまり感じない	37
(4) 感じない	7
	402

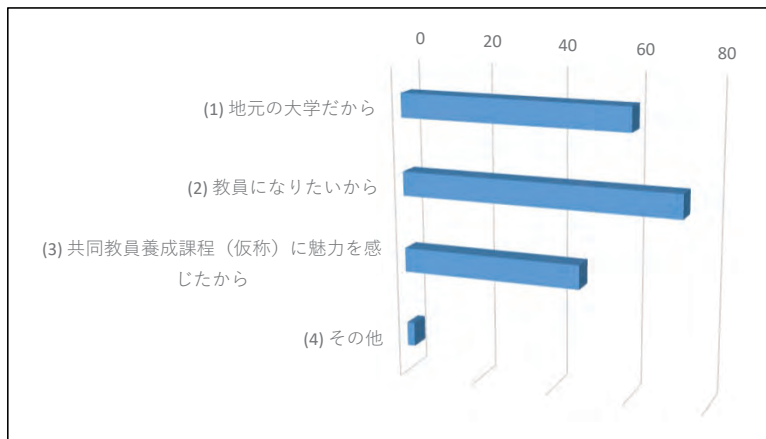
2.

総合的に見て富山大学・金沢大学共同教員養成課程（仮称）に入学したいですか。



(1) 入学したい	75
(2) できれば入学したい	153
(3) あまり入学したくない	112
(4) 入学したくない	62
	402

3. 前項で「入学したい」、「できれば入学したい」と答えた方は、入学したいと思った理由を教えてください



(1) 地元の大学だから	112
(2) 教員になりたいから	139
(3) 共同教員養成課程（仮称）に魅力を感じたから	94
(4) その他	4

349

(4) その他（回答抜粋）

- ・教育する場の選択肢が増えて興味が湧いた。
- ・どちらにするか決めかねていたので小学校と中学校の二つの教員免許を取得できることに魅力を感じた。
- ・連携して取り組むことで、色々なことを経験できるので、幅が広がるし、教員になったときに役立つこともたくさんあると思うので、とてもいいと思います。新鮮なことなので、わくわくすると思うし、楽しく学べそうでいいと思いました。
- ・様々な免許を取得できるということがいいと思いました。
- ・免許を取る時に受けられる専門的な科目の幅が増えるのはありがたいので、是非やって欲しい。
- ・取得できる免許の選択肢が広がったことはとても魅力的に感じました。
また、遠隔授業システムを使う事は効率が良いと感じた。もし、その課程があったら本当に入りたいと思った。
- ・自分は教育を目指しており、将来、社会で活躍できる人材を育成できるような人間になりたいと思っています。そのため、他校の生徒と意見を交換する機会が与えられることで、より物事を多角的に見られる自身の育成にも役立つのではないかと思います、是非、参加したいと思いました。
- ・高度化・複雑化する教育課題、プログラミング教員について学べるのがすごくいい。

B6 富山県、石川県、福井県の年齢別人口

富山県

年齢	男女計	男	女
0-4	35,966	18,516	17,450
0	6,752	3,498	3,254
1	7,083	3,648	3,435
2	7,290	3,766	3,524
3	7,631	3,913	3,718
4	7,210	3,691	3,519
5-9	39,114	20,122	18,992
5	7,423	3,809	3,614
6	7,699	3,930	3,769
7	7,877	4,032	3,845
8	7,948	4,185	3,763
9	8,167	4,166	4,001
10-14	43,718	22,527	21,191
10	8,460	4,359	4,101
11	8,738	4,436	4,302
12	8,709	4,472	4,237
13	8,814	4,575	4,239
14	8,997	4,685	4,312
15-19	49,136	25,224	23,912
15	9,442	4,827	4,615
16	9,425	4,825	4,600
17	10,070	5,153	4,917
18	9,966	5,121	4,845
19	10,233	5,298	4,935
20-24	45,305	24,345	20,960
20	10,223	5,199	5,024
21	10,245	5,362	4,883
22	8,951	4,818	4,133
23	7,740	4,373	3,367
24	8,146	4,593	3,553
25-29	41,190	22,124	19,066
25	7,631	4,181	3,450
26	7,870	4,232	3,638
27	8,431	4,582	3,849
28	8,408	4,406	4,002
29	8,850	4,723	4,127

資料：富山県、年齢（各歳）別、男女別人口（令和元年10月1日現在）

石川県

年齢	男女計	男	女
0-4	43,177	22,210	20,967
0	8,031	4,136	3,895
1	8,506	4,418	4,088
2	8,753	4,485	4,268
3	9,106	4,693	4,413
4	8,781	4,478	4,303
5-9	46,443	23,724	22,719
5	8,850	4,526	4,324
6	9,263	4,777	4,486
7	9,447	4,781	4,666
8	9,419	4,849	4,570
9	9,464	4,791	4,673
10-14	50,156	25,389	24,767
10	9,808	5,019	4,789
11	10,133	5,035	5,098
12	10,168	5,185	4,983
13	9,968	5,050	4,918
14	10,079	5,100	4,979
15-19	56,163	29,229	26,934
15	10,332	5,299	5,033
16	10,888	5,689	5,199
17	10,995	5,622	5,373
18	11,512	6,055	5,457
19	12,436	6,564	5,872
20-24	57,009	30,735	26,274
20	12,174	6,481	5,693
21	12,541	6,712	5,829
22	11,454	6,172	5,282
23	10,598	5,760	4,838
24	10,242	5,610	4,632
25-29	49,651	25,654	23,997
25	10,052	5,345	4,707
26	9,608	5,051	4,557
27	9,844	5,086	4,758
28	9,980	4,976	5,004
29	10,167	5,196	4,971

資料：年齢（各歳）別、男女別推計人口（令和元年10月1日現在）

福井県

年齢	男女計	男	女
0-4	29,407	15,108	14,299
0	5,554	2,870	2,684
1	5,830	2,972	2,858
2	6,003	3,075	2,928
3	6,171	3,188	2,983
4	5,849	3,003	2,846
5-9	31,952	16,399	15,553
5	5,991	3,092	2,899
6	6,272	3,169	3,103
7	6,390	3,303	3,087
8	6,633	3,407	3,226
9	6,666	3,428	3,238
10-14	35,048	17,971	17,077
10	6,938	3,571	3,367
11	7,017	3,580	3,437
12	7,066	3,623	3,443
13	7,009	3,598	3,411
14	7,018	3,599	3,419
15-19	37,821	19,263	18,558
15	7,112	3,637	3,475
16	7,520	3,894	3,626
17	7,589	3,851	3,738
18	7,633	3,864	3,769
19	7,967	4,017	3,950
20-24	34,184	18,130	16,054
20	8,014	4,089	3,925
21	7,894	4,106	3,788
22	6,784	3,597	3,187
23	5,640	3,131	2,509
24	5,852	3,207	2,645
25-29	31,239	16,430	14,809
25	5,778	2,993	2,785
26	5,896	3,184	2,712
27	6,312	3,339	2,973
28	6,581	3,490	3,091
29	6,672	3,424	3,248

資料：年齢別・男女別人口

令和元年10月1日

B7 大学等進学率

(大学，短期大学，大学・短期大学の通信教育部等)

年度	富山県		石川県		福井県		全国平均
	卒業生 総数	大学等 進学率	卒業生 総数	大学等 進学率	卒業生 総数	大学等 進学率	
平成28年度	9,161	52.0	10,203	54.7	7,348	56.1	54.7
平成29年度	9,115	52.2	10,550	54.4	7,564	55.9	54.7
平成30年度	9,195	51.9	10,357	55.1	7,365	56.8	54.7
令和元年度	9,142	52.7	10,439	54.9	7,167	56.0	54.7
令和2年度	9,192	55.3	10,418	56.4	7,260	56.9	55.8

※卒業生総数：全日制・定時制高校卒業生数

学校基本調査より

大学への進学者数の将来推計について

過去の進学率の伸び率を参考に、将来の進学率及び進学者数を推計。進学率については、都道府県別、男女別に推計。

推計の考え方

2014年度～2017年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって、今後2040年度まで大学進学率が上昇したと仮定して推計

- 男性の進学率が2017年度と比較して5 p t 以上上回った場合、+5 p t を上限として以降据え置き [12県]
- 女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定 [25県]
- 進学率伸び率がマイナスの場合、2017年度の大学進学率が今後維持されると仮定 [26県]

<進学率及び進学者数の推計>

	進学率(男女計)			進学者数(男女計)	
		男子	女子		増減
2017年	52.6%	55.9%	49.1%	629,733人	
2033年	56.7%	57.8%	55.5%	569,789人	▲59,944人
2040年	57.4%	58.4%	56.3%	506,005人	▲123,728人

出典:

文部科学省 将来構想部会(第13回) 資料2「大学への進学者数の将来推計について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryu/_icsFiles/afiefile/2018/03/08/1401754_03.pdf

推計の考え方

■大学進学者数推計

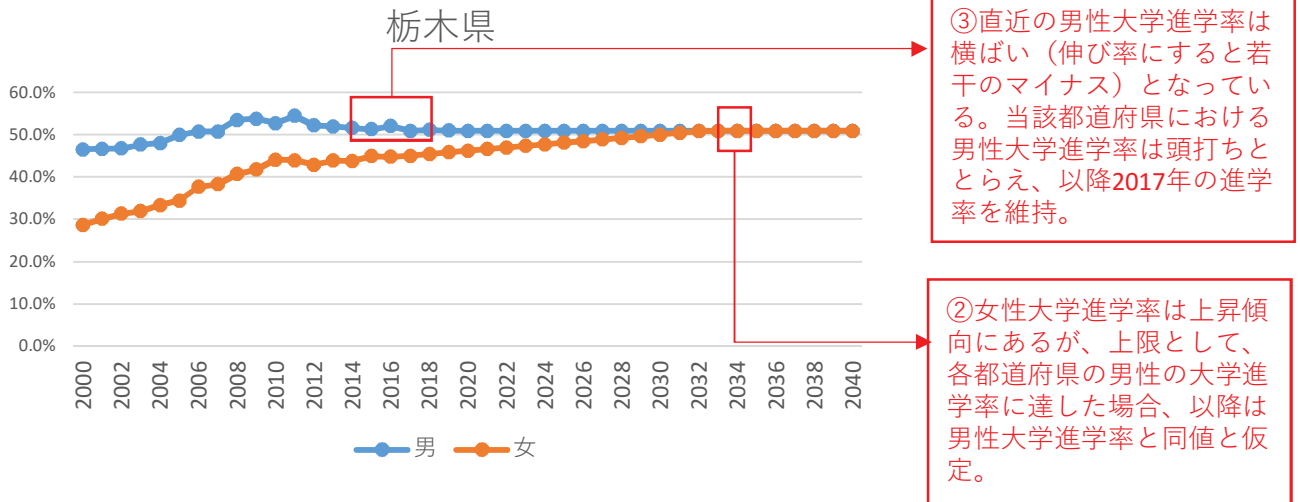
2040年度までの推計大学進学率 × 推計18歳人口

■進学率推計

2014年度～2017年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって今後2040年まで大学進学率が上昇したと仮定して推計。

※例外

- ①男性の進学率が2017年度と比較して5pt以上上回った場合、+5ptを上限として以降据置き。
- ②女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定。
- ③進学率伸び率がマイナスの場合、2017年度の大学進学率が今後維持されると仮定。



■18歳人口推計（2018～2040年）

①2018～2029年・・・文部科学省「学校基本統計」を元に推計

- 2018年：2015年度 中学校卒業者数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 2019年：2016年度 中学校卒業者数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 2020年：2017年度 中学校及び義務教育学校卒業者数並びに中等教育学校前期課程修了者数
- 2021年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の3年生並びに義務教育学校の9学年の数
- 2022年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の2年生並びに義務教育学校の8学年の数
- 2023年：2017年度 中学校及び中等教育学校前期課程の1年生並びに義務教育学校の7学年の数
- 2024年：2017年度 小学校及び義務教育学校の6年生の数
- 2025年：2017年度 小学校及び義務教育学校の5年生の数
- 2026年：2017年度 小学校及び義務教育学校の4年生の数
- 2027年：2017年度 小学校及び義務教育学校の3年生の数
- 2028年：2017年度 小学校及び義務教育学校の2年生の数
- 2029年：2017年度 小学校及び義務教育学校の1年生の数

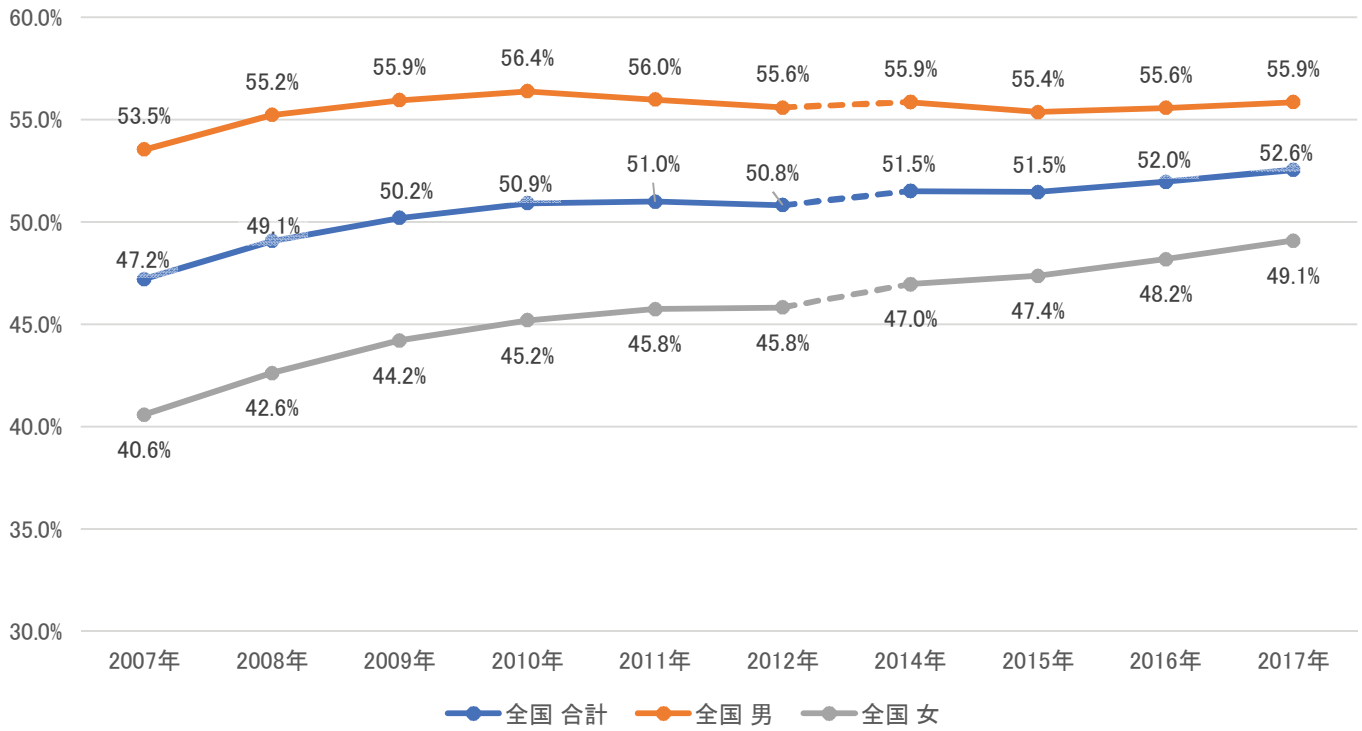
②2030～2034年・・・厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計

- 2030年：2011年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2031年：2012年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2032年：2013年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2033年：2014年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数
- 2034年：2015年度に生まれた者の数に生存率を乗じた数

③2035～2040年・・・国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口
(2034年の都道府県比率で案分)

直近の大学進学率の推移（男女別）

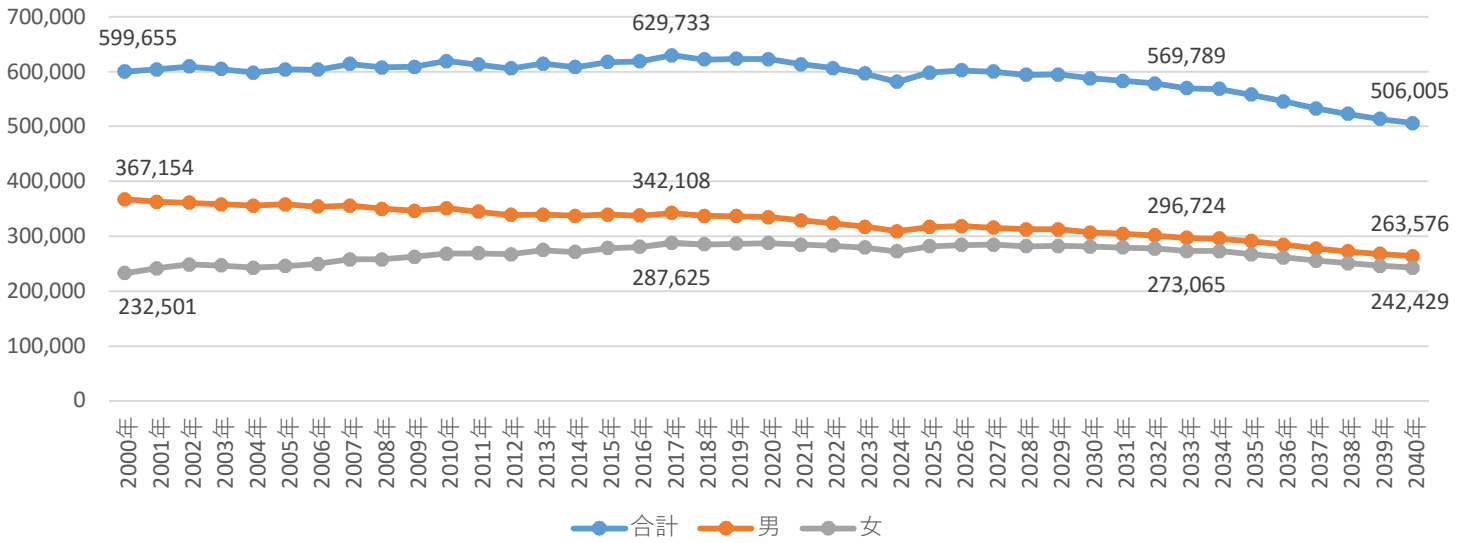
大学進学率推移(男女別)



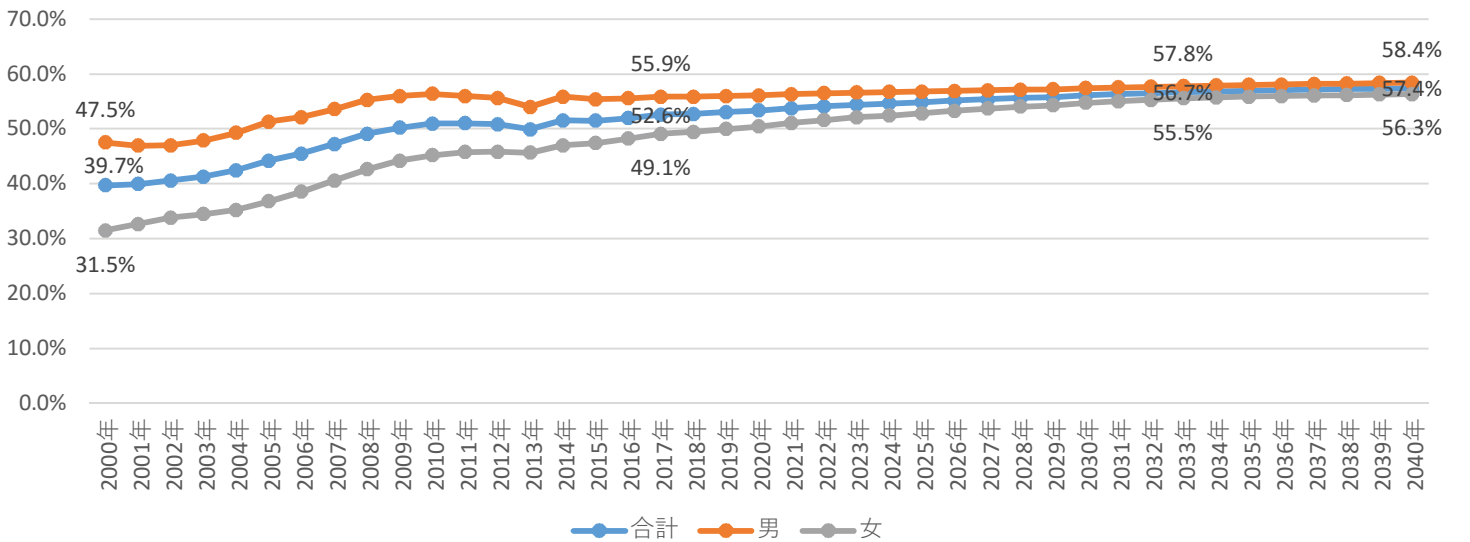
2000年度～2040年度の進学者数・進学率・18歳人口

※2018年度以降は推計値

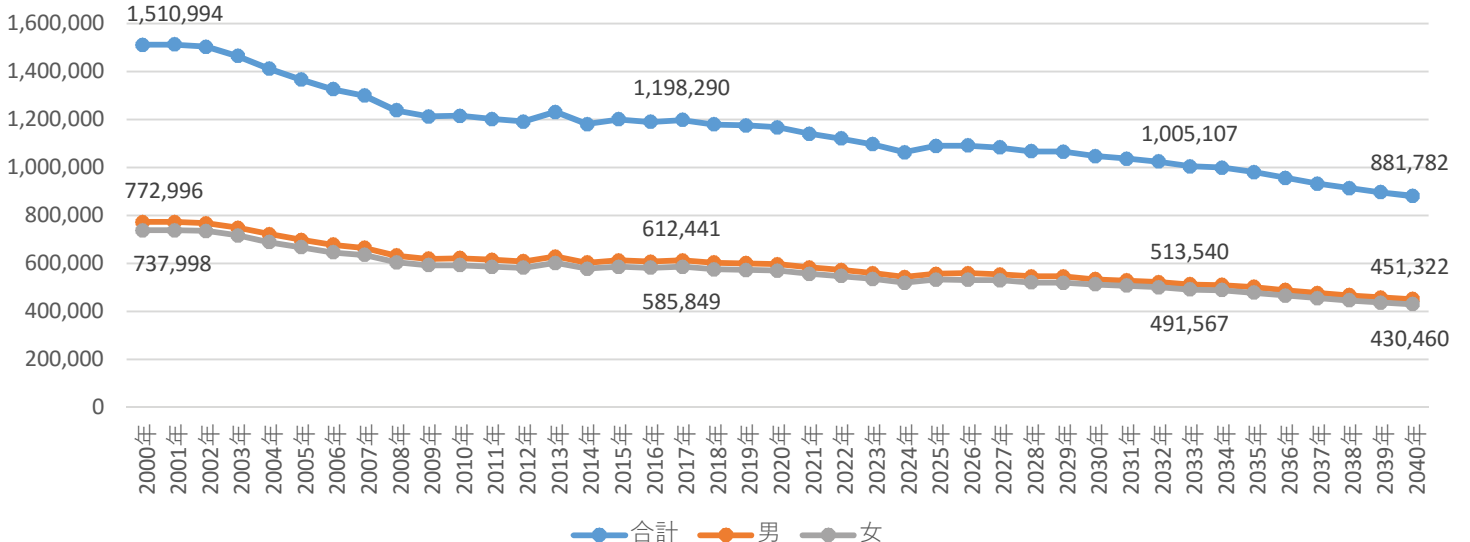
■進学者数



■進学率



■18歳人口



■都道府県別男女別大学進学率（実績・推計値）

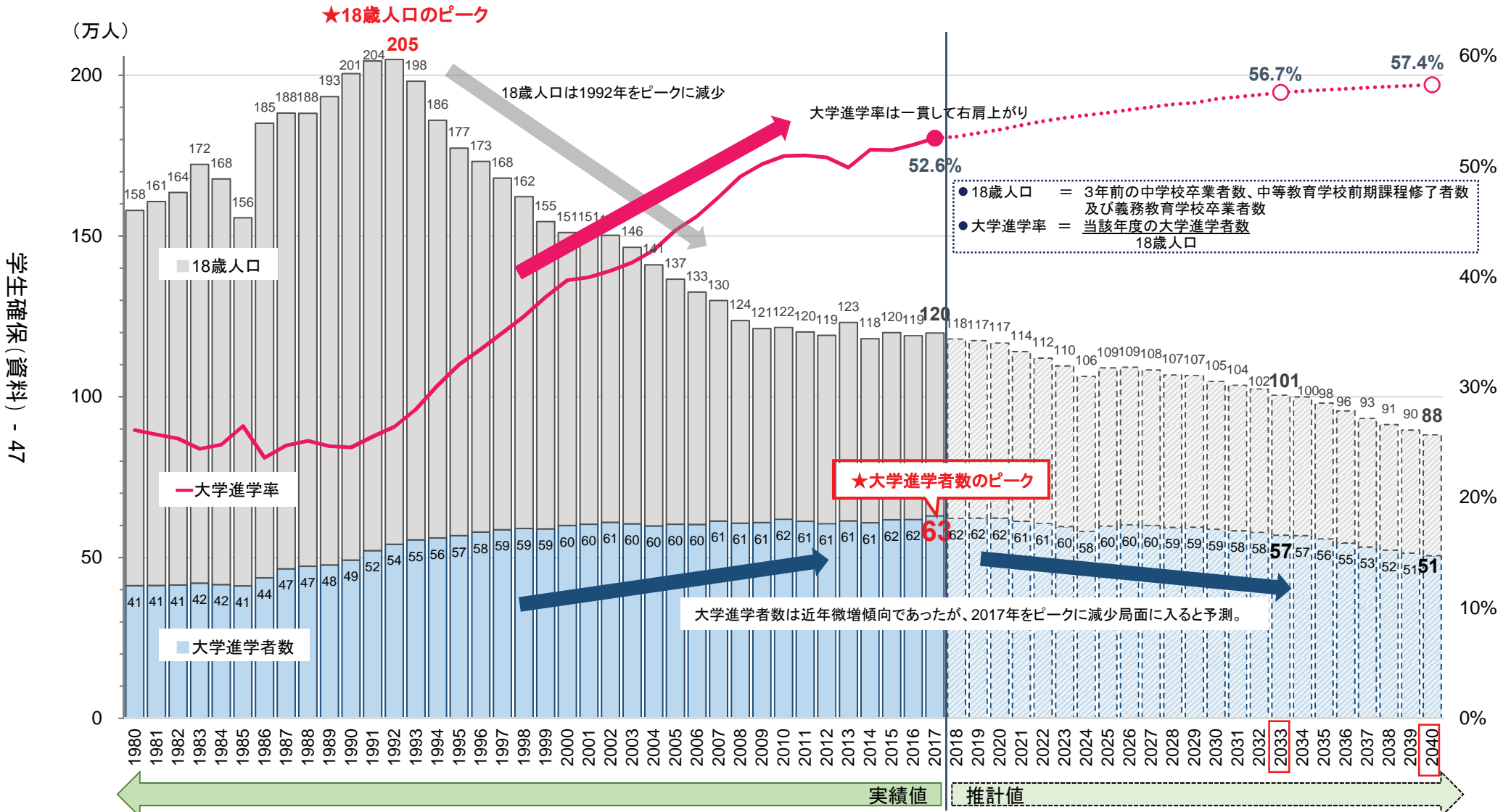
		進学率の伸び率を採用										推計値																							
		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年			
福井	合計	47.5%	47.3%	46.9%	44.8%	45.5%	46.9%	47.8%	50.2%	51.6%	53.2%	55.1%	57.0%	58.7%	60.0%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	
	男	54.3%	53.5%	53.0%	50.6%	51.0%	52.8%	51.8%	55.1%	55.6%	56.8%	58.0%	59.2%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	60.1%	
山梨	合計	55.7%	55.8%	54.9%	56.5%	57.6%	56.2%	56.4%	60.6%	60.2%	60.6%	61.2%	62.0%	62.9%	63.6%	64.5%	65.1%	65.7%	66.0%	66.6%	66.9%	67.2%	67.6%	68.0%	68.5%	68.9%	69.4%	69.8%	70.3%	70.7%	71.2%	71.6%	71.6%	71.6%	
	男	64.3%	65.2%	62.7%	65.3%	66.1%	63.4%	63.4%	69.1%	69.1%	69.1%	69.4%	70.3%	71.3%	72.2%	73.2%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	74.1%	
長野	合計	43.7%	44.6%	44.4%	41.8%	43.5%	42.9%	43.5%	42.2%	42.2%	42.2%	42.1%	42.1%	42.1%	42.2%	42.1%	42.2%	42.1%	42.1%	42.1%	42.2%	42.2%	42.1%	42.1%	42.1%	42.1%	42.2%	42.2%	42.2%	42.2%	42.2%	42.2%	42.2%	42.2%	
	男	49.8%	50.2%	49.6%	46.5%	48.5%	47.7%	48.6%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.1%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	
岐阜	合計	46.8%	47.1%	45.1%	45.5%	46.1%	45.5%	45.2%	46.8%	46.8%	47.1%	47.3%	47.5%	47.8%	48.0%	48.3%	48.5%	48.8%	49.1%	49.3%	49.6%	49.9%	50.1%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	
	男	53.4%	53.7%	50.5%	50.6%	50.5%	49.1%	48.5%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	50.2%	
静岡	合計	47.9%	48.1%	47.7%	47.4%	48.2%	48.4%	47.7%	48.1%	48.1%	48.3%	48.4%	48.6%	48.7%	48.8%	49.0%	49.1%	49.3%	49.4%	49.4%	49.6%	49.7%	49.9%	50.0%	50.2%	50.3%	50.5%	50.6%	50.8%	50.9%	51.1%	51.2%	51.4%	51.4%	
	男	54.2%	54.5%	53.6%	52.7%	53.3%	53.6%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	52.1%	
愛知	合計	52.4%	51.7%	52.3%	51.8%	52.4%	52.3%	52.4%	52.2%	52.6%	53.0%	53.4%	53.8%	54.2%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	
	男	57.6%	55.9%	57.3%	56.0%	57.1%	55.7%	55.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	
三重	合計	45.5%	45.7%	46.0%	44.6%	45.8%	44.3%	44.0%	45.1%	45.1%	45.2%	45.2%	45.1%	45.2%	45.3%	45.3%	45.4%	45.5%	45.5%	45.6%	45.7%	45.7%	45.8%	45.9%	46.0%	46.0%	46.1%	46.2%	46.2%	46.3%	46.4%	46.4%	46.4%	46.4%	
	男	50.5%	50.0%	50.6%	47.4%	49.8%	47.7%	47.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	48.2%	
滋賀	合計	50.2%	49.2%	49.6%	48.0%	48.8%	47.5%	48.2%	49.4%	49.4%	49.5%	49.7%	49.9%	50.1%	50.3%	50.6%	50.8%	51.0%	51.3%	51.5%	51.8%	52.1%	52.3%	52.6%	52.9%	53.1%	53.4%	53.7%	54.0%	54.2%	54.5%	54.8%	55.1%	55.4%	
	男	57.3%	55.8%	55.8%	53.4%	53.7%	52.5%	52.6%	54.0%	54.0%	54.0%	54.0%	54.0%	54.0%	54.0%	54.0%	54.1%	54.2%	54.3%	54.4%	54.4%	54.5%	54.7%	54.8%	54.9%	55.0%	55.1%	55.2%	55.3%	55.4%	55.5%	55.6%	55.7%	55.7%	
京都	合計	63.9%	63.6%	64.6%	62.0%	63.2%	64.4%	65.2%	64.7%	65.8%	66.3%	66.9%	67.4%	68.0%	68.5%	69.2%	69.7%	70.1%	70.4%	70.7%	71.0%	71.2%	71.6%	71.8%	72.1%	72.5%	72.8%	73.1%	73.4%	73.7%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	
	男	70.0%	68.6%	70.3%	66.5%	67.1%	68.6%	68.8%	68.8%	69.7%	70.2%	70.8%	71.3%	71.9%	72.5%	73.0%	73.6%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%	73.8%
大阪	合計	53.0%	53.6%	53.9%	52.1%	55.1%	55.4%	56.2%	55.3%	55.9%	56.2%	56.6%	56.9%	57.3%	57.6%	58.0%	58.4%	58.7%	59.1%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%
	男	60.3%	60.0%	60.1%	56.9%	60.8%	60.6%	60.6%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%	59.5%
兵庫	合計	53.5%	53.3%	53.6%	53.0%	54.5%	54.6%	54.0%	55.0%	55.1%	55.3%	55.5%	55.7%	55.9%	56.1%	56.3%	56.5%	56.7%	56.9%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%
	男	57.7%	57.0%	57.0%	55.5%	57.3%	57.3%	56.3%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%
奈良	合計	55.9%	54.7%	55.9%	54.6%	56.1%	58.3%	56.1%	57.0%	57.6%	57.9%	58.2%	58.5%	58.9%	59.2%	59.5%	59.8%	60.1%	60.5%	60.8%	61.2%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%
	男	63.2%	61.3%	61.6%	60.1%	62.4%	62.0%	60.0%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%	61.4%
和歌山	合計	44.1%	43.1%	43.8%	42.8%	44.3%	41.8%	44.0%	43.2%	43.8%	44.3%	44.6%	45.0%	45.4%	45.9%	46.3%	46.7%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%
	男	50.7%	49.2%	49.2%	47.7%	50.5%	45.5%	47.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%	46.8%
鳥取	合計	39.6%	39.1%	37.7%	38.4%	37.4%	38.1%	39.3%	39.0%	39.9%	40.5%	41.2%	41.8%	42.4%	42.7%	42.9%	43.1%	43.4%	43.6%	43.8%	44.1%	44.3%	44.6%	44.8%	45.0%	45.3%	45.5%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%
	男	45.0%	44.3%	41.3%	43.0%	39.9%	41.5%	41.8%	40.6%	41.5%	41.7%	42.0%	42.2%	42.4%	42.7%	42.9%	43.1%	43.4%	43.6%	43.8%	44.1%	44.3%	44.6%	44.8%	45.0%	45.3%	45.5%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%
島根	合計	39.6%	38.6%	40.2%	39.2%	41.1%	39.6%	39.9%	40.7%	40.8%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.4%	41.5%	41.7%	41.8%	41.9%	42.0%	42.1%	42.3%	42.5%	42.5%	42.6%	42.8%	42.9%	43.0%	43.2%	43.3%	43.4%	43.5%	43.5%	43.5%	
	男	45.2%	44.7%	44.8%	43.8%	45.8%	43.0%	42.8%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%	44.7%
岡山	合計	48.4%	47.9%	46.1%	45.8%	46.8%	46.0%	46.2%	47.9%	47.8%	47.9%	48.1%	48.4%	48.8%	49.1%	49.5%	49.8%	50.2%	50.5%	50.8%	51.2%	51.5%	51.9%	52.2%	52.5%	52.7%	52.9%	53.2%	53.4%	53.6%	53.9%	54.1%	54.1%	54.1%	
	男	52.3%	51.1%	48.4%	48.0%	48.8%	47.8%	48.2%	49.4%	49.4%	49.4%	49.5%	49.8%	50.0%	50.2%	50.4%	50.6%	50.9%	51.1%	51.3%	51.5%	51.8%	52.0%	52.2%	52.5%	52.7%	52.9%	53.2%	53.4%	53.6%	53.9%	54.1%	54.1%	54.1%	
広島	合計	53.4%	54.1%	53.7%	53.2%	53.8%	53.4%	53.9%	54.9%	55.4%	55.9%	56.5%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%
	男	58.6%	59.1%	58.1%	56.9%	58.0%	56.5%	56.5%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%
山口	合計	36.5%	36.8%	36.7%	36.5%	37.9%	37.8%	37.7%	38.7%	38.9%	39.3%	39.7%	40.0%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%
	男	40.1%	40.7%	39.3%	38.8%	40.6%	41.0%	39.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%	40.4%

■都道府県別男女別大学進学率（実績・推計値）

		進学率の伸び率を採用										推計値																				
		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年
徳島	合計	46.5%	48.2%	45.1%	44.9%	45.2%	43.2%	46.2%	46.3%	46.3%	46.4%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.4%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%	46.3%
	男	48.1%	47.9%	45.3%	45.7%	45.3%	43.0%	45.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%	44.2%
	女	44.8%	48.5%	44.8%	44.0%	45.1%	43.3%	47.3%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%	48.5%
香川	合計	48.7%	48.2%	47.5%	45.7%	49.5%	47.7%	47.3%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.0%	49.1%	49.1%	49.2%	49.2%	49.3%	49.3%	49.3%	49.4%	49.4%	49.5%	49.5%	49.6%
	男	52.3%	51.8%	49.7%	49.7%	52.3%	50.1%	49.3%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%	50.9%
	女	44.8%	44.3%	45.1%	41.6%	46.7%	45.2%	45.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.1%	47.2%	47.3%	47.4%	47.5%	47.6%	47.7%	47.8%	47.8%	47.9%	48.0%	48.1%
愛媛	合計	44.7%	46.0%	44.4%	43.8%	45.0%	44.7%	45.5%	46.9%	47.1%	48.0%	48.6%	49.3%	50.0%	50.7%	51.4%	52.0%	52.4%	52.7%	53.1%	53.6%	54.0%	54.4%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%
	男	48.9%	49.9%	47.8%	47.2%	48.1%	47.1%	49.3%	49.6%	50.2%	50.8%	51.5%	52.2%	52.9%	53.6%	54.3%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%
	女	40.3%	41.8%	40.9%	40.1%	41.6%	42.1%	41.6%	44.1%	44.1%	44.8%	45.5%	46.2%	47.0%	47.7%	48.5%	49.3%	50.1%	50.9%	51.7%	52.5%	53.3%	54.2%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%	54.6%
高知	合計	38.1%	39.7%	38.3%	40.2%	39.2%	40.8%	40.8%	40.5%	41.4%	41.8%	42.3%	42.7%	43.1%	43.6%	44.0%	44.5%	45.0%	45.3%	45.5%	45.6%	45.8%	46.0%	46.2%	46.4%	46.6%	46.8%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%
	男	40.0%	40.6%	40.3%	40.9%	40.2%	41.6%	41.3%	41.9%	42.5%	43.0%	43.5%	44.0%	44.6%	45.1%	45.6%	46.2%	46.7%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%
	女	36.1%	38.8%	36.3%	39.5%	38.1%	39.9%	40.3%	39.1%	40.2%	40.6%	40.9%	41.3%	41.6%	42.0%	42.4%	42.8%	43.1%	43.5%	43.9%	44.3%	44.7%	45.1%	45.5%	45.9%	46.3%	46.7%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%
福岡	合計	46.2%	46.8%	46.1%	45.5%	47.4%	47.4%	47.4%	48.2%	48.3%	48.5%	48.7%	48.9%	49.1%	49.4%	49.6%	49.9%	50.1%	50.4%	50.6%	50.9%	51.1%	51.4%	51.6%	51.9%	52.2%	52.4%	52.7%	53.0%	53.2%	53.4%	53.5%
	男	51.6%	51.0%	50.7%	49.4%	51.1%	51.5%	50.8%	51.6%	51.6%	51.6%	51.7%	51.7%	51.8%	51.9%	52.0%	52.1%	52.2%	52.3%	52.4%	52.5%	52.6%	52.6%	52.7%	52.8%	52.9%	53.0%	53.1%	53.2%	53.3%	53.4%	53.5%
	女	40.5%	42.3%	41.4%	41.5%	43.7%	43.2%	43.9%	44.7%	44.8%	45.2%	45.6%	46.0%	46.4%	46.8%	47.2%	47.6%	48.0%	48.4%	48.8%	49.2%	49.6%	50.1%	50.5%	50.9%	51.4%	51.8%	52.3%	52.7%	53.2%	53.4%	53.5%
佐賀	合計	39.3%	38.0%	36.7%	37.1%	38.2%	39.1%	38.5%	39.4%	39.5%	39.9%	40.1%	40.4%	40.7%	41.0%	41.3%	41.7%	42.0%	42.2%	42.6%	43.0%	43.3%	43.6%	43.9%	44.3%	44.6%	45.0%	45.3%	45.7%	46.0%	46.4%	46.7%
	男	43.4%	41.0%	40.1%	40.2%	41.5%	42.4%	41.9%	42.3%	42.5%	42.7%	43.0%	43.2%	43.4%	43.6%	43.8%	44.0%	44.2%	44.4%	44.7%	44.9%	45.1%	45.3%	45.5%	45.8%	46.0%	46.2%	46.4%	46.6%	46.9%	47.1%	47.3%
	女	35.0%	34.5%	33.0%	33.8%	34.6%	35.8%	34.9%	36.2%	36.3%	36.7%	37.1%	37.5%	38.0%	38.4%	38.8%	39.2%	39.6%	40.1%	40.5%	40.9%	41.4%	41.8%	42.3%	42.7%	43.2%	43.7%	44.2%	44.6%	45.1%	45.6%	46.1%
長崎	合計	37.1%	37.4%	37.3%	37.0%	38.3%	36.9%	39.0%	38.3%	38.6%	38.9%	39.1%	39.3%	39.5%	39.8%	40.0%	40.2%	40.4%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.7%	40.8%	40.8%	40.8%	40.9%	40.9%	40.9%	41.0%	41.0%	41.1%
	男	39.6%	39.5%	39.7%	38.8%	40.4%	39.0%	41.5%	39.7%	40.2%	40.3%	40.3%	40.4%	40.4%	40.4%	40.5%	40.5%	40.5%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.7%	40.8%	40.8%	40.8%	40.9%	40.9%	40.9%	41.0%	41.0%	41.1%
	女	34.4%	35.0%	34.9%	35.1%	36.1%	34.7%	36.3%	36.9%	37.0%	37.4%	37.8%	38.2%	38.6%	39.1%	39.5%	39.9%	40.4%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.7%	40.8%	40.8%	40.8%	40.9%	40.9%	40.9%	41.0%	41.0%	41.1%
熊本	合計	37.9%	39.2%	38.1%	38.8%	41.1%	40.6%	41.5%	42.3%	42.4%	42.9%	43.3%	43.8%	44.2%	44.7%	45.1%	45.6%	46.1%	46.5%	47.0%	47.5%	48.0%	48.5%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%
	男	39.1%	41.2%	39.8%	40.4%	43.0%	42.7%	43.8%	43.8%	44.1%	44.5%	44.8%	45.2%	45.5%	45.9%	46.2%	46.6%	46.9%	47.3%	47.7%	48.0%	48.4%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%
	女	36.6%	37.0%	36.3%	37.0%	39.2%	38.3%	39.1%	40.6%	40.6%	41.2%	41.7%	42.3%	42.8%	43.4%	44.0%	44.6%	45.2%	45.8%	46.4%	47.0%	47.6%	48.3%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%	48.8%
大分	合計	36.8%	38.4%	36.8%	36.4%	36.9%	36.8%	36.6%	36.9%	36.9%	37.0%	36.9%	36.9%	37.0%	37.0%	37.0%	37.0%	37.1%	37.1%	37.2%	37.2%	37.2%	37.3%	37.3%	37.3%	37.4%	37.4%	37.4%	37.5%	37.5%	37.5%	37.6%
	男	42.6%	42.5%	40.3%	39.4%	40.9%	40.4%	40.5%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%	40.6%
	女	30.9%	34.3%	32.9%	33.3%	32.8%	33.0%	32.4%	33.2%	33.2%	33.2%	33.2%	33.2%	33.3%	33.3%	33.3%	33.4%	33.5%	33.5%	33.6%	33.7%	33.7%	33.8%	33.9%	33.9%	34.0%	34.1%	34.1%	34.2%	34.3%	34.3%	34.4%
宮崎	合計	36.4%	35.7%	35.3%	35.0%	36.5%	36.4%	38.2%	37.8%	38.6%	39.2%	39.8%	40.4%	40.8%	40.9%	40.9%	41.0%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.3%	41.4%	41.5%	41.5%	41.6%	41.7%	41.7%	41.8%	41.8%	41.9%	42.0%
	男	40.0%	39.6%	38.5%	38.4%	40.9%	38.8%	42.0%	40.0%	40.6%	40.6%	40.7%	40.7%	40.8%	40.9%	40.9%	41.0%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.3%	41.4%	41.5%	41.5%	41.6%	41.7%	41.7%	41.8%	41.8%	41.9%	42.0%
	女	32.6%	31.5%	31.9%	31.4%	32.1%	33.8%	34.4%	35.3%	36.6%	37.7%	38.9%	40.1%	40.8%	40.9%	40.9%	41.0%	41.1%	41.1%	41.2%	41.3%	41.3%	41.4%	41.5%	41.5%	41.6%	41.7%	41.7%	41.8%	41.8%	41.9%	42.0%
鹿児島	合計	34.9%	35.1%	34.5%	34.2%	35.0%	35.1%	35.8%	37.7%	38.2%	39.2%	40.2%	41.1%	42.0%	42.3%	42.8%	43.3%	43.8%	44.2%	44.7%	45.2%	45.7%	46.3%	46.8%	47.4%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%
	男	41.4%	40.9%	39.6%	39.5%	39.5%	40.8%	41.4%	42.7%	43.7%	44.8%	45.9%	47.0%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%
	女	28.0%	29.0%	29.1%	28.7%	30.2%	29.2%	30.1%	32.5%	32.5%	33.3%	34.1%	35.0%	35.8%	36.7%	37.7%	38.6%	39.6%	40.6%	41.6%	42.6%	43.7%	44.8%	45.9%	47.1%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%	47.7%
沖縄	合計	34.3%	34.3%	34.5%	35.7%	36.8%	37.3%	36.7%	37.1%	37.2%	37.3%	37.4%	37.6%	37.7%	37.8%	38.0%	38.1%	38.2%	38.4%	38.5%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%
	男	35.6%	36.0%	36.4%	37.3%	38.7%	39.3%	38.3%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%
	女	32.9%	32.5%	32.5%	34.0%	34.7%	35.1%	34.9%	35.6%	35.7%	36.0%	36.3%	36.5%	36.8%	37.0%	37.3%	37.6%	37.9%	38.1%	38.4%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%	38.6%

大学進学者数等の将来推計について

- 18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は一貫して上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成(2034年の都道府県比率で案分)
 ○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)①

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
18歳人口【2017】	47,624	13,256	12,530	22,026	9,303	10,850	19,782	28,661	18,920	19,530	65,774	55,647
高校等卒業生数【2017】	42,484	12,094	11,558	19,806	8,524	10,073	17,607	25,284	17,493	17,056	57,262	49,330
大学進学者数【2017】	20,912	5,056	4,735	10,132	3,592	4,240	7,785	14,793	9,085	9,139	34,585	29,574
大学進学率【2017】	43.9%	38.1%	37.8%	46.0%	38.6%	39.1%	39.4%	51.6%	48.0%	46.8%	52.6%	53.1%
(国公私別)【2017】	9.8% 2.6% 31.5%	10.4% 4.3% 23.4%	10.4% 5.1% 22.3%	8.5% 2.4% 35.1%	12.6% 4.1% 21.9%	10.6% 2.8% 25.7%	7.5% 2.4% 29.5%	8.1% 1.8% 41.7%	8.1% 1.8% 38.1%	7.6% 3.7% 35.5%	3.8% 0.8% 48.0%	4.3% 0.5% 48.3%
短大進学率【2017】	5.3%	5.6%	4.5%	3.8%	6.5%	5.9%	5.4%	3.3%	4.6%	4.9%	4.1%	3.5%
専門学校進学率(現役)【2017】	21.9%	15.1%	17.4%	15.7%	17.0%	18.5%	18.8%	17.9%	17.3%	18.4%	16.7%	17.8%
大学数【2017】	38	10	6	14	7	6	8	9	9	13	28	27
(国公私別)【2017】	7 5 26	1 2 7	1 1 4	2 1 11	1 3 3	1 2 3	1 2 5	3 1 5	1 0 8	1 4 8	1 1 26	1 1 25
入学定員【2017】	18,917	3,472	2,826	11,374	2,090	2,624	3,389	6,948	4,703	6,381	29,340	26,060
入学定員(国公私別)【2017】	5,617 1,095 12,205	1,322 510 1,640	1,030 440 1,356	2,741 415 8,218	955 665 470	1,675 143 806	945 454 1,990	3,737 170 3,041	910 0 3,793	1,098 1,482 3,801	1,535 395 27,410	2,598 180 23,282
大学入学者数【2017】	19,053	3,421	2,625	11,845	2,059	2,794	3,351	7,261	4,597	6,720	30,804	26,505
(国公私別)【2017】	5,846 1,157 12,050	1,352 548 1,521	1,091 463 1,071	2,825 438 8,582	1,000 666 393	1,731 151 912	993 461 1,897	3,901 170 3,190	951 0 3,646	1,141 1,696 3,883	1,594 405 28,805	2,701 183 23,621
県外から流入【2017】	5,000	1,473	1,266	5,957	1,195	1,906	1,774	4,298	2,543	4,086	20,387	16,772
県内から流出【2017】	6,859	3,108	3,376	4,244	2,728	3,352	6,208	11,830	7,031	6,505	24,168	19,841
流出入差(流入-流出)【2017】	-1,859	-1,635	-2,110	1,713	-1,533	-1,446	-4,434	-7,532	-4,488	-2,419	-3,781	-3,069
自県進学率【2017】	67.2%	38.5%	28.7%	58.1%	24.1%	20.9%	20.3%	20.0%	22.6%	28.8%	30.1%	32.9%
18歳人口推計【2040】	31,499	7,499	7,607	15,601	5,135	6,755	11,794	19,251	13,491	12,581	47,985	41,481
大学進学者数推計【2040】	17,121	3,397	3,340	7,409	2,098	2,639	5,598	10,305	6,868	6,172	28,770	23,873
大学進学率推計【2040】	54.4%	45.3%	43.9%	47.5%	40.9%	39.1%	47.5%	53.5%	50.9%	49.1%	60.0%	57.6%
大学入学者数推計【2040】	15,389	2,408	1,866	8,533	1,391	1,947	2,422	5,507	3,432	4,951	25,630	21,767
(国公私別)【2040】(※注)	4,722 935 9,733	952 386 1,071	775 329 761	2,035 316 6,182	675 450 265	1,206 105 636	718 333 1,371	2,959 129 2,420	710 0 2,722	841 1,250 2,861	1,326 337 23,966	2,218 150 19,398
入学定員充足率推計【2040】	81.4%	69.4%	66.0%	75.0%	66.5%	74.2%	71.5%	79.3%	73.0%	77.6%	87.4%	83.5%
(国公私別)【2040】(※注)	84.1% 85.3% 79.7%	72.0% 75.6% 65.3%	75.3% 74.8% 56.1%	74.2% 76.0% 75.2%	70.7% 67.6% 56.5%	72.0% 73.6% 78.9%	75.9% 73.4% 68.9%	79.2% 75.8% 79.6%	78.0%	71.8% 76.6% 84.3%	75.3% 86.4% 85.3%	87.4% 85.4% 83.5%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)②

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
18歳人口【2017】	105,971	80,472	22,252	10,063	11,393	8,156	8,325	21,297	20,795	35,989	74,550	18,382
高校等卒業者数【2017】	102,326	66,400	19,427	9,115	10,550	7,564	8,229	18,898	18,379	32,825	65,204	16,212
大学進学者数【2017】	77,103	43,758	9,169	4,559	5,658	4,092	5,041	8,980	9,725	17,323	38,905	8,299
大学進学率【2017】	72.8%	54.4%	41.2%	45.3%	49.7%	50.2%	60.6%	42.2%	46.8%	48.1%	52.2%	45.1%
(国公私別)【2017】	6.2% 0.9% 65.7%	3.4% 1.1% 49.9%	8.6% 3.0% 29.7%	14.9% 4.1% 26.3%	13.8% 3.6% 32.3%	13.1% 5.6% 31.4%	8.9% 5.0% 46.7%	8.2% 3.3% 30.7%	9.1% 2.8% 34.9%	7.8% 3.5% 36.8%	9.1% 2.8% 40.3%	8.6% 2.3% 34.2%
短大進学率【2017】	2.5%	3.5%	4.3%	6.7%	6.9%	5.3%	5.6%	8.7%	6.9%	4.1%	3.8%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	11.7%	15.7%	26.0%	17.0%	13.5%	14.8%	17.5%	20.8%	13.2%	17.2%	12.6%	15.0%
大学数【2017】	138	32	18	5	12	6	7	9	12	12	51	7
(国公私別)【2017】	12 2 124	2 2 28	3 3 12	1 1 3	2 3 7	1 2 3	1 2 4	1 2 6	1 3 8	2 2 8	4 4 43	1 1 5
入学定員【2017】	142,722	45,971	5,907	2,450	5,901	2,275	3,835	3,428	4,820	8,001	40,877	3,110
入学定員(国公私別)【2017】	9,740 1,570 131,412	1,662 1,070 43,239	2,482 585 2,840	1,800 330 320	1,726 350 3,825	855 425 995	825 990 2,020	1,978 380 1,070	1,240 200 3,380	2,145 890 4,966	3,982 1,708 35,187	1,310 100 1,700
大学入学者数【2017】	153,113	49,011	5,972	2,480	6,063	2,418	3,829	3,621	4,649	8,157	43,163	3,299
(国公私別)【2017】	10,180 1,641 141,292	1,713 1,188 46,110	2,588 620 2,764	1,853 356 271	1,779 376 3,908	875 476 1,067	854 1,148 1,827	2,074 448 1,099	1,271 212 3,166	2,193 988 4,976	4,177 1,787 37,199	1,370 100 1,829
県外から流入【2017】	102,137	31,242	2,711	1,547	3,534	1,135	2,622	2,173	2,730	3,255	15,170	1,595
県内から流出【2017】	26,127	25,989	5,908	3,626	3,129	2,809	3,834	7,532	7,806	12,421	10,912	6,595
流出入差(流入-流出)【2017】	76,010	5,253	-3,197	-2,079	405	-1,674	-1,212	-5,359	-5,076	-9,166	4,258	-5,000
自県進学率【2017】	66.1%	40.6%	35.6%	20.5%	44.7%	31.4%	23.9%	16.1%	19.7%	28.3%	72.0%	20.5%
18歳人口推計【2040】	106,569	61,879	14,216	6,610	7,819	5,414	5,195	13,687	13,839	24,828	57,157	12,497
大学進学者数推計【2040】	77,539	34,848	5,863	3,157	4,179	3,255	3,721	5,770	6,949	12,762	31,099	5,804
大学進学率推計【2040】	72.8%	56.3%	41.2%	47.8%	53.4%	60.1%	71.6%	42.2%	50.2%	51.4%	54.4%	46.4%
大学入学者数推計【2040】	131,389	40,573	4,032	1,804	4,469	1,883	2,942	2,610	3,516	6,168	33,550	2,442
(国公私別)【2040】(※注)	8,736 1,408 121,246	1,418 983 38,171	1,747 419 1,866	1,348 259 197	1,311 277 2,881	681 371 831	656 882 1,404	1,495 323 792	961 160 2,395	1,658 747 3,762	3,247 1,389 28,914	1,014 74 1,354
入学定員充足率推計【2040】	92.1%	88.3%	68.3%	73.6%	75.7%	82.8%	76.7%	76.2%	73.0%	77.1%	82.1%	78.5%
(国公私別)【2040】(※注)	89.7% 89.7% 92.3%	85.3% 91.9% 88.3%	70.4% 71.6% 65.7%	74.9% 78.5% 61.6%	76.0% 79.2% 75.3%	79.7% 87.2% 83.5%	79.5% 89.1% 69.5%	75.6% 85.0% 74.0%	77.5% 80.2% 70.8%	77.3% 83.9% 75.8%	81.5% 81.3% 82.2%	77.4% 74.0% 79.6%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)③

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
18歳人口【2017】	14,537	24,543	85,687	54,774	14,072	9,998	5,427	6,517	19,189	27,297	13,098	7,159
高校等卒業生数【2017】	12,884	23,480	75,858	47,201	12,061	8,986	4,881	6,045	17,762	23,780	11,321	6,443
大学進学者数【2017】	7,182	15,884	47,347	30,147	8,016	4,324	2,115	2,650	9,183	14,995	5,069	3,318
大学進学率【2017】	49.4%	64.7%	55.3%	55.0%	57.0%	43.2%	39.0%	40.7%	47.9%	54.9%	38.7%	46.3%
(国公私別)【2017】	7.1% 2.9% 39.4%	8.4% 3.9% 52.4%	5.4% 2.7% 47.2%	8.5% 3.8% 42.7%	9.6% 3.9% 43.4%	9.5% 4.0% 29.7%	13.3% 3.1% 22.6%	13.9% 4.3% 22.5%	12.7% 3.4% 31.8%	11.6% 5.1% 38.2%	9.9% 4.1% 24.7%	14.5% 2.7% 29.1%
短大進学率【2017】	5.7%	5.4%	5.5%	4.4%	5.4%	5.6%	7.3%	6.9%	4.1%	3.8%	5.0%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2017】	16.9%	13.7%	15.0%	13.9%	14.1%	16.7%	19.3%	22.0%	17.1%	11.8%	16.5%	16.6%
大学数【2017】	8	34	55	37	11	3	3	2	17	20	10	4
(国公私別)【2017】	2 1 5	3 4 27	2 2 51	2 3 32	3 2 6	1 1 1	1 1 1	1 1 0	1 2 14	1 4 15	1 3 6	2 0 2
入学定員【2017】	7,098	32,736	51,582	26,955	4,813	1,605	1,496	1,457	9,670	13,531	4,226	2,983
入学定員(国公私別)【2017】	950 600 5,548	3,706 920 28,110	4,155 2,776 44,651	2,690 1,792 22,473	730 348 3,735	890 180 535	1,140 276 80	1,157 300 0	2,198 430 7,042	2,338 1,515 9,678	1,917 959 1,350	1,388 0 1,595
大学入学者数【2017】	7,498	33,783	54,891	28,060	4,993	1,640	1,591	1,516	9,330	13,547	4,290	2,769
(国公私別)【2017】	1,023 641 5,834	3,837 979 28,967	4,276 2,916 47,699	2,792 1,873 23,395	786 362 3,845	936 181 523	1,181 320 90	1,195 321 0	2,278 472 6,580	2,466 1,689 9,392	1,997 1,019 1,274	1,447 0 1,322
県外から流入【2017】	5,968	25,789	27,862	14,270	3,799	1,148	1,275	1,125	5,279	5,726	3,098	1,506
県内から流出【2017】	5,652	7,890	20,318	16,357	6,822	3,832	1,799	2,259	5,132	7,174	3,877	2,055
流出入差(流入-流出)【2017】	316	17,899	7,544	-2,087	-3,023	-2,684	-524	-1,134	147	-1,448	-779	-549
自県進学率【2017】	21.3%	50.3%	57.1%	45.7%	14.9%	11.4%	14.9%	14.8%	44.1%	52.2%	23.5%	38.1%
18歳人口推計【2040】	11,375	17,431	58,280	39,050	8,874	6,224	3,994	4,887	13,744	20,268	8,972	4,789
大学進学者数推計【2040】	6,233	12,868	34,683	22,294	5,452	2,914	1,821	2,127	7,436	11,564	3,623	2,216
大学進学率推計【2040】	54.8%	73.8%	59.5%	57.1%	61.4%	46.8%	45.6%	43.5%	54.1%	57.1%	40.4%	46.3%
大学入学者数推計【2040】	5,919	26,287	41,083	21,098	3,691	1,186	1,256	1,201	7,358	10,519	3,419	1,997
(国公私別)【2040】(※注)	808 506 4,606	2,986 762 22,540	3,200 2,182 35,700	2,099 1,408 17,590	581 268 2,842	677 131 378	932 253 71	946 254 0	1,796 372 5,189	1,915 1,312 7,293	1,592 812 1,015	1,044 0 953
入学定員充足率推計【2040】	83.4%	80.3%	79.6%	78.3%	76.7%	73.9%	84.0%	82.4%	76.1%	77.7%	80.9%	66.9%
(国公私別)【2040】(※注)	85.0% 84.3% 83.0%	80.6% 82.8% 80.2%	77.0% 78.6% 80.0%	78.0% 78.6% 78.3%	79.6% 76.9% 76.1%	76.1% 72.7% 70.7%	81.8% 91.5% 88.8%	81.8% 84.7%	81.7% 86.6% 73.7%	81.9% 86.6% 75.4%	83.0% 84.7% 75.2%	75.2% 59.8%

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)④

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	
18歳人口【2017】	9,652	13,586	6,626	48,031	9,058	14,269	17,635	10,921	11,299	16,389	16,978		
高校等卒業生数【2017】	8,662	11,480	6,081	42,435	8,106	12,977	15,622	10,102	10,329	14,765	14,607		
大学進学者数【2017】	4,733	6,373	2,685	23,157	3,566	5,471	7,453	4,029	4,267	6,184	6,304	19,041	
大学進学率【2017】	49.0%	46.9%	40.5%	48.2%	39.4%	38.3%	42.3%	36.9%	37.8%	37.7%	37.1%		
(国公私別)【2017】	12.5% 3.0% 33.5%	13.9% 3.6% 29.5%	8.7% 5.7% 26.1%	10.0% 3.0% 35.2%	12.5% 2.4% 24.5%	13.1% 4.5% 20.8%	9.6% 3.8% 28.9%	12.5% 3.7% 20.7%	12.0% 3.9% 21.9%	12.1% 2.7% 22.9%	9.7% 3.0% 24.5%		
短大進学率【2017】	5.2%	5.7%	6.0%	5.1%	5.2%	4.6%	3.5%	7.9%	5.6%	7.8%	3.8%		
専門学校進学率(現役)【2017】	15.5%	18.5%	17.6%	16.2%	15.1%	17.2%	17.7%	20.5%	16.0%	20.1%	25.0%		
大学数【2017】	4	5	3	35	2	8	9	5	7	6	8		
(国公私別)【2017】	1 1 2	1 1 3	1 2 0	3 4 28	1 0 1	1 1 6	1 1 7	1 1 3	1 2 4	2 0 4	1 3 4		
入学定員【2017】	2,184	3,630	1,935	24,675	1,741	4,021	5,902	3,520	2,510	3,700	3,912		
入学定員(国公私別)【2017】	1,239 90 855	1,770 100 1,760	1,075 860 0	4,111 1,970 18,594	1,291 0 450	1,641 690 1,690	1,672 480 3,750	1,070 80 2,370	1,035 300 1,175	2,075 0 1,625	1,547 640 1,725		
大学入学者数【2017】	2,077	3,789	2,045	26,320	1,772	3,921	5,851	3,097	2,329	3,570	4,244		
(国公私別)【2017】	1,279 90 708	1,866 100 1,823	1,131 914 0	4,234 2,083 20,003	1,339 0 433	1,687 747 1,487	1,737 525 3,589	1,105 83 1,909	1,064 310 955	2,164 0 1,406	1,589 676 1,979		
県外から流入【2017】	1,256	1,694	1,501	11,191	1,230	2,064	2,503	2,100	1,217	1,490	817		
県内から流出【2017】	3,912	4,278	2,141	8,028	3,024	3,614	4,105	3,032	3,155	4,104	2,877		
流出入差(流入-流出)【2017】	-2,656	-2,584	-640	3,163	-1,794	-1,550	-1,602	-932	-1,938	-2,614	-2,060		
自県進学率【2017】	17.3%	32.9%	20.3%	65.3%	15.2%	33.9%	44.9%	24.7%	26.1%	33.6%	54.4%		
18歳人口推計【2040】	6,712	8,981	4,366	39,997	6,371	9,514	13,828	8,020	8,133	12,605	14,974		
大学進学者数推計【2040】	3,330	4,901	2,049	21,390	2,978	3,907	6,743	3,013	3,414	6,010	5,778	16,724	
大学進学率推計【2040】	49.6%	54.6%	46.9%	53.5%	46.7%	41.1%	48.8%	37.6%	42.0%	47.7%	38.6%		
大学入学者数推計【2040】	1,549	2,907	1,562	23,092	1,519	3,088	5,149	2,512	1,917	3,268	3,807		
(国公私別)【2040】(※注)	954 67 528	1,432 77 1,399	864 698 0	3,715 1,827 17,549	1,148 0 371	1,329 588 1,171	1,529 462 3,158	896 67 1,548	876 255 786	1,981 0 1,287	1,425 606 1,775		
入学定員充足率推計【2040】	70.9%	80.1%	80.7%	93.6%	87.3%	76.8%	87.2%	71.4%	76.4%	88.3%	97.3%		
(国公私別)【2040】(※注)	77.0% 74.6% 61.7%	80.9% 76.7% 79.5%	80.4% 81.2%	90.4% 92.8% 94.4%	88.9%	82.5% 81.0% 85.3%	69.3% 91.4% 96.3%	84.2% 83.8% 84.2%	65.3% 84.6% 85.0%	66.9% 95.5%	79.2% 92.1% 94.8%	102.9%	

※「その他」とは「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である。(学校教育法施行規則第150条)

(※注)2017年の国公私の割合(実績値)のまま機械的に試算したもの。

高等教育に関する基礎データ(2017年基準+2040年推計)について

《注》

● 本資料では、これまで基準としていた2016年を最新の2017年に更新するとともに、国立教育政策研究所による推計(2015年の大学進学率が一定のまま推移すると仮定した場合の2033年の大学進学者数等の推計)ではなく、過去3年間の都道府県別・男女別の進学率の伸び率等を勘案した大学進学率の新たな推計に基づく2040年の大学進学者数等の推計を示している。

- **18歳人口**:各県における3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者
- **高校等卒業生数**:各県における当該年度の高等学校卒業生数及び中等教育学校後期課程修了者数
- **大学進学者数**:各県に所在する高校等を卒業した者で当該年度に全国いずれかの大学に進学した者の数(過年度卒業生等を含む)
- **大学進学率**:各県における18歳人口に占める大学進学者数の割合(過年度卒業生等を含む)
- **大学進学率(国公私別)**:各県における国公私別の「大学進学率」
- **短大進学率**:各県における18歳人口に占める短大進学者数の割合(過年度卒業生等を含む)
- **専門学校進学率(現役)**:各県における高校等卒業生数のうち、直ちに専門学校へ進学した者の割合(現役進学者のみ)
- **大学数**:各県に所在する大学の数(※大学本部の所在地による。大学院大学を含む。)
- **大学数(国公私別)**:各県に所在する国公私別の「大学数」
- **入学定員★**:各県に所在する大学(学部)の入学定員(※入学時の学部の所在地による。学部内の学科が複数の県にまたがる場合は、入学定員数が最も多い県に集計するなど補正している。)
【例:北里大学獣医学部の所在地は青森県十和田市であるが、1年次(入学時)は神奈川県相模原市のキャンパスで学ぶため、獣医学部の定員340名は青森県ではなく、神奈川県にカウントしている。】
- **入学定員(国公私別)★**:各県に所在する国公私別の大学(学部)の「入学定員」
- **大学入学者数★**:当該年度に、各県に所在する大学(※入学時の学部の所在地による。)に入学した者の数(過年度卒業生等を含む)
- **大学入学者数(国公私別)★**:各県に所在する国公私別の「大学入学者数」
- **県外から流入★**:当該大学の所在する県以外の高専等卒業生で当該大学へ入学した者(過年度卒業生等を含む)
- **県内から流出★**:当該大学の所在する県内の高専等卒業生で当該県(自県)以外の大学へ入学した者(過年度卒業生等を含む)
- **流出入差(流入-流出)★**:「県外から流入」-「県内から流出」
- **自県進学率★**:各県における「大学進学者数」のうち、自県に所在する大学に進学した者の数(過年度卒業生数を含む)
- **18歳人口推計【2040】**:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に都道府県別18歳人口比率で案分
- **大学進学者数推計【2040】**:2040年の都道府県別18歳人口推計×都道府県別大学進学率推計
- **大学進学率推計【2040】**:過去3年間(2014~2017年度)の都道府県別の大学進学率の伸び率を延長(※男性は進学率の上昇が著しい県は+5ptを上限とし、女性は同県の男性の進学率の同値を上限)して推計。
- **大学入学者数推計【2040】★**:2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別大学入学者比率で案分
- **大学入学者数推計(国公私別)【2040】★**:2040年の都道府県別大学進学者数推計を2017年現在の都道府県別・国公私別大学入学者比率で案分
- **入学定員充足率推計【2040】★**:大学入学者数推計【2040】÷入学定員【2017】×100(入学定員が2017年と同じと仮定した場合の2040年の入学定員充足率推計)
- **入学定員充足率推計(国公私別)【2040】★**:各県に所在する国公私別の大学入学定員充足率推計(2040年)

《出典》上記のうち、入学定員以外:文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」を元に作成、★印は二次利用により得たデータを元に作成。
入学定員:文部科学省調べ(※「学校基本統計」二次利用により得たデータに合わせ、入学時の学部の所在地に再集計。)

外国人留学生の状況について

1 「留学生 30 万人計画」について

○ 「留学生 30 万人計画」は平成 20 年 1 月 8 日の第 169 回国会における福田内閣総理大臣の施政方針演説において発表された。

平成 25 年 6 月 14 日に閣議決定された「日本再興戦略」及び「第 2 期教育振興基本計画」において、平成 32 (2020) 年までに受け入れる外国人留学生を 30 万人に倍増することが明記された。

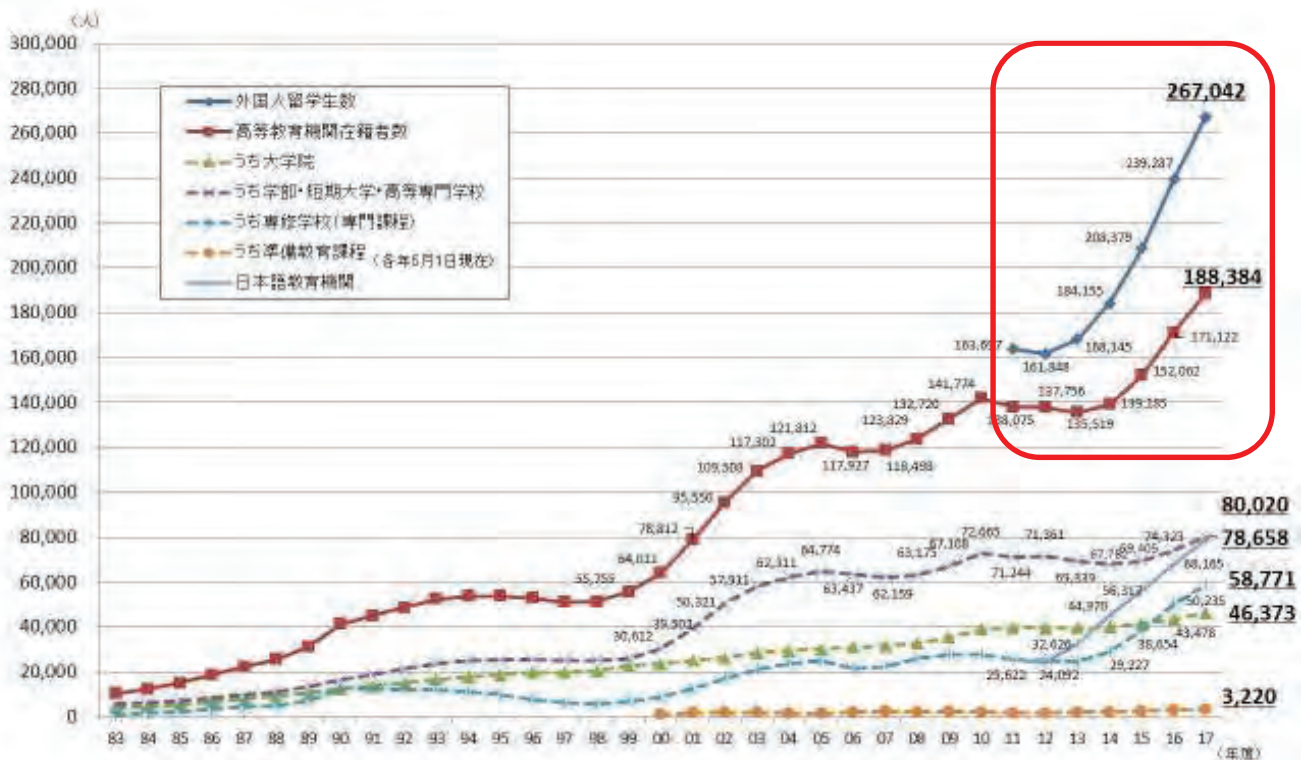
2 外国人留学生について

(1) 現状

平成 25 年度に約 16 万 8 千人であった外国人留学生は、平成 29 年度には 26 万人に達している。そのうち学部の正規生 1 年は 16,445 人である。

日本語教育機関だけでなく、学部生や専修学校（専門課程）でも着実に外国人留学生が増加しているところである。

○学校種別・外国人留学生在籍者数の推移



【出典】(独) 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

「出入国管理及び難民認定法」別表第 1 に定める「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)、我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関において教育を受ける外国人学生数(各年 5 月 1 日現在)

出入国管理及び難民認定法の改正(平成 21 年 7 月 15 日公布)により、平成 22 年 7 月 1 日付で在留資格「留学」「就学」が一本化されたことから、平成 23 年 5 月以降は日本語教育機関に在籍する留学生も含めた留学生数も計上

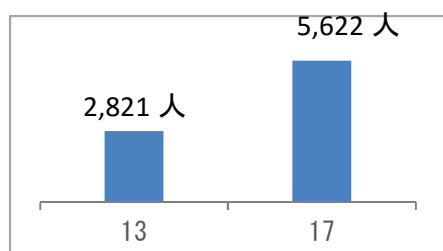
○外国人留学生正規生（1年生、高専のみ4年）（平成25～29年度）（単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29
大学院	14,227	14,445	15,390	16,210	17,578
学部	11,437	11,338	12,040	13,960	16,445
短期大学	560	511	577	664	907
高等専門学校（4年）	113	112	164	162	166
専修学校（専門課程）	12,512	17,514	23,805	28,452	34,069

【出典】(独)日本学生支援機構「留学生調査」の結果による。

留学コーディネーターを配置し、日本留学の魅力に関する情報発信の強化を図っている。

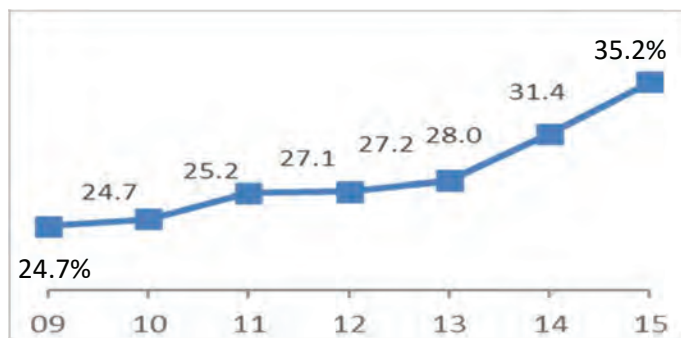
○留学コーディネーター配置国・地域からの外国人留学生数（高等教育機関）



内訳	2013年度	2017年度
インド	560人	964人
ミャンマー	1,193人	2,686人
サブサハラ	793人	1,587人
ブラジル	275人	385人

「留学生就職促進プログラム」による外国人留学生の国内企業への就職促進や奨学金等の支援など、受入環境の充実により、日本留学の魅力向上を図っている。

○外国人留学生の日本国内での就職率



(2) 外国人留学生に係る試算 ※ (独)日本学生支援機構「留学生調査」の結果に基づき試算

<2020年に外国人留学生が30万人となると仮定した場合>

外国人留学生における学部正規生1年生は

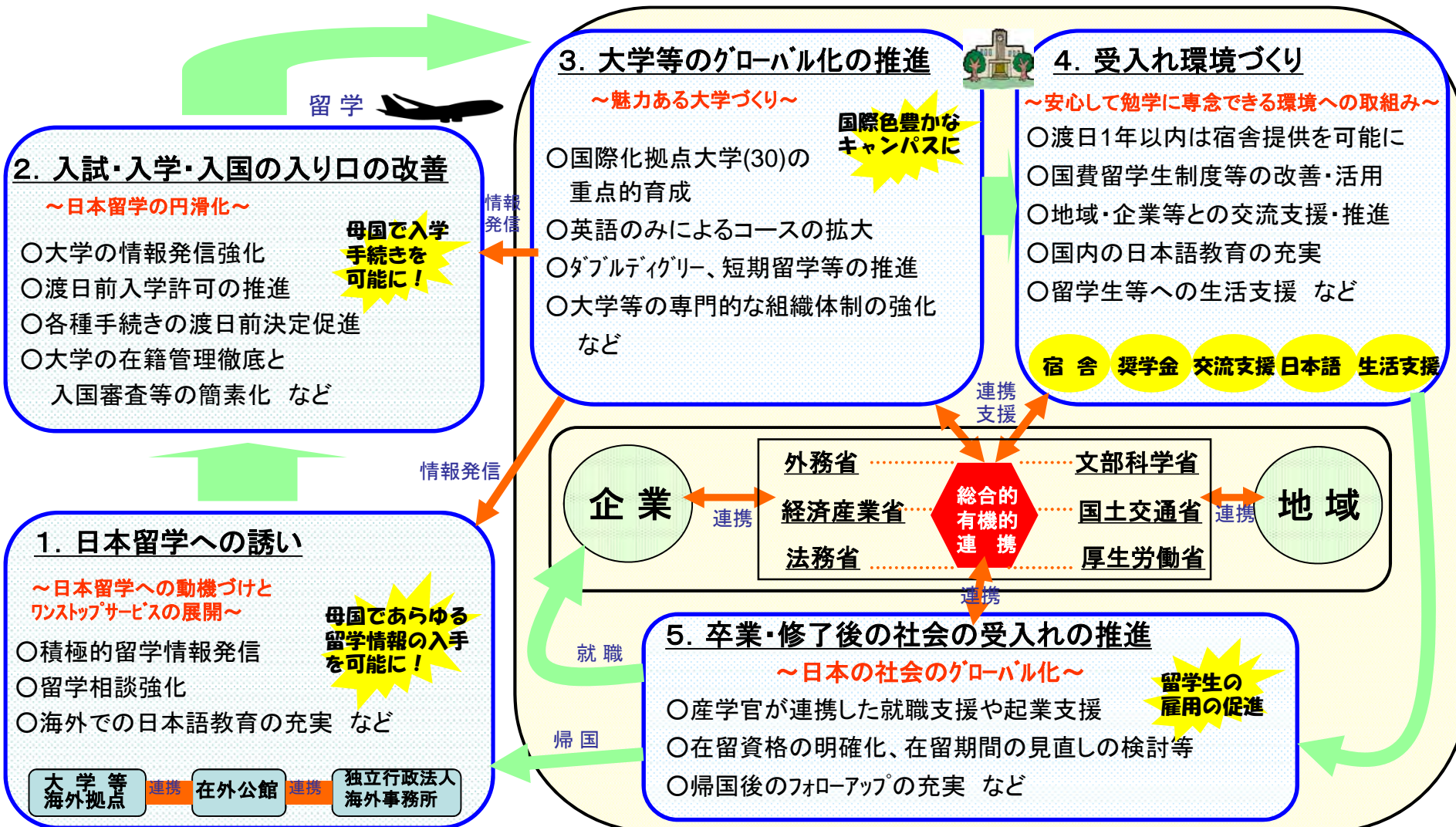
(2017年) 16,445人 → (2020年) 18,475人

【2,030人増加】

「留学生30万人計画」骨子の概要

ポイント

- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。
- ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
- ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進



社会人受講者・大学入学者の状況について

1 大学・専門学校等の社会人受講者数に係る KPI について

未来投資戦略 2017（平成 29 年 6 月 9 日閣議決定）において、2022 年までに大学・専門学校等の社会人受講者数を約 49 万人から 100 万人にするとの KPI が設定されている。

○「未来投資戦略 2017 II-A-3. 人材の育成・活用力の強化」（抜粋）

＜KPI＞2022 年までに大学・専門学校等の社会人受講者数*を約 49 万人から 100 万人にする。⇒2015 年：約 49 万人

※ 正規課程と短期プログラムの受講者数を合計した値。

正規課程 約 30 万人（61.7%）		短期プログラム 約 19 万人（38.3%）	
短期大学	受講者数 （通学・通信を含む）	短期大学	履修証明制度 科目等履修生制度 聴講生 の受講者数 （通学・通信を含む）
大学		大学	
大学院		大学院	
専修学校	受講者数	専修学校	科目等履修生制度 附帯事業 の受講者数

*一部推計値を含む。

2 社会人入学者数について

(1) 現状（平成 27～29 年度）

（単位：人）

	H27	H28	H29
短期大学（通学）入学者（25 歳以上）	1,358	1,185	1,166
大学（通学）入学者（25 歳以上）	3,999	3,876	3,888
大学院（通学）入学者（30 歳以上）	15,554	15,878	15,740
専修学校（専門課程）	11,139	10,319	9,760

【出典】学校基本調査

(2) 未来投資戦略 2017 の KPI に係る試算

＜2022 年に社会人受講者数が 100 万人となると仮定した場合＞

大学（通学）における 25 歳以上の入学者数は

(2017 年) 3,888 人 → (2022 年) 8,196 人

【4,308 人増加】

C1 富山・石川両県内大学の幼稚園・小学校・中学校教科・特別支援免許状況

富山県

	幼稚園	小学校	中学校										特別支援
			国語	数学	理科	社会	英語	保体	音楽	美術	家庭	技術	
富山大学	○	○		○	○	○	○	○	○				○
A大学	○	○											

石川県

	幼稚園	小学校	中学校										特別支援
			国語	数学	理科	社会	英語	保体	音楽	美術	家庭	技術	
金沢大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
A大学	○	○				○	○	○					○
B大学	○	○	○			○	○	○		○			
C大学	○	○					○						
D大学							○	○					
E大学	○					○							○
F大学				○	○								
G大学					○								
H大学										○			

北陸3県及び新潟県の公立小・中学校教員の年齢構成

令和元年度 学校教員統計調査より作成

区分	出生年	S34生	S35生	S36生	S37生	S38生	S39生	S40生	S41生	S42生	S43生	S44生	S45生	S46生	S47生	S48生
	H29年齢	現58歳	現57歳	現56歳	現55歳	現54歳	現53歳	現52歳	現51歳	現50歳	現49歳	現48歳	現47歳	現46歳	現45歳	現44歳
	H29年の60歳定年	H31定	H32定	H33定	H34定	H35定	H36定	H37定	H38定	H39定	H40定	H41定	H42定	H43定	H44定	H45定
	西暦年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年
富山県	小学校	158	129	134	118	112	92	113	81	46	52	57	46	58	47	66
	中学校	79	76	81	73	59	55	80	54	40	38	43	49	41	47	48
	高等学校	100	92	126	112	98	67	92	62	56	52	32	32	30	27	21
	特別支援	24	40	32	32	29	26	31	29	39	29	25	23	19	22	18
	計	361	337	373	335	298	240	316	226	181	171	157	150	148	143	153
	対今年度	100%	93%	103%	93%	83%	66%	88%	63%	50%	47%	43%	42%	41%	40%	42%
石川県	小学校	144	144	119	114	106	83	95	78	46	64	54	62	61	68	68
	中学校	104	95	97	71	66	50	51	55	32	32	28	28	46	37	33
	高等学校	94	90	91	80	79	70	77	52	28	25	37	29	41	39	37
	特別支援	40	22	22	29	29	17	28	19	14	8	15	17	9	9	14
	計	382	351	329	294	280	220	251	204	120	129	134	136	157	153	152
	対今年度	100%	92%	86%	77%	73%	58%	66%	53%	31%	34%	35%	36%	41%	40%	40%
福井県	小学校	134	142	146	114	114	82	113	97	62	50	64	64	58	89	60
	中学校	47	60	55	69	57	38	69	49	55	45	49	37	41	31	35
	高等学校	66	54	73	53	66	41	44	38	39	41	49	42	36	33	32
	特別支援	19	23	24	27	32	16	25	21	22	19	17	31	28	29	17
	計	266	279	298	263	269	177	251	205	178	155	179	174	163	182	144
	対今年度	100%	105%	112%	99%	101%	67%	94%	77%	67%	58%	67%	65%	61%	68%	54%
北陸3県	小学校	436	415	399	346	332	257	321	256	154	166	175	172	177	204	194
	中学校	230	231	233	213	182	143	200	158	127	115	120	114	128	115	116
	高等学校	260	236	290	245	243	178	213	152	123	118	118	103	107	99	90
	特別支援	83	85	78	88	90	59	84	69	75	56	57	71	56	60	49
	計	1009	967	1000	892	847	637	818	635	479	455	470	460	468	478	449
	対今年度	100%	96%	99%	88%	84%	63%	81%	63%	47%	45%	47%	46%	46%	47%	44%
新潟県	小学校	323	335	294	278	272	228	277	260	225	214	217	212	201	211	149
	中学校	160	181	158	205	186	128	184	139	161	142	156	130	145	143	97
	高等学校	156	156	142	160	167	135	147	134	132	125	162	139	164	140	125
	特別支援	54	59	74	76	67	58	65	59	74	60	51	59	54	52	53
	計	693	731	668	719	692	549	673	592	592	541	586	540	564	546	424
	対今年度	100%	105%	96%	104%	100%	79%	97%	85%	85%	78%	85%	78%	81%	79%	61%

区分	出生年	S49生	S50生	S51生	S52生	S53生	S54生	S55生	S56生	S57生	S58生	S59生	S60生	S61生	S62生	S63生
	H29年齢	現43歳	現42歳	現41歳	現40歳	現39歳	現38歳	現37歳	現36歳	現35歳	現34歳	現33歳	現32歳	現31歳	現30歳	現29歳
	H29年の60歳定年	H46定	H47定	H48定	H49定	H50定	H51定	H52定	H53定	H54定	H55定	H56定	H57定	H58定	H59定	H60定
	西暦年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年
富山県	小学校	66	68	57	63	59	52	52	65	72	70	68	76	83	93	112
	中学校	39	32	34	33	35	43	44	39	42	38	49	48	60	53	60
	高等学校	31	33	22	18	27	30	28	19	26	28	31	26	38	28	31
	特別支援	20	16	8	10	19	10	15	12	11	15	9	9	12	12	16
	計	156	149	121	124	140	135	139	135	151	151	157	159	193	186	219
	対今年度	43%	41%	34%	34%	39%	37%	39%	37%	42%	42%	43%	44%	53%	52%	61%
石川県	小学校	64	72	78	82	73	96	96	110	98	94	76	104	100	95	103
	中学校	52	39	44	45	40	48	40	50	39	31	42	53	64	58	54
	高等学校	36	29	32	34	37	42	28	35	30	22	48	37	48	41	44
	特別支援	11	10	10	12	12	14	7	16	18	15	13	14	13	14	11
	計	163	150	164	173	162	200	171	211	185	162	179	208	225	208	212
	対今年度	43%	39%	43%	45%	42%	52%	45%	55%	48%	42%	47%	54%	59%	54%	55%
福井県	小学校	74	72	64	70	68	43	47	52	51	62	63	61	71	68	57
	中学校	36	52	41	54	47	39	39	38	43	46	48	38	59	46	48
	高等学校	32	33	26	27	28	16	26	24	19	22	32	30	16	21	28
	特別支援	17	15	12	18	13	5	13	14	15	12	12	13	12	9	5
	計	159	172	143	169	156	103	125	128	128	142	155	142	158	144	138
	対今年度	60%	65%	54%	64%	59%	39%	47%	48%	48%	53%	58%	53%	59%	54%	52%
北陸3県	小学校	204	212	199	215	200	191	195	227	221	226	207	241	254	256	272
	中学校	127	123	119	132	122	130	123	127	124	115	139	139	183	157	162
	高等学校	99	95	80	79	92	88	82	78	75	72	111	93	102	90	103
	特別支援	48	41	30	40	44	29	35	42	44	42	34	36	37	35	32
	計	478	471	428	466	458	438	435	474	464	455	491	509	576	538	569
	対今年度	47%	47%	42%	46%	45%	43%	43%	47%	46%	45%	49%	50%	57%	53%	56%
新潟県	小学校	156	160	151	175	141	136	160	146	144	165	165	157	190	184	160
	中学校	94	95	94	110	94	90	100	100	80	78	70	87	90	84	78
	高等学校	106	84	83	62	61	42	34	28	25	31	25	26	22	33	28
	特別支援	41	39	38	35	23	22	31	22	21	24	19	21	19	17	16
	計	397	378	366	382	319	290	325	296	270	298	279	291	321	318	282
	対今年度	57%	55%	53%	55%	46%	42%	47%	43%	39%	43%	40%	42%	46%	46%	41%

令和2年3月卒業者の大学別就職状況〔教員養成課程〕

大 学 名	卒業者数 (A)	正規採用 (B)	臨時的任用 (C)	合計 (D)=(B+C)	令和2年3月 教員就職率 (正規+臨時) (D/A)	平成31年3月 教員就職率 (正規+臨時)	保育士への 就職率	大学院等 進学率	令和2年3月 教員就職率 (正規+臨時) (進学者+保育士除 く)	平成31年3月 教員就職率 (正規+臨時) (進学者+保育士除 く)	教員・保育士 以外への 就職率	その他 未就職率
北海道教育	686 (708)	284 (322)	112 (102)	396 (424)	57.7%	59.9%	0.3% (0.3%)	8.3% (7.5%)	63.2%	64.9%	29.0% (27.8%)	4.7% (4.5%)
弘 前	162 (165)	57 (59)	33 (30)	90 (89)	55.6%	53.9%	0.6% (2.4%)	4.3% (12.1%)	58.4%	63.1%	31.5% (27.3%)	8.0% (4.2%)
岩 手	164 (162)	77 (54)	18 (18)	95 (72)	57.9%	44.4%	0.6% (0.0%)	6.1% (8.0%)	62.1%	48.3%	30.5% (43.2%)	4.9% (4.3%)
宮 城 教 育	360 (357)	148 (151)	70 (63)	218 (214)	60.6%	59.9%	3.3% (1.4%)	8.9% (9.0%)	69.0%	66.9%	23.1% (26.3%)	4.2% (3.4%)
秋 田	127 (114)	53 (36)	23 (39)	76 (75)	59.8%	65.8%	8.7% (9.6%)	7.9% (4.4%)	71.7%	76.5%	21.3% (12.3%)	2.4% (7.9%)
茨 城	262 (263)	113 (131)	40 (47)	153 (178)	58.4%	67.7%	0.4% (0.4%)	13.7% (11.4%)	68.0%	76.7%	23.7% (14.8%)	3.8% (5.7%)
宇 都 宮	165 (149)	75 (65)	16 (30)	91 (95)	55.2%	63.8%	4.2% (2.0%)	9.1% (7.4%)	63.6%	70.4%	27.3% (26.2%)	4.2% (0.7%)
群 馬	226 (223)	126 (123)	26 (23)	152 (146)	67.3%	65.5%	0.0% (0.0%)	5.8% (11.2%)	71.4%	73.7%	22.1% (18.8%)	4.9% (4.5%)
埼 玉	433 (439)	170 (165)	35 (46)	205 (211)	47.3%	48.1%	3.2% (3.6%)	6.5% (10.0%)	52.4%	55.7%	35.6% (30.8%)	7.4% (7.5%)
千 葉	396 (423)	122 (171)	60 (66)	182 (237)	46.0%	56.0%	3.0% (2.1%)	6.8% (6.9%)	51.0%	61.6%	39.1% (29.8%)	5.1% (5.2%)
東 京 学 芸	848 (841)	289 (328)	112 (124)	401 (452)	47.3%	53.7%	0.7% (0.5%)	14.4% (15.6%)	55.7%	64.0%	31.7% (25.3%)	5.9% (4.9%)
横 浜 国 立	237 (222)	86 (89)	16 (13)	102 (102)	43.0%	45.9%	0.0% (0.0%)	11.8% (8.6%)	48.8%	50.2%	40.1% (38.7%)	5.1% (6.8%)
新 潟	229 (213)	106 (92)	24 (21)	130 (113)	56.8%	53.1%	0.0% (0.0%)	7.9% (6.1%)	61.6%	56.5%	28.8% (34.7%)	6.6% (6.1%)
上 越 教 育	163 (163)	77 (88)	31 (19)	108 (107)	66.3%	65.6%	4.3% (4.9%)	12.9% (13.5%)	80.0%	80.5%	16.6% (15.3%)	0.0% (0.6%)
金 沢	104 (102)	51 (45)	13 (11)	64 (56)	61.5%	54.9%	0.0% (0.0%)	4.8% (2.9%)	64.6%	56.6%	30.8% (35.3%)	2.9% (6.9%)
福 井	100 (101)	41 (33)	17 (18)	58 (51)	58.0%	50.5%	2.0% (0.0%)	8.0% (14.9%)	64.4%	59.3%	31.0% (34.7%)	1.0% (0.0%)
山 梨	124 (138)	53 (47)	10 (16)	63 (63)	50.8%	45.7%	4.0% (5.1%)	11.3% (15.2%)	60.0%	57.3%	28.2% (29.7%)	5.6% (4.3%)
信 州	249 (219)	99 (81)	47 (56)	146 (137)	58.6%	62.6%	0.0% (0.0%)	9.6% (8.7%)	64.9%	68.5%	28.9% (25.1%)	2.8% (3.7%)
岐 阜	246 (250)	102 (101)	29 (25)	131 (126)	53.3%	50.4%	0.0% (0.0%)	16.3% (15.6%)	63.6%	59.7%	28.9% (32.0%)	1.6% (2.0%)
静 岡	302 (288)	133 (115)	32 (40)	165 (155)	54.6%	53.8%	0.3% (0.3%)	8.3% (6.6%)	59.8%	57.8%	34.1% (34.4%)	2.6% (4.9%)
愛 知 教 育	696 (659)	310 (257)	131 (140)	441 (397)	63.4%	60.2%	2.2% (2.1%)	4.3% (7.4%)	67.7%	66.6%	28.3% (25.8%)	1.9% (4.4%)
三 重	204 (191)	89 (71)	20 (45)	109 (116)	53.4%	60.7%	3.9% (6.8%)	8.3% (7.9%)	60.9%	71.2%	32.4% (21.5%)	2.0% (3.1%)
滋 賀	245 (248)	122 (120)	31 (39)	153 (159)	62.4%	64.1%	3.3% (0.8%)	5.7% (6.5%)	68.6%	69.1%	26.1% (24.2%)	2.4% (4.4%)
京 都 教 育	326 (306)	107 (98)	59 (81)	166 (179)	50.9%	58.5%	3.4% (2.6%)	12.0% (14.4%)	60.1%	70.5%	29.1% (22.2%)	4.6% (2.3%)
大 阪 教 育	563 (564)	229 (216)	113 (129)	342 (345)	60.7%	61.2%	0.0% (1.1%)	6.0% (8.2%)	64.7%	67.4%	29.7% (24.3%)	3.6% (5.3%)
兵 庫 教 育	163 (167)	80 (64)	32 (52)	112 (116)	68.7%	69.5%	6.1% (3.0%)	6.7% (12.6%)	78.9%	82.3%	17.2% (13.8%)	1.2% (1.2%)
奈 良 教 育	254 (247)	97 (77)	62 (64)	159 (141)	62.6%	57.1%	1.6% (1.2%)	7.1% (8.1%)	68.5%	62.9%	25.2% (26.7%)	3.5% (6.9%)
和 歌 山	162 (141)	59 (52)	33 (37)	92 (89)	56.8%	63.1%	0.0% (0.0%)	8.0% (4.3%)	61.7%	65.9%	30.2% (30.5%)	4.9% (2.1%)
島 根	166 (168)	53 (46)	37 (58)	90 (104)	54.2%	61.9%	0.0% (1.2%)	12.0% (6.0%)	61.6%	66.7%	31.9% (23.2%)	1.8% (7.7%)
岡 山	281 (278)	109 (100)	36 (47)	145 (147)	51.6%	52.9%	2.8% (2.9%)	12.5% (11.2%)	60.9%	61.5%	31.0% (28.8%)	2.1% (4.3%)
広 島	160 (183)	72 (99)	9 (9)	81 (108)	50.6%	59.0%	0.0% (0.5%)	20.6% (13.1%)	63.8%	68.4%	21.3% (18.6%)	7.5% (8.7%)
山 口	186 (182)	92 (90)	15 (11)	107 (101)	57.5%	55.5%	0.5% (0.5%)	10.8% (8.2%)	64.8%	60.8%	25.3% (28.6%)	5.9% (7.1%)
鳴 門 教 育	111 (117)	58 (55)	22 (30)	80 (85)	72.1%	72.6%	0.9% (2.6%)	17.1% (9.4%)	87.9%	82.5%	6.3% (15.4%)	3.6% (0.0%)
香 川	164 (160)	82 (76)	24 (22)	106 (98)	64.6%	61.3%	1.8% (3.8%)	1.2% (5.6%)	66.7%	67.6%	28.7% (25.6%)	3.7% (3.8%)
愛 媛	168 (126)	84 (58)	17 (13)	101 (71)	60.1%	56.3%	3.6% (1.6%)	10.7% (13.5%)	70.1%	66.4%	21.4% (23.0%)	4.2% (5.6%)
高 知	126 (137)	55 (57)	23 (41)	78 (98)	61.9%	71.5%	9.5% (3.6%)	5.6% (2.9%)	72.9%	76.6%	17.5% (20.4%)	5.6% (1.5%)
福 岡 教 育	597 (515)	335 (224)	113 (131)	448 (355)	75.0%	68.9%	1.3% (0.8%)	6.5% (7.4%)	81.5%	75.1%	12.4% (18.3%)	4.7% (4.7%)
佐 賀	120 (96)	58 (43)	19 (14)	77 (57)	64.2%	59.4%	2.5% (0.0%)	5.8% (10.4%)	70.0%	66.3%	20.8% (24.0%)	6.7% (6.3%)
長 崎	228 (235)	112 (112)	31 (38)	143 (150)	62.7%	63.8%	6.6% (8.5%)	4.4% (7.7%)	70.4%	76.1%	21.1% (14.9%)	5.3% (5.1%)
熊 本	248 (243)	91 (94)	35 (39)	126 (133)	50.8%	54.7%	0.4% (0.0%)	8.1% (15.2%)	55.5%	64.6%	33.5% (25.9%)	7.3% (4.1%)
大 分	139 (112)	93 (58)	13 (13)	106 (71)	76.3%	63.4%	0.0% (5.4%)	7.9% (8.9%)	82.8%	74.0%	12.2% (17.0%)	3.6% (5.4%)
宮 崎	120 (145)	57 (55)	10 (32)	67 (87)	55.8%	60.0%	0.8% (0.0%)	17.5% (12.4%)	68.4%	68.5%	20.8% (18.6%)	5.0% (9.0%)
鹿 児 島	242 (235)	78 (68)	43 (47)	121 (115)	50.0%	48.9%	0.8% (0.0%)	7.4% (8.1%)	54.5%	53.2%	38.0% (34.0%)	3.7% (8.9%)
琉 球	98 (94)	32 (28)	25 (23)	57 (51)	58.2%	54.3%	0.0% (0.0%)	4.1% (7.4%)	60.6%	58.6%	31.6% (26.6%)	6.1% (11.7%)
計	11,350 (11,089)	4,816 (4,514)	1,717 (1,962)	6,533 (6,476)	57.6%	58.4%	1.8% (1.6%)	8.8% (9.5%)	64.4%	65.7%	27.6% (25.6%)	4.3% (4.8%)

(注1) 令和2年3月卒業者(令和2年9月30日現在)の数とし、()内は、平成31年3月卒業者(令和元年9月30日現在)の数である。
(注2) 「教員就職者」は、国公私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小・中・義務教育・高等・中等教育・特別支援学校の教員(養護教諭及び養老教諭を含む)として就職した者を指す。
(注3) 「臨時的任用」は、臨時的に病休、産休、育児休業などの代替教員等として任用された者を指す。
(注4) 「令和2年3月教員就職率(進学者+保育士除く)」は、卒業者数から大学院等への進学者と保育士への就職者を除いた数を母数とした場合の教員就職率(%)である。
(注5) 保育士とは、保育所および認定こども園(幼保連携型を除く)への就職者である。
※パーセントの表記は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。

富山県・石川県教員採用試験における富山大学・金沢大学の学生の状況

金沢大学

試験区分	県内採用合格者数				採用合格者数（金沢大学）								配属先（新卒者のみ）			
	採用年度				H29		H30		H31		R2					
	H29	H30	H31	R2	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	H29	H30	H31	R2
小学校	155	152	140	141	19	9	17	4	18	9	15	6	18	13	18	12
中学校	150	148	130	129	8	6	8	4	8	2	11	4	5	4	4	6
高等学校													2	4	3	3
特別支援学校	—	—	30	30	—	—	—	—	0	4	1	3	—	—	0	1
計	305	300	300	300	27	15	25	8	26	15	27	13	25	21	25	22

石川県では、中学校・高等学校の単位で採用が行われ、配属で中学校と高等学校に分かれる。

富山大学

試験区分	県内採用合格者数				採用合格者数（富山大学）								配属先（新卒者のみ）			
	採用年度				H29		H30		H31		R2					
	H29	H30	H31	R2	新卒		新卒		新卒		新卒		H29	H30	H31	R2
小学校		154	150	155	15		22		15		15		15	22	13	16
中学校		123	132	141	2		2		6		12		2	1	5	4
高等学校	0												1	1	1	
特別支援学校		15	14	22	1		2		1		3		1	2	1	5
計	0	292	296	318	18		26		22		30		18	26	20	26

富山県では、中学校・高等学校の単位で採用が行われ、配属で中学校と高等学校に分かれる。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する免許状等に応じて、配属時の学校種が変更になる場合がある。

C5-1.人間発達科学部の教育理念等と就職状況について

<教育理念>

人間発達科学部は、人間発達を広義の教育と位置づけ、人間の豊かな発達と環境との調和をめざすとともに、**生涯にわたって学習を支援できる教育人材**を育成しています。「人を教えるヒトを育てる学部」をキーワードに、教育学部で培われた教育技法の拡充と複雑化した人間環境の学際的追究を組合せることを通じ、地域社会において、**教員養成とともに人間の生涯学習を促進する教育人材の養成**を目的としています。

<ディプロマ・ポリシー>

[発達教育学科]

乳幼児期から高齢期に至るまでの、障害を含めた発達上の諸問題について専門的な知識を習得し、発達を促す保育、教育、福祉支援を立案・遂行する実践力を備えているか。

[人間環境システム学科]

自然科学から人文社会科学までの専門的知識を学際的アプローチを通じて習得し、健康、環境、国際、情報など人間環境に関わる複合的な問題を解決する実践力を備えているか。

<大学ホームページでの学部紹介>

「発達教育学科」と「人間環境システム学科」の2学科6コースを設けて、学校教員の養成にとどまらず、生涯教育時代にふさわしい教育人材を育てる先進的な教育カリキュラムを提供します。**学校教育・生涯教育・社会教育から企業内教育まで、広義の教育**の場面で活躍できる持続可能な自己教育力を持った人材の育成を目指しています。

人間発達科学部における職種別の推移

	H21年度卒	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	H28年度卒	H29年度卒	H30年度卒	R01年度卒	平均
一般企業・官公庁・その他就職	42.8%	38.5%	37.1%	34.2%	37.8%	43.4%	41.5%	48.5%	45.9%	52.9%	49.1%	42.9%
学校教員	36.9%	35.2%	31.7%	40.4%	35.4%	39.4%	38.0%	28.7%	38.2%	24.1%	33.9%	34.8%
保育士	5.3%	5.6%	7.8%	7.5%	4.9%	7.4%	4.1%	4.2%	5.3%	5.9%	6.4%	5.8%
医療福祉(社会福祉士等)	3.2%	4.5%	5.4%	2.5%	3.0%	1.1%	2.9%	3.6%	1.2%	2.9%	1.2%	2.9%
進学・その他	10.2%	15.1%	13.8%	14.3%	17.7%	8.6%	11.7%	15.0%	7.6%	12.4%	8.2%	12.2%
未就職	1.6%	1.1%	4.2%	1.2%	1.2%	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%	1.2%	1.4%
合計	98.4%	98.9%	95.8%	98.8%	98.8%	100%	98.2%	100%	98.2%	98.2%	98.8%	98.6%

・人間発達科学部の就職状況を見ると、一般企業、公務員、学校教員、社会福祉士などバランスよく職種がわかれて就職している。また、平成26・28年度の就職率(進学・その他を含む)が100%と高水準であることは特筆すべきことである。**教員以外の分野への就職率の高さは、「多様な教育人材の育成」を教育理念、ディプロマポリシー等として掲げている結果であり、多様な分野での本学部卒業生の評価の高さを示すもの**でもある。

C5-2.人間発達科学部の教員採用試験状況

公立学校教員採用試験等の受験・合格状況

1. 全国公立学校教員採用試験等受験・合格状況

	H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業						
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	
免許状取得者数	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	8	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	60	7	219	
延べ受験者数		37	17	2	3	59		49	14	3	2	68		41	18	2	2	63		33	28	3	3	67	
実受験者数		35	16	2	3	56		49	13	3	2	67		41	17	2	2	62		31	27	1	3	62	
延べ合格者数		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		22	18		3	43	
実合格者数		24	5		1	30		39	4	1	2	46		26	8		2	36		20	18		3	41	
延べ受験者合格率			65%	29%	0%	33%	51%		80%	29%	33%	100%	68%		63%	44%	0%	100%	57%		67%	64%	0%	100%	64%
実受験者合格率			69%	31%	0%	33%	54%		80%	31%	33%	100%	69%		63%	47%	0%	100%	58%		65%	67%	0%	100%	66%
就職者数		24	4	1	1	30		39	3	2	2	46		22	7	1	2	32		20	9	2	6	37	

※受験区分が中学校・高等学校一括の場合は、中学校に計上している

※免許状取得者数の計は、取得した実人数である。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

2. 富山県公立学校教員採用検査受験・合格状況

	H29採用 H28卒業						H30採用 H29卒業						H31採用 H30卒業						R02採用 R01卒業					
	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計	幼	小	中	高	特	計
免許状取得者数	35	68	73	66	4	100	30	84	85	82	16	115	28	75	73	69	9	106	23	59	70	69	7	228
受験者数		22	7		2	31		24	7		2	33		22	9		1	32		16	17		3	36
合格者数		15	2		1	18		22	2		2	26		15	6		1	22		15	12		3	30
受験者合格率			68%			58%		92%	29%		100%	79%		68%	67%		100%	69%		94%	71%		100%	83%
就職者数		15	2		1	18		22	1	1	2	26		13	5	1	1	20		16	4	1	5	26

※中学校・高等学校は一括で採用検査を実施しており、中学校に計上している。

※受験・合格時の学校種に関わらず、有する教員免許状に応じて、就職時の学校種が変更になることがある。

D1 オープンキャンパス等参加者数推移

富山大学（人間発達科学部）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開催日	8/9（火）	8/4（金）	8/8（水）	8/3（土）	8/4～16 （web開催）
参加者数	661	923	713	710	427

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンデマンド型によるWEB配信により実施した。

金沢大学（人間社会学域学校教育学類）

	平成28年度
	オープンキャンパス
開催日	8/9(火)・10(水)
参加者	1,139

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度
	キャンパス・ビジット	スタディプログラム	キャンパス・ビジット	スタディプログラム	キャンパス・ビジット	スタディプログラム	WEB CAMPUS VISIT
開催日	8/7(月)	8/8(火)	8/9(木)	8/10(金)	8/8(木)	8/9(金)	8/9(日)・10(月)
参加者	254	19	313	69	280	61	993

- ・平成29年度から従来のオープンキャンパスからキャンパスビジット・スタディプログラムへと開催形態を変更し、対象を絞った。
 キャンパスビジット：高校2年生以上（個人予約のみ・団体予約は不可）対象の従来のオープンキャンパス。
 スタディプログラム：高校1年生以上を対象とした各学類の講義を実際に体験し、大学での学びへの興味関心を深めてもらうプログラム
- ・平成29年度以降のキャンパスビジットは個人申込で2～3年のみ参加可
- ・平成29年度スタディプログラムは、台風による荒天のため、団体申込（60名：午前午後各30）がキャンセルがあり参加人数が少ない。
- ・平成30年度以降のスタディプログラムは個人申込のみ。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行拡大を受け、対面による開催からオンラインによる方法をとった。
- ・令和2年度WEB CAMPUS VISITの参加者数は、8/9・8/10配信のコンテンツ及び8/10のリアルタイムイベントの総アクセス数

富山大学

県内高校の進路相談教員との意見交換

「高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会」参加者数

(人間発達科学部の個別相談に参加した教員数)

参加者：人

高等学校所在地	H28	H29	H30	R1	R2
富山県	3	3	1	1	9
石川県	2	0	2	1	4
福井県	0	0	0	1	3
不明	0	3	2	2	0
合計	5	6	5	5	16

(参考：富山大学全体参加者数)

高等学校所在地	H28	H29	H30	R1	R2
富山県	42校 58名	47校 55名	45校 52名	45校 53名	—
石川県	34校 41名	38校 41名	34校 36名	28校 29名	—
福井県	6校 6名	8校 9名	4校 4名	6校 6名	—
新潟県	1校 1名	3校 3名	2校 2名	1校 1名	—
岐阜県	3校 3名	4校 4名	3校 3名	1校 1名	—
長野県	0	3校 3名	2校 2名	0	—
合計	86校 109名	103校 115名	90校 99名	81校 90名	—

※令和2年度は、学部ごとの個別相談のみ実施

金沢大学

「高校進路指導教諭と金沢大学との懇談会」参加者数

(人間社会学域学校教育学類の説明に参加した高校教員数)

参加者：人

高等学校所在地	H27	H28	H29	H30	R1	R2
石川県	39	38	34	28	36	3
富山県	3	8	5	12	3	1
福井県	8	7	5	10	4	0
長野県	0	0	1	1	2	0
合計	50	53	45	51	45	4

※R2は、対面とオンラインの併用開催のため、実施方法を変更しています。

D3 出前講義等の回数

富山大学人間発達科学部

(数字は学校数)

年度	大学見学	出張模擬授業	出張進学説明会
平成27年度	13	8	2
平成28年度	15	8	1
平成29年度	15	9	0
平成30年度	20	10	1
令和元年度	18	10	2
令和2年度*	12	3	2

※令和2年度は、9/15時点で受け付けているもの

金沢大学人間社会学域学校教育学類

(数字は学校数)

年度	キャンパスツアー ー (大学見学会)	出張講義	出張進学説明会
平成27年度	9	16	1
平成28年度	7	13	2
平成29年度	3	6	1
平成30年度	1	8	0
令和元年度	1	8	1
令和2年度*	0	0	0

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため、中止。

D4-1 富山県教育委員会と富山大学との連携事業

○連携協議会の設置

「富山県教育委員会・富山大学人間発達科学部連絡協議会」を設置し、毎年1回定期的に開催され、連携事業の実施報告や教員養成のあり方について意見交換を行っている。

○富山県主催の教育事業への学生派遣

富山県教育委員会と連携して、学生が地域の学校でボランティアとして実習活動を行っている。この派遣事業により、学生は多種多様な現場経験を積むことができるとともに、富山県内の学校現場に対して貢献している。

【連携事業例】

事業名	事業内容	H27	H28	H29	H30	R元
学びのアシスト	学生をアシスタントティーチャーとして派遣し、小学校現場で学級担任の補助を行う事業	65人	52人	45人	49人	57人
スタディ・メイト ジュニア	学生が学生支援員として派遣し、学修や友達とのかわり方につまづいている児童（発達障害等）のサポートをする事業	25人	16人	20人	14人	13人
観察実験アシスタント	小・中学校における理科の実験・観察に使用する設備の準備、授業補助、理科準備室の環境整備等を行う補助員として学生を派遣する事業	57人	44人	30人	33人	32人
英語学習パートナー派遣事業	学生を小学校現場に派遣し、小学校英語教育の補助を行う事業（H30～）				10人	10人
心のサポーター	心理系の大学生や大学院生を小中学校に派遣し、教員のもとで児童生徒の話し相手や悩み相談に応じることによって、学校の教育相談機能の充実を図る事業	14人	7人	11人	18人	11人

○富山県教員を対象にした教員免許更新講習の実施

富山大学で教員免許更新講習を実施しているが、その中で半数程度の講習について、人間発達科学部の教員が行っている。

○11年次教職員研修の実施

富山県教育委員会で実施している「11年次教職員研修」の一部において、人間発達科学部と富山県教育委員会の連携協定に基づいて教員が行っている。

○富山県総合教育センターへの大学教員派遣

本学部教員は「客員教員」としてセンターの事業内容について指導助言を行ったり、所員研修会において講演を行ったりしている。総合教育センターからも「教員採用セミナー」の講師や本学部附属研究実践総合センター客員教授として研究員の派遣を受け入れている。

○富山県教育委員会と連携した教職科目の開設

富山県教育委員会と連携した教職科目（地域教材研究（富山学））を開設している。この授業では、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事を講師として構成され、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、教材開発などの実践的指導力の向上を図っている。

D4-2 石川県教育委員会と金沢大学との連携事業

金沢大学では、平成16年度に、石川県教育委員会と連携に係る協定（「金沢大学と石川県教育委員会の連携に関する基本協定書」及び「職員の派遣に関する協定書」）を締結し、以下のような事業を行っている。

事業名	事業内容	実績	
		年度	派遣実績(のべ人数)
学校指導アドバイザー事業	本事業は、学校研究の質的向上を図ることを目的として、金沢大学人間社会学域学校教育学類が、石川県教育委員会との連携協定のもと、石川県内の学校における研究について学校教育学類教員をアドバイザーとして派遣している。	平成28	15
		平成29	13
		平成30	17
		令和元	16
		令和2	15

事業名	事業内容	実績	
		年度	受入実績(人)
学校教育学類研究員制度	学校教育学類研究員の制度は、金沢大学人間社会学域学校教育学類が、石川県教育委員会との連携協定のもと、県内の教員を研究員として受け入れ、個人研究に対する支援を行い、教員の資質向上を図ることを目的としている。	平成28	8
		平成29	6
		平成30	4
		令和元	3
		令和2	2

事業名	事業内容	実績	
		年度	派遣実績(人)
連携講座	金沢大学と石川県教育委員会との連携協定により、石川県内の教員を対象に学校教育学類および他学類の教員とともに連携講座の指導教員を行っている。	平成28	10
		平成29	11
		平成30	7
		令和元	17
		令和2	26

教諭の資質向上のための指標

< >:各成長に関する段階のキーワード

成長に関する段階 (教職経験年数の目安)		着任時に求める姿<理解>	基礎期<実践>	向上期<伸長>	充実・発展期<助言>	
			概ね教職経験 5年程度までの教員	概ね教職経験 10年程度までの教員	概ね教職経験 10年以上の教員	
資質能力		教員を志す者として、大学卒業時に身に付けておくべき知識・技能について理解している。	教育公務員としての自覚及び教員としての基礎的な力を身に付ける。	自身の専門性を向上させ、グループのリーダーとして牽引する意欲と力を身に付ける。	学校運営の中核的な役割を果たす存在として、よりよい学校づくりに参画する。	
教職としての素養	社会人として求められる基礎的な能力	・社会人としての一般常識や人権意識が身に付いており、豊かな人間性をもっている。 ・自分の考えを適切に伝えるなど、円滑なコミュニケーションを行っている。 ・他人の意見に謙虚に耳を傾けている。	・法令を遵守し、日常の服務を誠実かつ公正に遂行する。 ・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝えるなど円滑なコミュニケーションを行う。		・法令を遵守し、日常の服務を誠実かつ公正に遂行できるように助言する。 ・円滑なコミュニケーションにより、互いに助け合い支え合う雰囲気醸成する。	
	教育公務員の職責	・児童生徒への愛情と、教職に対する使命感や情熱をもっている。 ・探究心をもって学び続ける土台ができています。 ・守秘義務を理解している。	・富山を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもっている。 ・危機管理意識をもち、教育活動を実践している。 ・教育公務員としての使命を自覚している。 ・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。			
教職の実践	学習指導	授業の設計・展開	・学習指導要領を踏まえ、目標を明確にした指導計画の作成について理解している。 ・基本的な指導技術を身に付けている。	・学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいに迫るための指導計画の作成及び学習指導を行う。 ・学び合い等の場面を取り入れた授業展開を計画する。	・自校の特色を踏まえ、目指す児童生徒の姿を想定して目標を明確にし、指導と評価の計画を立てる。 ・身に付けた指導技術を生かし、児童生徒の思考力・判断力・表現力等や意欲をさらに高める工夫をする。	・自校や地域の特色に応じたカリキュラムを編成する。 ・個や集団に応じた効果的な指導方法を工夫して実践する。 ・若手教員等の指導上の課題に対して、提案したり助言したりする。
		授業の評価・改善	・学習評価の意義について理解し、実践しようとしている。	・児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、児童生徒の指導に生かす。	・適切な授業評価を行い、継続的な授業改善に取り組む。 ・児童生徒の学習状況に応じて、適切な補足的、発展的指導を行う。	・授業力向上に向けた自校の取組の課題を明らかにし、不断の授業改善を推進する。 ・自らの実践や研修会で得た情報を基に教職員に助言するなど、自らの知見を自校の教育活動に生かす。
	生徒指導	児童生徒理解	・児童生徒理解の意義を理解し、一人一人に向き合おうとしている。	・家庭環境等を意識して、児童生徒一人一人に向き合う。	・児童生徒を取り巻く環境を的確に捉え、児童生徒一人一人の理解を図る。	・児童生徒理解について、教職員相互で共通理解を図ることができるように、組織の環境を整える。
		児童生徒指導	・児童生徒指導の手立てを理解し、実践しようとしている。	・児童生徒と信頼関係を構築して、学習や生活の規律を確立する。 ・生徒指導上の問題を察知し、必要に応じて他の教員と連携しながら解決する。	・担当する学級や学年以外の生徒指導上の問題についても、共に対応したり、効果的な指導方法について考えたりする。	・児童生徒の観察や他の教職員からの情報を基に、自校の生徒指導上の課題を捉え改善策を提案し、組織的な対応を推進する。
	特別支援教育 インクルーシブ教育		・特別支援教育の理念を理解している。 ・特別支援教育に関わる指導・支援の計画や合理的配慮について理解している。	・合理的配慮について理解し、教育活動を実践する。 ・特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。	・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、学級経営等を行い、学年においても推進する。	・学校全体の視点から教育活動や基礎的環境の改善を推進する。 ・特別支援教育に係る関係機関との連携を推進する。
	チーム学校を支えるマネジメント	学級経営・学校運営	・学校組織及び学級担任の役割と職務内容を理解している。	・学校教育目標を理解し、学年・学級経営等の方針を立て、実践する。	・学年経営等に積極的に関わり、学校教育目標の実現に向けて、実践する。	・学校教育目標の実現に向けて、創意工夫を生かした特色ある学校づくりに参画する。
保護者、地域等との連携・協働		・保護者や地域等との連携・協働に前向きである。	・保護者、地域等と積極的に関わり、連携の土台となる信頼関係をつくる。	・保護者、地域等との信頼関係を基に関わりを深め、連携して活動する。	・保護者、地域、関係機関との連携・協働のネットワークを形成する。 ・保護者等への対応について、教職員に助言する。	
他の教職員との連携・協働		・組織の一員として自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。	・研修や同僚から積極的に学び、校内の課題に対して当事者意識をもって対応する。	・若手教職員のリーダー的役割を果たし、他の教職員と共に指導力の向上に努める。	・特色ある学校づくりに向けて、OJTを実践するとともに、企画・調整の力を発揮して、組織としての教育力を高める。	

石川県教員育成指標【教諭等】

資質・能力		ステージ	0：養成期 (養成段階)	1：基礎形成期 (若手教員)	2：充実発展期 (中堅教員)	3：学校全体への貢献期 (ベテラン教員)	4：後進の育成期 (再任用教員)
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 				
教職としての 素養	倫理観・使命感・ 責任感・教育的 愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 				
	コミュニケーション 能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 				
	向上心・創造力・ イノベーション 力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 				
学習指導	構想する力 (P)		<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の専門性や学習指導要領に関する基礎的な知識をもとに指導計画を立てることができる。 ・児童生徒の発達段階に関する基礎的な知識をもとに学習の手立てを講じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の専門性に関する知識を深め、学習指導要領に基づいた指導計画を立てることができる。 ・学級や学年の実態から課題を把握し、児童生徒の発達段階に応じた学習の手立てを講じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の確かな専門性を生かして指導計画を立てるとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の实態から課題を把握し、自校のカリキュラムマネジメントに対して適切な提案をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の高度な専門性や経験を生かして、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・自校のカリキュラムマネジメントについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の高度な専門性や豊かな経験を生かして、自校の学習指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。
	実践する力 (D)		<ul style="list-style-type: none"> ・板書・発問・机間指導等、学習指導に関する基礎的な技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する技術を高め、ねらいに応じた授業を展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する確かな技術を生かして授業を展開するとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する高度な技術や経験を生かして、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	
	評価する力 (C)		<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する知識を深め、学習状況を適切に評価し、授業を検証することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する確かな知識を生かして、学習状況を適切に評価し、授業を検証するとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に関する高度な知識や経験を生かして、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	
	改善する力 (A)		<ul style="list-style-type: none"> ・他者からの助言をもとに、授業改善を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を自覚し、他者からの助言を生かして授業改善を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら授業改善を進めるとともに、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を推進するため、若手教員等に積極的に関わり、指導・助言をすることができる。 	
生徒指導	児童生徒理解		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する知識を深め、個々の児童生徒の背景を理解することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒や学年の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の生徒指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。
	児童生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒と信頼関係を築くことの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する知識を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己を律する力を育成するための組織的な取組を主導することができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、専門家や外部機関と連携・協働して指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の課題解決に向けて、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	
	集団づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する知識を深め、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりのための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 	
学校組織 マネジメント	学校組織への 参画		<ul style="list-style-type: none"> ・学校における組織的な取組の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としての自覚を持って自己の役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題を的確に把握し、組織的な対応策を企画し、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の課題解決について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	OJT・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、積極的に経験を積み視野を広げている。 ・他者からの助言を生かし、自己の成長に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、若手教員等に手本を示すことができる。 ・若手教員等のメンターとして、指導・助言をすることができる。 			
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を深め、リスクを想定した行動ができる。 ・問題が発生したときに、速やかに報告・連絡・相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを想定し、未然に防止するための対策を実施することができる。 ・問題が発生したときに、組織の一員として迅速かつ適切に対応することができる。 		
	保護者や地域・外部 機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解し、連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との連携・協働について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		

石川県教員育成指標【養護教諭】

資質・能力		ステージ	0：養成期 (養成段階)	1：基礎形成期 (若手教員)	2：充実発展期 (中堅教員)	3：学校全体への貢献期 (ベテラン教員)	4：後進の育成期 (再任用教員)
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 				
教職としての 素養	倫理観・使命感・ 責任感・教育的 愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 				
	コミュニケーション 能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 				
	向上心・創造力・ イノベーション 力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 				
養護教諭の 専門領域	保健管理		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康状態等の把握と保健管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心身の疾病や障害を把握し、適切に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理の組織的対応について教職員を指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理の組織的対応ができるように、校内の連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、養護教諭の専門領域について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。
	保健教育	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の専門性や学習指導要領に関する基礎的な知識・技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の保健学習、保健指導の計画立案に参画し、児童生徒に指導をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に基づいた保健教育を実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の実態から課題を把握し、自校のカリキュラムマネジメントに対して適切な提案をすることができる。 		
	健康相談	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に伴う疾患及び健康相談に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康相談のプロセスを理解し、児童生徒の健康課題について教職員と連携し、早期に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題について、保護者や専門家と連携し、校内相談体制を整備することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体の専門性を高める校内研修を企画、運営し、校内相談体制の充実を図ることができる。 		
	保健組織活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保健組織活動に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員及び学校三師と連携し、保健組織活動の企画、運営に参画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な保健組織活動を実践し、適切に評価、改善を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の学校や関係機関と情報交換を行い、地域レベルで保健組織活動を推進することができる。 		
	保健室経営	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の役割及び保健室の機能に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題に応じた保健室経営計画を立案し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題に応じた組織的な保健室経営計画を立案し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康課題の分析方法や保健マネジメントについて若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
生徒指導	児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する知識を深め、個々の児童生徒の背景を理解することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒や学年の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の生徒指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒と信頼関係を築くことの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する知識を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己を律する力を育成するための組織的な取組を主導することができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、専門家や外部機関と連携・協働して指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の課題解決に向けて、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 		
	集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する知識を深め、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりのための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
学校組織 マネジメント	学校組織への 参画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における組織的な取組の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としての自覚を持って自己の役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題を的確に把握し、組織的な対応策を企画し、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の課題解決について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 		
	OJT・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、積極的に経験を積み視野を広げている。 ・他者からの助言を生かし、自己の成長に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、若手教員等に手本を示すことができる。 ・若手教員等のメンターとして、指導・助言をすることができる。 				
	危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を深め、リスクを想定した行動ができる。 ・問題が発生したときに、速やかに報告・連絡・相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを想定し、未然に防止するための対策を実施することができる。 ・問題が発生したときに、組織の一員として迅速かつ適切に対応することができる。 			
	保護者や地域・外部 機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解し、連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との連携・協働について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 			

石川県教員育成指標【栄養教諭等】

資質・能力		ステージ	0：養成期 (養成段階)	1：基礎形成期 (若手教員)	2：充実発展期 (中堅教員)	3：学校全体への貢献期 (ベテラン教員)	4：後進の育成期 (再任用教員)	
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・常日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 					
教職としての 素養	倫理観・使命感・ 責任感・教育的 愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 					
	コミュニケーション 能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 					
	向上心・創造力・ イノベーション 力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化を敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 					
栄養教諭の 専門領域	学校給食の栄養 管理		<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の役割に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・学校給食摂取基準に基づき、食品構成を考慮した献立を作成することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・栄養管理について、教職員、調理従事者等に指導・助言を行うことができる。 ・児童生徒の食に関する実態を把握し、適切な栄養管理のもとで地域や学校の特色に応じた献立を作成することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、栄養教諭の専門領域について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	学校給食の衛生 管理		<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における施設設備、調理従事者、食品保管等の衛生管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食衛生管理基準に基づいた日常点検等について、調理従事者等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食施設に応じた衛生管理の改善について、教職員、調理従事者等に指導・助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における衛生管理に関して、地域レベルで指導的役割を果たすことができる。 		
	食に関する指導		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた学校における食育に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食に関する実態を把握し、食育全体計画の立案に参画するとともに、指導や情報提供をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に基づいた食育を組織的に推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食に関する課題、地域の実情等をもとに、食育の成果と課題を把握し、地域レベルで食育を推進することができる。 		
	栄養相談		<ul style="list-style-type: none"> ・栄養相談の基本的なプロセスに関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、保護者と連携し、食物アレルギー等、児童生徒の食に関する健康課題に応じた指導をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、保護者と連携し、児童生徒の食に関する健康課題に応じた個別取組プランを作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の食に関する健康課題について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
生徒指導	児童生徒理解		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に関する知識を深め、個々の児童生徒の背景を理解することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒や学年の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の状況を的確に把握することができる。 ・特別な配慮を必要とする児童生徒の支援のために、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の生徒指導力の向上について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	児童生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒と信頼関係を築くことの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導に関する知識を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、組織の一員として連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己を律する力を育成するための組織的な取組を主導することができる。 ・児童生徒の課題解決に向けて、専門家や外部機関と連携・協働して指導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 ・学校全体の課題解決に向けて、専門家や外部機関との組織的な連携・協働を推進することができる。 		
	集団づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する基礎的な知識を身に付け、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに関する知識を深め、児童生徒間の共感的な人間関係を育てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりのための組織的な取組を主導することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりについて、若手教員等に指導・助言をすることができる。 		
学校組織 マネジメント	学校組織への 参画		<ul style="list-style-type: none"> ・学校における組織的な取組の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員としての自覚を持って自己の役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題を的確に把握し、組織的な対応策を企画し、実行することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな経験を生かして、自校の課題解決について、後進に対する指導・助言及び支援を行うことができる。 	
	OJT・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、積極的に経験を積み視野を広げている。 ・他者からの助言を生かし、自己の成長に努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの重要性を理解し、若手教員等に手本を示すことができる。 ・若手教員等のメンターとして、指導・助言をすることができる。 			
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する基礎的な知識を深め、リスクを想定した行動ができる。 ・問題が発生したときに、速やかに報告・連絡・相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクを想定し、未然に防止するための対策を実施することができる。 ・問題が発生したときに、組織の一員として迅速かつ適切に対応することができる。 			
	保護者や地域・外部 機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との信頼関係の重要性を理解し、連携・協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域等との連携・協働について、若手教員等に指導・助言をすることができる。 			

石川県教員育成指標【管理職】

資質・能力		ステージ	校長
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。
教職としての素養	倫理観・使命感・責任感・教育的愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。
	コミュニケーション能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。
	向上心・創造力・イノベーション力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化に敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。
学校組織マネジメント	学校経営		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョン及び学校経営計画を明確に示し、その実現に向けてリーダーシップを発揮することができる。 ・教育目標の実現のために、適切にカリキュラム・マネジメントを行うことができる。 ・学校評価を活用して学校経営の改善を図ることができる。
	人事管理・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務管理・健康管理を適切に行うことができる。 ・適切な人事評価を通して人材育成を行うことができる。 ・教職員の資質・能力の向上のために、効果的な校内研修体制を構築することができる。
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、平日頃から学校安全・事故防止、教職員の法令遵守のための対策を講じている。 ・緊急時に迅速に状況を把握し、教職員に的確な指示を行うとともに、関係機関と連携して組織的に対応することができる。
	保護者や地域・外部機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の方針や取組について積極的に情報発信するとともに、保護者や地域のニーズを的確に把握し、外部機関等と連携・協働する体制を構築することができる。

資質・能力		ステージ	副校長・教頭	部主事
社会人に求められる基礎的な能力			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてふさわしいルールやマナーを身に付けている。 ・平日頃から、教養を高めるための努力をしている。 ・心身の健康を良好に保つための自己管理をすることができる。 	
教職としての素養	倫理観・使命感・責任感・教育的愛情		<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守するとともに、公平・公正に職務を行うための高い倫理観と規範意識を持っている。 ・教育公務員としての崇高な使命を自覚し、その職責を果たすことの重要性を理解している。 ・人権尊重の理念を認識し、多様な児童生徒を受容する姿勢を身に付けている。 ・児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 	
	コミュニケーション能力		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なコミュニケーションにより、他者と信頼関係を築くことができる。 ・相手の思いや考えをよく汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、意思の疎通を図ることができる。 	
	向上心・創造力・イノベーション力		<ul style="list-style-type: none"> ・向上心と探究心を持ち、常に専門性の向上に努めている。 ・論理的・批判的に思考・判断し、行動することができる。 ・社会の変化に敏感に感じ取り、新しいことにチャレンジしようとする意欲を持っている。 ・創造力を発揮して課題の解決を図ることができる。 	
学校組織マネジメント	学校経営		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョン及び学校経営計画の実現のために、校長（及び副校長）を補佐し、主任等に対して適切な指示・指導・助言を行うことができる。 ・校長（及び副校長）を補佐し、適切なカリキュラムマネジメントを行うための組織的・体系的な取組を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョン及び学校経営計画に基づいた学部運営を実施するために、校長及び教頭を補佐し、主任等に対して適切な指示・指導・助言を行うことができる。 ・校長及び教頭を補佐し、学部において適切なカリキュラムマネジメントを行うための組織的・体系的な取組を推進することができる。
	人事管理・人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・校長（及び副校長）を補佐し、教職員の服務管理・健康管理を適切に行うことができる。 ・適切な人事評価を通して人材育成を行うことができる。 ・校長（及び副校長）を補佐し、教職員の資質・能力の向上のために、組織的・体系的な取組を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長及び教頭を補佐し、学部所属する教職員の服務管理・健康管理を適切に行うことができる。 ・校長及び教頭を補佐し、学部所属する教職員の資質・能力の向上のために、組織的・体系的な取組を推進することができる。
	危機管理		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、平日頃から学校安全・事故防止、教職員の法令遵守のための情報収集に努めている。 ・緊急時に迅速に状況を把握し、校長（及び副校長）の指示のもと、的確に対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクを想定し、平日頃から学校安全・事故防止、教職員の法令遵守のための情報収集に努めている。 ・緊急時に迅速に状況を把握し、校長及び教頭の指示のもと、的確に対応することができる。
	保護者や地域・外部機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のニーズを的確に把握し、校長（及び副校長）の指示のもと、外部機関等との連携・協働を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のニーズを的確に把握し、校長及び教頭の指示のもと、外部機関等との連携・協働を推進することができる。

令和3年5月18日

富山大学長
齋藤 滋 様富山県教育委員会
教育長 萩布 佳子

富山大学・金沢大学共同教員養成課程設置構想に関する要望書

日頃より、本県教育の充実・発展及び教員の養成にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

これまで貴学人間発達科学部には、多くの優位な人材を本県教育界に輩出していただいております。今般、金沢大学との連携による新たな共同教員養成課程の設置構想については、当教育委員会としても期待を寄せているところであり、積極的に連携を図っていきたく考えております。

近年、人口減少の加速化と人口構成の変化に加え、急速な技術革新やグローバル化・情報化の進展など、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。本県においても新学習指導要領への対応、いじめや不登校の問題、特別支援教育の充実に加えてポストコロナの「新たな日常」の実現など、課題が山積しています。このような課題の解決のため、より高い専門性と実践力を備えた教員の養成が重要と考えます。

つきましては、現在、貴学が金沢大学と進めている共同教員養成課程の設置について、下記のことにご配慮いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 小学校・中学校両方の免許状を所有する教員の養成について

本県では、義務教育9年間の継続性及び小学校と中学校の接続を意識した教育活動の展開が重要と考えており、学校課題の解決や教員の資質向上に向けて、小・中連携を意識した教育活動や、小・中学校間の交流の取り組みが行われています。また、近年、少子化を見据え、地域において義務教育学校等の設置の動きも出ています。

これらのことから新規に採用する教員について、小・中学校両方の免許状を取得していることは望ましいと考え、新たに設置される共同教員養成課程において両校種の免許状が取得できる体制を要望します。

2. 中学校9教科及び高等学校10教科の教員免許が取得できる教育課程の設置について

本県の教育水準の維持・向上のためには、より多くの教科等において安定的に教員を配置できることが非常に重要であることから、新たに設置される共同教員養成課程により、中学校9教科及び高等学校10教科の教員養成を長期的かつ安定的に実施していただくことを要望します。また、本県における教員養成の一層の充実のため、技術科、情報科の教員免許が取得できる体制の将来的な整備も要望します。

3. 特別支援学校教員養成の充実等について

全国における特別支援学校の教員の特別支援学校教諭免許保有率は84.9%（令和2年度）であり、特別支援学校教員免許を保有する教員の養成が急務となっています。また、近年は少子化が進行している中で発達障害を含む特別な支援を必要とする子供たちは増加している一方で、これを支援する教育的専門性を持った教員の養成は追いついていない状況です。インクルーシブ教育システムの充実の必要性が高まっている現在、今回、新たに設置される共同教員養成課程において、特別支援教育の専門基礎的内容を教員養成課程全体に拡大することにより、特別支援教育の理解とスキルを持った教員を養成し、さらに4領域の特別支援学校教諭免許を取得した学生を特別支援学校だけでなく、小・中学校に輩出していくことの意義は大きなものであり、大いに期待しています。加えて、将来的には5領域の免許が取得できる体制の整備も要望します。

令和3年4月14日

富山大学長
齋藤 滋 様

富山県高等学校長協会
会長 本江 孝



富山大学・金沢大学共同教員養成課程設置構想に関する要望書

日頃より、本県の高等学校等の教育活動等に対してご支援・ご指導いただき誠にありがとうございます。

さて、今般、貴学と金沢大学との連携による共同教員養成課程の設置構想については、高度化・複雑化する学校現場における現代的な教育課題に対応した先進的教育科目の設置、小・中学校の接続や発達支援の充実に対応する教育免許の取得体制の構築、両大学の人的リソースを合わせることによる質の高い教育の提供など、両大学の特色を活かした共同教育のシナジー効果が期待できます。こうした構想によって、現代的な教育課題に対応できる教員養成課程において、幅広い専門分野の指導を地元の大学で受けられることは、教員を目指す高校生にとって大変魅力的なものであり、また当協会としても大いに期待しております。

つきましては、新たな共同教員養成課程の設置の際には、下記の点にご配慮いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 中学校(高校)9教科の教員免許が取得できる教育課程の設置について

中学校学習指導要領を実施していく上で必要となる中学校(高校)9教科の教員免許の取得が可能となる体制ができるようお願いします。本県における教員養成の拠点である貴学において、より多くの教科の教員養成が長期的にかつ安定的に維持できるよう要望します。

2. 特別支援学校教諭免許の5領域取得可能な教育課程の設置について

本県の特別支援学校では、障害のある児童・生徒への指導力向上のためにも、教員の特別支援学校免許状保有率をあげるべく努めているところです。特別支援学校により多くの専門性の高い教員を確保するためにも、より多くの領域免許が取得できる課程の設置を要望します。今般の設置構想では従来よりも取得できる領域が増え、4領域の取得が可能になるとのことで、本県の特別支援教育のために是非ともこの設置を進めていただくことを希望しますが、加えて将来的には5領域の免許が取得できる体制の整備も要望します。

3. 現代的な教育課題に対応できる先駆的教員の養成について

我が国の人口減少は深刻であり、少子化による生産年齢人口の減少や高齢化が大きな問題となっています。特に教育の観点からは、少子化と18歳人口の減少への対応が必須であり、そうした中での地方における教員養成課程の維持が課題となっています。

また、デジタル革命やグローバル化がかつてないスピードで進む中、持続可能なインクルーシブ社会経済システムとして、Society5.0の実現に向けた取り組みも加速している一方、過度な一極集中などによる地方の活力の低下、加えてポストコロナの「新たな日常」の実現などの課題も山積しています。教育現場は、こうした社会の変化と課題に対応していかなければなりません。

このような課題に対応できる、より高い専門性と実践力を備えた教員を養成できる課程の設置を要望します。

教学第727号
令和3年7月30日

金 沢 大 学
学 長 山 崎 光 悦 様

石 川 県 教 育 委 員 会
教 育 長 徳 田 博



金沢大学と富山大学との共同教員養成課程設置に係る意見書

日頃より、本県の児童生徒の学力向上及び教員の指導力向上に御尽力いただいているとともに、これまで多年にわたり有為な人材を本県の教員として学校現場に輩出いただいていることに厚く御礼申し上げます。

今般の金沢大学と富山大学との共同教員養成課程につきましては、貴大学からの趣旨説明を受け、県教育委員会として、金沢大学への進学指導を行っている高等学校長からの意見聴取を行ってきました。高等学校長からは、「金沢大学については富山大学に比べメリットが少ないこと」「オンライン授業が現状より増加すること」「学位記の表記が富山大学・金沢大学の順で併記となること」などから、金沢大学の魅力が低下するのではないかと懸念する多くの声や「高校生や保護者に対して共同教員養成課程設置の具体的なメリットをわかりやすく発信して欲しい」との要望もありました。

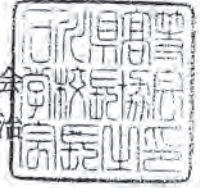
県教育委員会としては、こうした学校現場が抱える懸念が払拭されるとともに、金沢大学の魅力が向上し、金沢大学から本県の教員として優秀な人材をこれまで以上に多く輩出していただきたいと考えており、以下3点について意見を申し述べます。

- 1 学校教育学類の募集定員及び各校種・科目・領域における教員免許状取得体制の維持について
今後の児童生徒数の減少により教員需要の減少が予想される中、今後も長期にわたり金沢大学学校教育学類の募集定員を維持していただくとともに、小学校教諭、中学校・高等学校教諭の各教科及び特別支援学校教諭の各領域の教員免許状の取得が可能である体制を維持していただきたい。
- 2 教員になることを目指し金沢大学を志望する地元高校生にとっての魅力の向上について
今般の共同教員養成課程の設置により、金沢大学の魅力が低下することなく、設置の相乗効果により、金沢大学の魅力の一層の向上につなげていただきたい。学校現場では、SDGs教育の推進、GIGAスクール構想の実現など、現代的な教育課題に対応できる質の高い教員が求められており、金沢大学においては、これらに対応できるカリキュラムの開発と充実に取り組み、教員を目指す地元高校生に対して、学校現場で役立つ実践力を身につけることができることをわかりやすく丁寧に説明いただきたい。
- 3 本県の教育力を維持向上するための質の高い教員の養成及び安定した輩出について
本県では、教員採用試験の受験者、採用候補者ともに金沢大学出身者が最も多く、本県の教育力は、金沢大学卒業の教員の資質能力に負うところが極めて大きい状況にあります。共同教員養成課程の設置により、学校現場でリーダーとして活躍できる質の高い教員を養成し、これまでに以上に本県の学校現場に安定して輩出いただきたい。

石高長第25号
令和3年7月14日

金沢大学
学長 山崎 光悦 様

石川県高等学校長協会
会長 中村 義治



金沢大学と富山大学との教員養成における
共同教員養成課程設置に係る意見書

現在、検討が進められている金沢大学と富山大学との共同教員養成課程につきましては、これまでに、本県の高等学校長協会大学入試対策特別委員会及び高等学校進路指導協議会総会の場合において、金沢大学より説明をいただいたところです。説明をお聞きした学校長及び進路指導担当教諭からは、「富山大学の大きな変更 비해、金沢大学については現状とそれほどの変更はなくメリットが少ないこと」、「現在行われている対面授業のうち 31 単位分を、オンラインを含め富山大学から取得しなければならないこと」、「学位記が金沢大学単独表記から富山大学・金沢大学の順で併記になること」などから、金沢大学の魅力が低下するのではないかと心配の声が寄せられています。石川県高等学校長協会としては、今般の設置にあたっては、そうした懸念が払拭され金沢大学の魅力が向上するよう、以下2点について意見を申し述べます。

1. 各校種・科目・領域に係る教員免許状取得可能性の維持

金沢大学は、これまで、本県の学校教育を担う教員の養成と輩出に大きな役割を果たしてきておられますが、現在少子化が進んでおり、今後の児童生徒数の減少によって教員需要の減少が予想され、ひいては、学校教育学類の縮小が懸念されます。そのような中であっても、今後も長年にわたり、金沢大学において、小学校教諭、中学校・高等学校教諭の各教科及び特別支援学校教諭の各領域の教員免許状の取得が可能であることを、是非とも維持していただきたい。

2. 金沢大学の魅力の向上

今般の共同教員養成課程の設置により、金沢大学の魅力が低下することなく、設置の相乗効果により金沢大学の魅力の一層の向上につなげていただきたい。具体的には、新学習指導要領が既に小中学校でスタートし、高校では来年度より学年進行でスタートする中、探究的な学びの充実、SDGs教育の推進、GIGAスクール構想の実現など、現代的な教育課題にも対応できる質の高い教員の育成が求められており、これまでの取組の一層の充実に加え、こうした教育課題にも対応できるカリキュラムの開発とその充実にしっかりと取り組んでいただきたい。

また、本県には、教員を目指すために地元にある金沢大学を志望する高校生が多くおります。しかし、現時点での金沢大学及び富山大学には、入学に必要な学力には明らかな差があり、今般の共同教員養成課程設置による変更は来春の受験を控える高校生の進路決定に影響を与えることから、設置に係る変更点やそのメリット等について、高校生及び保護者に対し、早い時期に、具体的にわかりやすいメッセージを出し、広報していただきたい。